

坂出市在宅介護実態調査 結果報告書

**令和5年8月
坂出市 かいご課**

目次

I 在宅介護実態調査の概要	1
1 アンケート調査の目的	1
2 アンケート調査の実施概要	1
(1) 対象者と期間	1
(2) 調査の方法・手順・見方	1
3 集計・分析における留意点	2
II 単純集計結果	3
I 基本調査項目（A票）	3
(1) 世帯類型	3
(2) 家族等による介護の頻度	4
(3) 主な介護者の本人との関係	5
(4) 主な介護者の性別	6
(5) 主な介護者の年齢	7
(6) 主な介護者が行っている介護	8
(7) 介護のための離職の有無	10
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	11
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	12
(10) 施設等検討の状況	13
(11) 本人が抱えている傷病	14
(12) 訪問診療の利用の有無	16
(13) 介護保険サービスの利用の有無	17
(14) 介護保険サービス未利用の理由	18
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	20
(1) 主な介護者の勤務形態	20
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	21
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	23
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	25
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	26
3 要介護認定データ	28
(1) 年齢	28
(2) 性別	29
(3) 二次判定結果（要介護度）	30
(4) サービス利用の組み合わせ	31
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	32

(6) 通所系サービスの合計利用回数	33
(7) 短期系サービスの合計利用回数	34
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	35
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	36
II クロス集計結果	37
I 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	37
1.1 集計・分析の狙い	37
1.2 集計結果の傾向	37
(1) 要介護度・世帯類型別の施設等検討の状況	37
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う主な介護者が不安に感じる介護	39
(3) サービス利用組み合わせ別の主な介護者が不安に感じる介護	41
(4) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴うサービス利用の組み合わせ	43
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	46
2.1 集計・分析の狙い	46
2.2 集計結果の傾向	46
(1) 就労状況別の主な介護者等の基本属性	46
(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	50
(3) 就労状況、就労継続見込み別の介護保険サービスの利用状況と主な介護者が不安に感じる介護	53
(4) 就労状況別のサービス利用の組み合わせの状況	56
(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	56
(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	58
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	62
3.1 集計・分析の狙い	62
3.2 集計結果の傾向	62
(1) 世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	62
(2) 世帯類型×要介護度×保険外の支援・サービスの利用状況	64
(3) 世帯類型×要介護度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	68
(4) 認知症自立度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	72
4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	73
4.1 集計・分析の狙い	73
4.2 集計結果の傾向	73
(1) 世帯類型別の要介護度	73
(2) 世帯類型別の家族等による介護の頻度	74
(3) 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別のサービス利用の組み合わせ	74
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	78
5.1 集計・分析の狙い	78
5.2 集計結果の傾向	78
(1) 要介護度別の主な介護者が行っている介護	78
(2) 世帯類型別、要介護度別の訪問診療の利用割合	80

(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	81
(4) 要介護度別の抱えている傷病	82
(5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	83
6 サービス未利用の理由など	84
6.1 集計結果の傾向	84
(1) 要介護度別のサービス未利用の理由	84
IV 独自設問	85

I 在宅介護実態調査の概要

1 アンケート調査の目的

本アンケート調査（以下、本調査）は、第9期介護保険事業計画において、これまでの「地域包括ケアシステムの構築」という観点に加え、「介護離職をなくしていくためにはどのようなサービスが必要か」といった観点も盛り込み、「高齢者等の適切な在宅生活の継続」と「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方の把握方法等を検討することを目的として実施したものです。

2 アンケート調査の実施概要

(1) 対象者と期間

本調査の対象は、在宅で生活している要支援・要介護者のうち対象機関に「要支援・要介護認定の更新申請・区分変更申請」を行い、認定調査を受けた人です。

したがって、医療機関に長期入院している人、特別養護老人ホーム・老人保健施設・介護療養型医療施設・特定施設・グループホーム・地域密着型特定施設・地域密着型特別養護老人ホームに入所または入居している人は、調査の対象とはなっていません。

なお、特定施設入居者生活介護または地域密着型特定施設入居者生活介護の指定を受けていない有料老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅などの入居者は在宅として、本調査の対象としています。

【対象者と回収状況】

対象者	対象者件数	回収件数	回収率
要支援・要介護認定者 (更新・変更申請)	474 件	265 件	55.9%

(2) 調査の方法・手順・見方

(1) の対象者のかたが、要介護認定の訪問調査を受ける際に、認定調査員が、主として認定調査の概況調査の内容を質問しながら、本調査の調査票に関連内容を転記する方法で調査を行いました。なお、主な介護者が認定調査に同席している場合は、主な介護者からも聞き取りを行いました。

【調査方法・手順】

STEP 1	・認定調査の訪問時に、本調査を同時に実施し、回答票に記入する。
STEP 2	・回答票をデータ化する
STEP 3	・認定調査終了後は、通常の認定事務のプロセスで処理を行い審査会の二次判定を経て、認定結果を認定ソフト 2009 から CSV ファイルで出力する。
STEP 4	・アンケート調査の結果と認定調査の結果を「被保険者番号」で関連付けて、両データを合わせた詳細な分析を行う。

3 集計・分析における留意点

本集計・分析では、介護保険サービスの利用回数・利用の組み合わせ等に着目した集計・分析を行うため、介護保険サービスを大きく「訪問系」、「通所系」、「短期系」の3つに分類して集計しています。なお、介護保険サービスの中には、介護予防・日常生活支援総合事業を通じて提供される「介護予防・生活支援サービス」も含まれます。

それぞれ、用語の定義は以下のとおりです。

【サービス利用の分析に用いた用語の定義】

用語		定義
未利用		・「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用しているかたについては、未利用としています。
訪問系		・（介護予防）訪問介護、（介護予防）訪問入浴介護、（介護予防）訪問看護、（介護予防）訪問リハビリテーション、（介護予防）居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護を「訪問系」として集計しています。
通所系		・（介護予防）通所介護、（介護予防）通所リハビリテーション、（介護予防）認知症対応型通所介護を「通所系」として集計しています。
短期系		・（介護予防）短期入所生活介護、（介護予防）短期入所療養介護を「短期系」として集計しています。
その他	小規模多機能	・（介護予防）小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計しています。
	看護多機能	・看護小季多機能型居宅介護を「看護多機能」として集計しています。
	定期巡回	・定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計しています。

【サービス利用の分析に用いた用語の定義】

用語		定義
未利用		・上表に同じ
訪問系のみ		・上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計しています。
訪問系を含む組み合わせ		・上表の「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「短期系」、「訪問系（もしくは定期巡回）」＋「通所系」＋「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計しています。
通所系・短期系のみ		・上表の「通所系」、「短期系」、「通所系」＋「短期系」利用を集計しています。

Ⅱ 単純集計結果

Ⅰ 基本調査項目（A票）

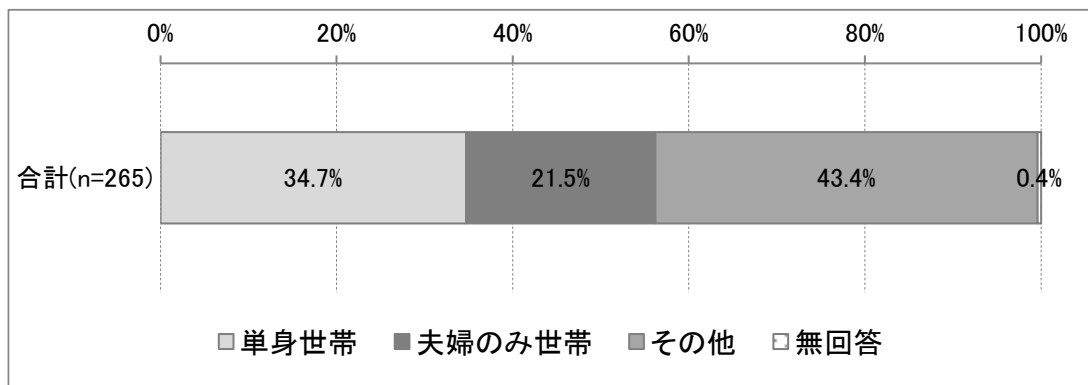
(Ⅰ) 世帯類型

「その他」の割合が最も高く43.4%となっています。次いで、「単身世帯」(34.7%)、「夫婦のみ世帯」(21.5%)となっています。

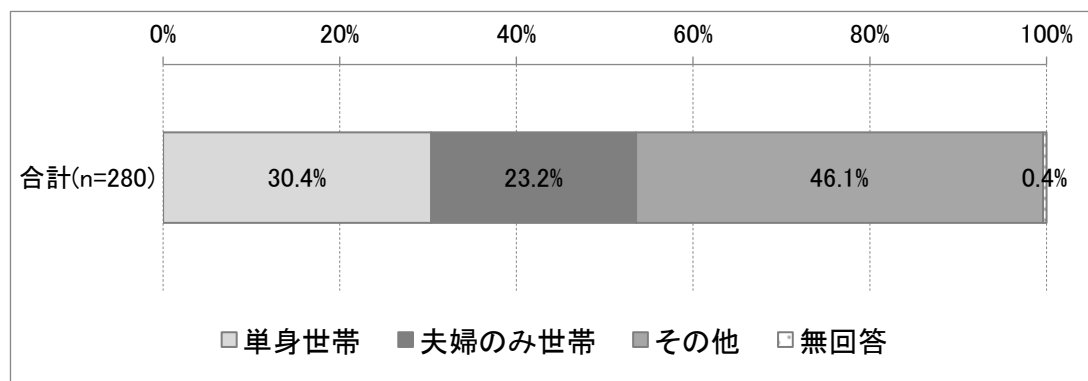
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-1 世帯類型（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



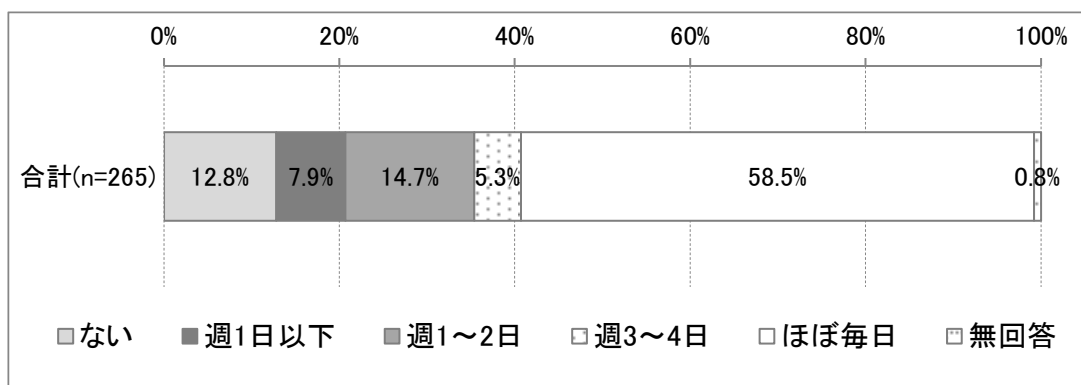
(2) 家族等による介護の頻度

「ほぼ毎日」の割合が最も高く 58.5%となっています。次いで、「週1～2日」(14.7%)、「ない」(12.8%)となっています。

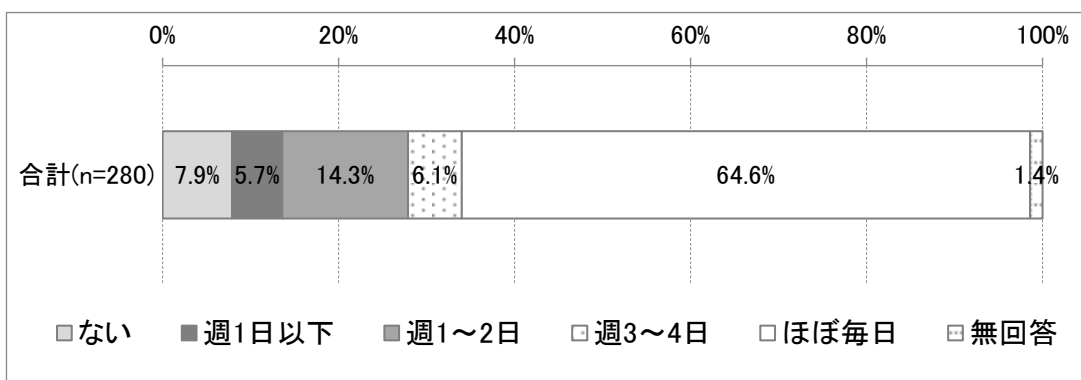
令和2年度調査と比較すると、「ほぼ毎日」が6.1ポイント減少しています。

図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



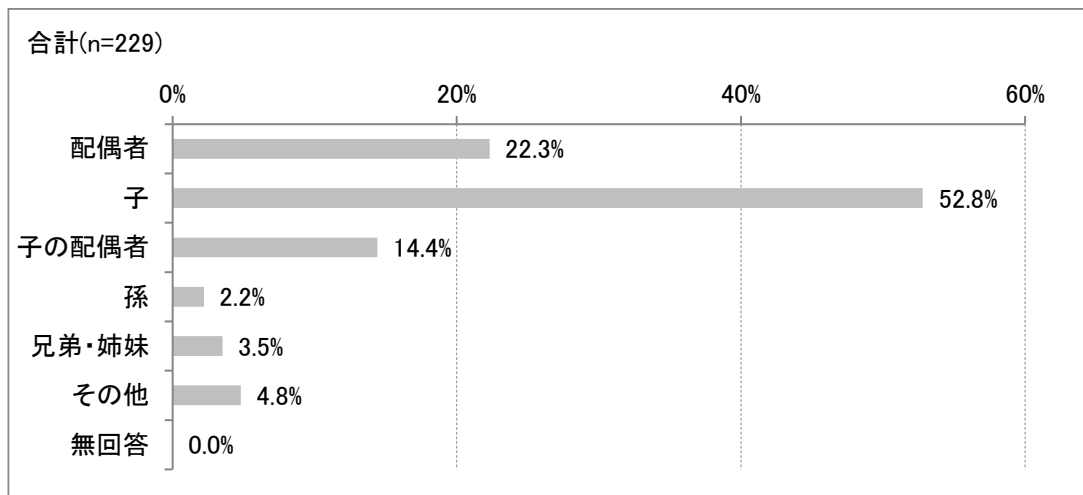
(3) 主な介護者の本人との関係

「子」の割合が最も高く 52.8%となっています。次いで、「配偶者」(22.3%)、「子の配偶者」(14.4%)となっています。

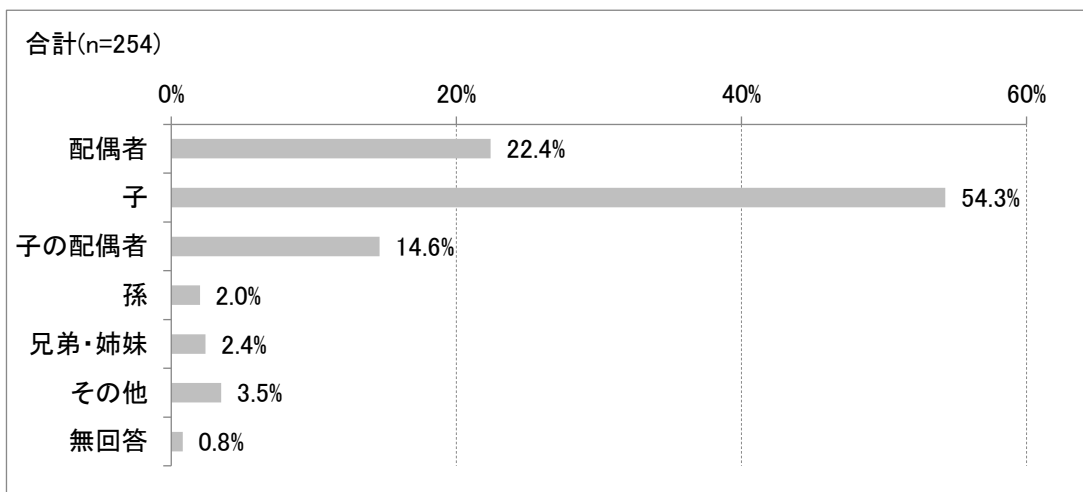
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-3 主な介護者の本人との関係 (単数回答)

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



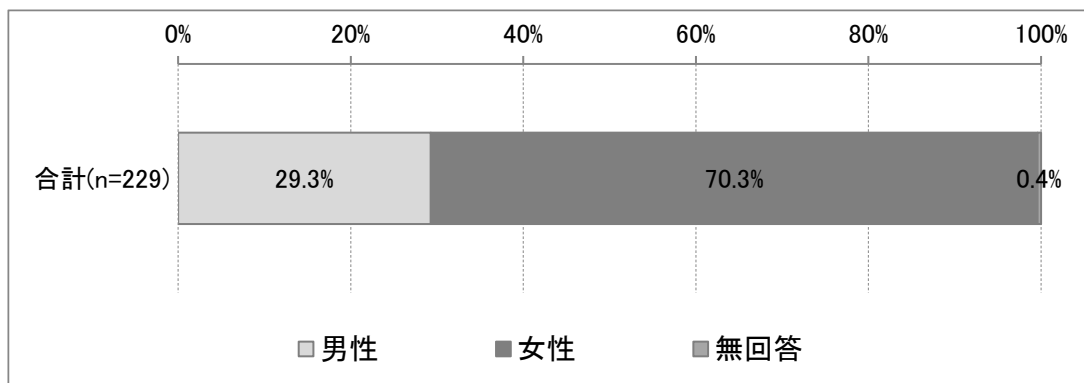
(4) 主な介護者の性別

「女性」の割合が最も高く70.3%となっています。次いで、「男性」(29.3%)となっています。

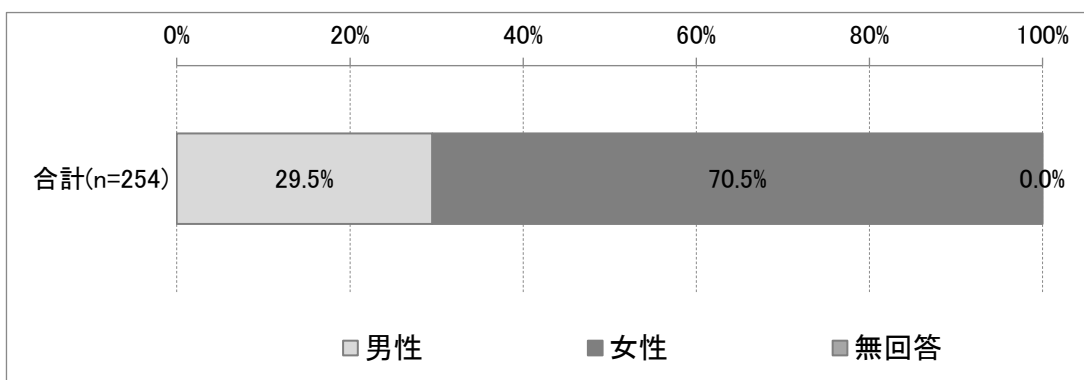
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-4 主な介護者の性別 (単数回答)

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



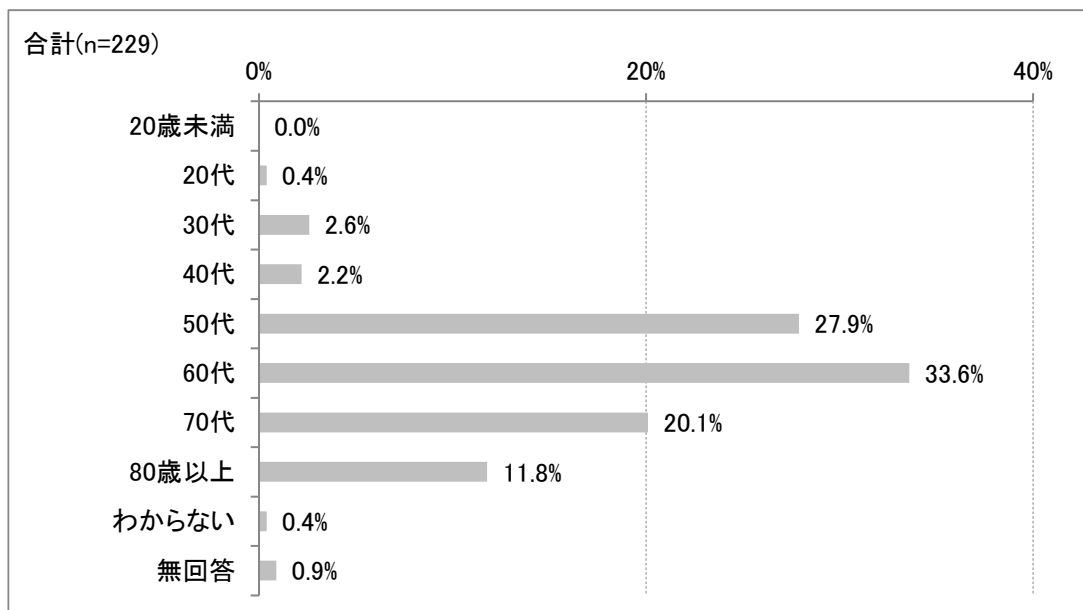
(5) 主な介護者の年齢

「60代」の割合が最も高く 33.6%となっています。次いで、「50代」(27.9%)、「70代」(20.1%)となっています。

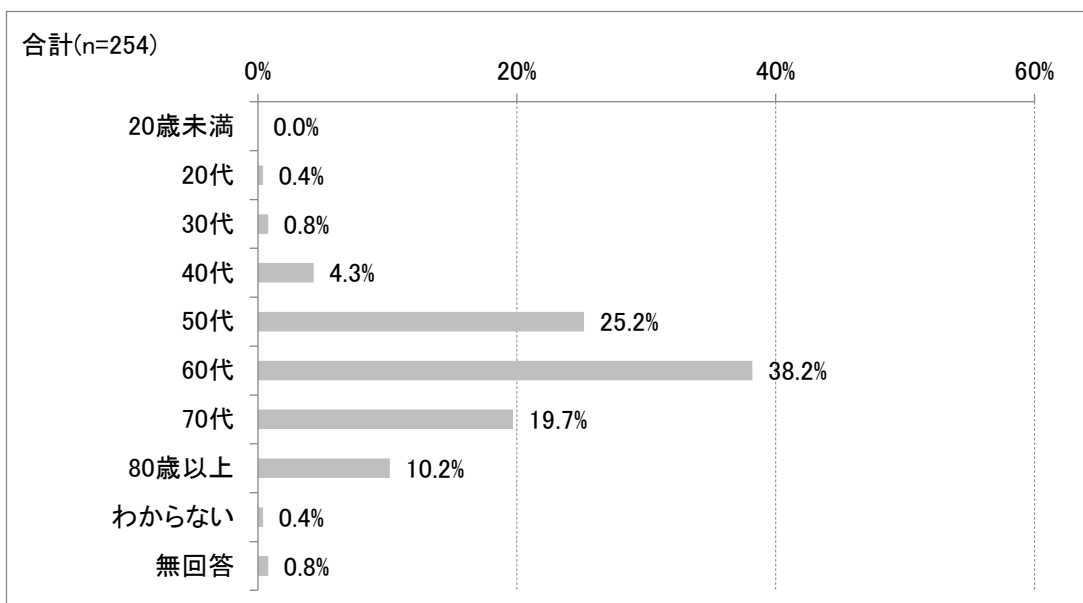
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



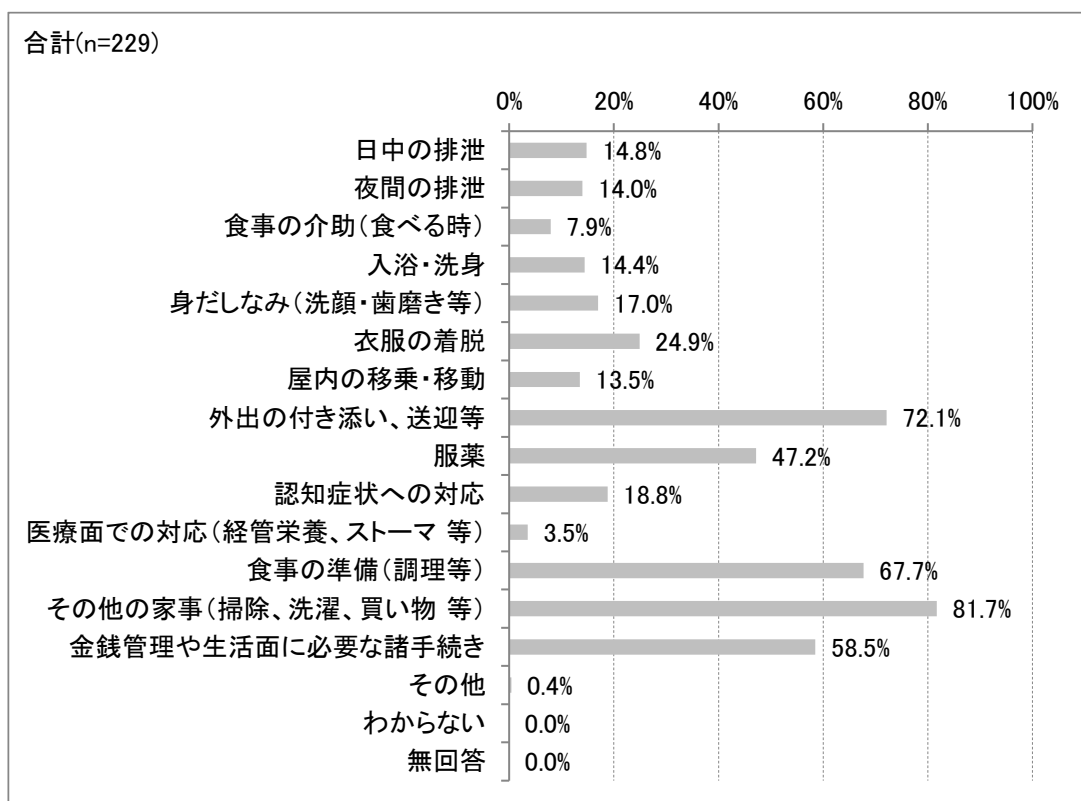
(6) 主な介護者が行っている介護

「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」の割合が最も高く 81.7%となっています。次いで、「外出の付き添い、送迎等」（72.1%）、「食事の準備（調理等）」（67.7%）となっています。

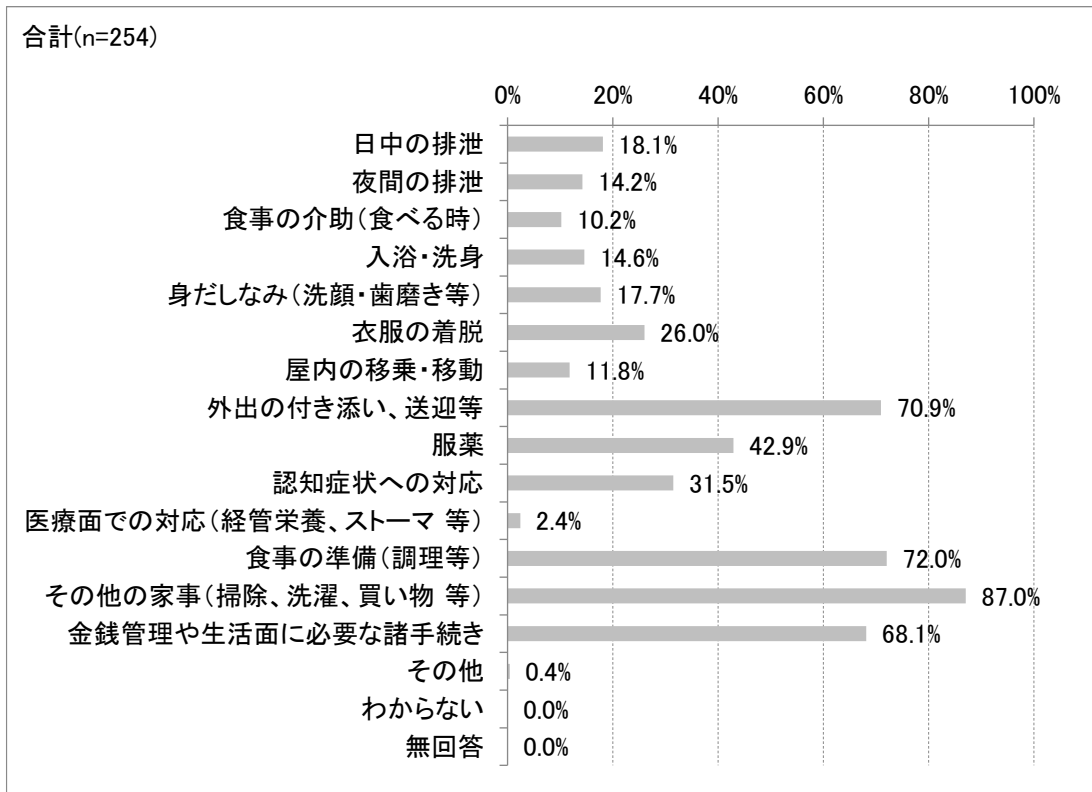
令和2年度調査と比較すると、「認知症状への対応」が 12.7 ポイント減少、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 5.3 ポイント減少、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 9.6 ポイント減少しています。

図表 1-6 主な介護者が行っている介護（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



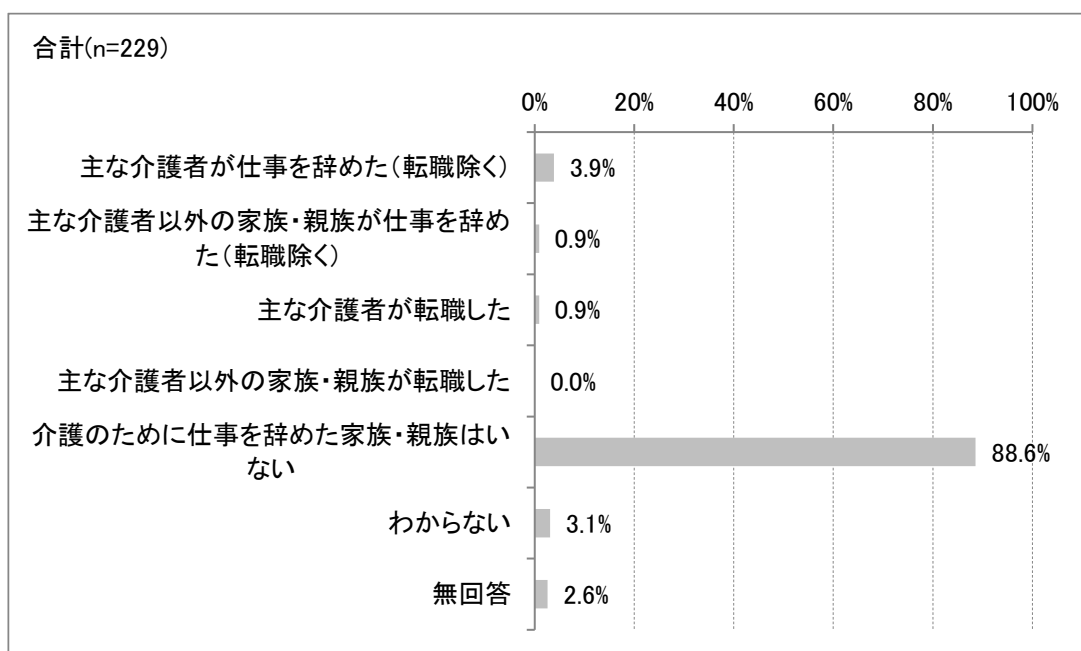
(7) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」の割合が最も高く 88.6%となっています。次いで、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」(3.9%)、「わからない」(3.1%)となっています。

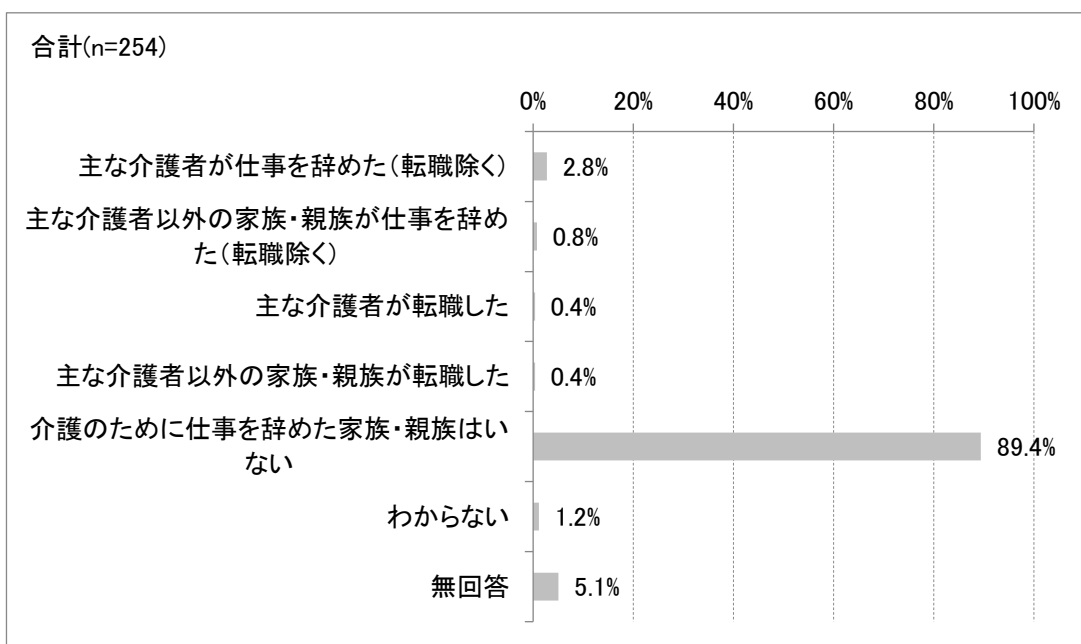
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



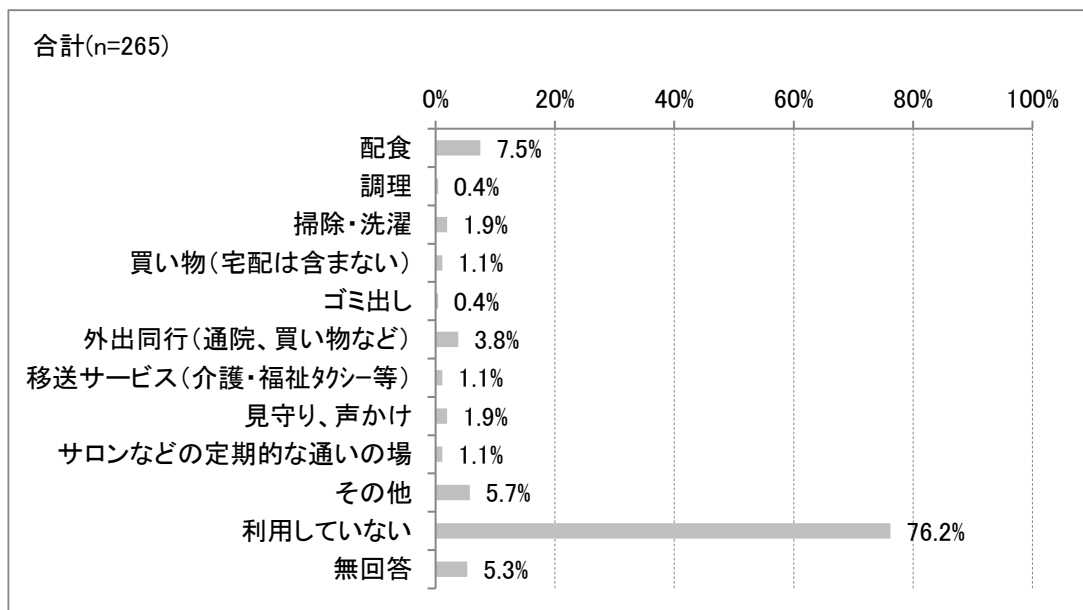
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

「利用していない」の割合が最も高く 76.2%となっています。次いで、「配食」(7.5%)、「その他」(5.7%)となっています。

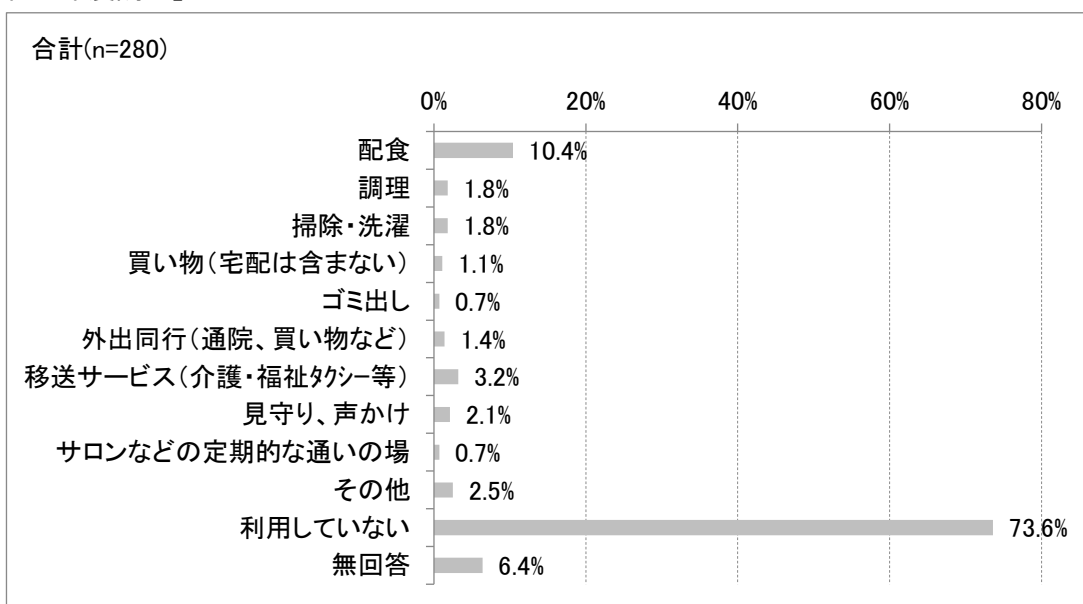
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-8 保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



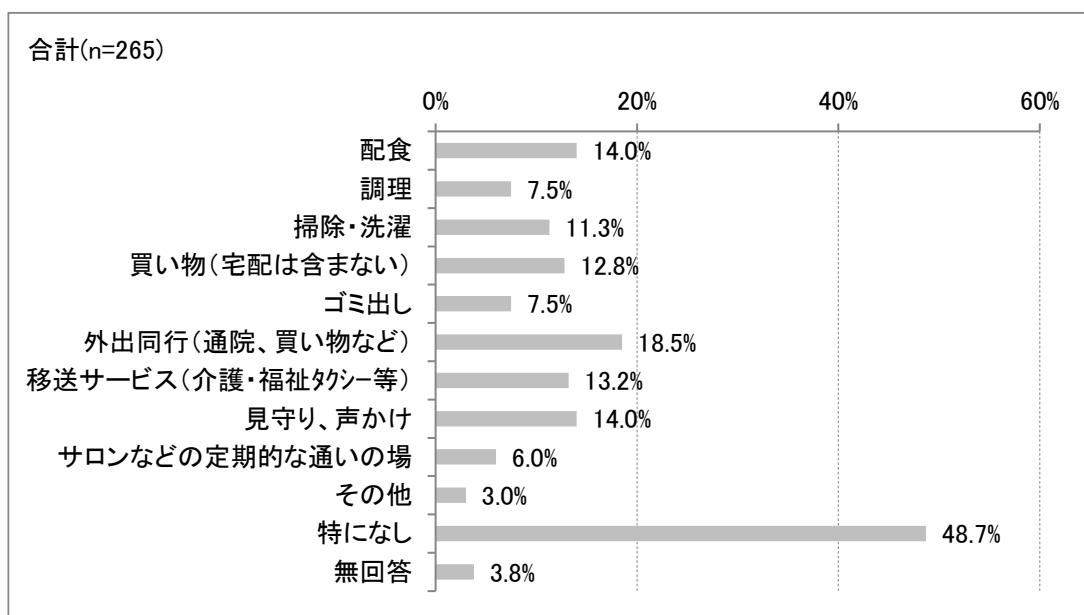
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

「特になし」の割合が最も高く 48.7%となっています。次いで、「外出同行（通院、買い物など）」（18.5%）、「配食」（14.0%）、「見守り、声かけ」（14.0%）となっています。

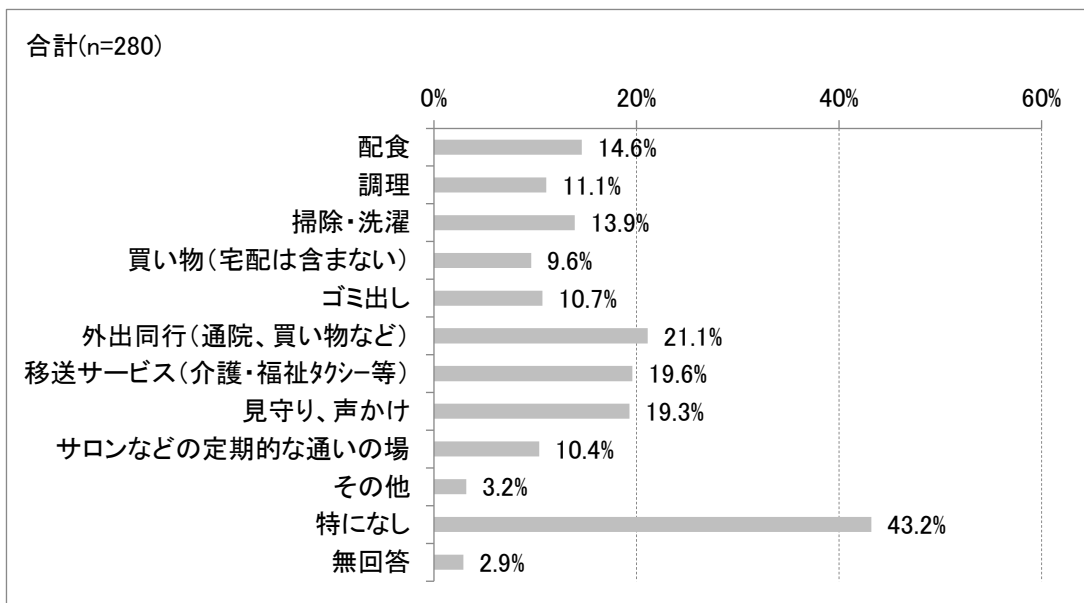
令和2年度調査と比較すると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 6.4 ポイント減少、「見守り、声かけ」が 5.3 ポイント減少、「特になし」が 5.5 ポイント増加しています。

図表 1-9 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



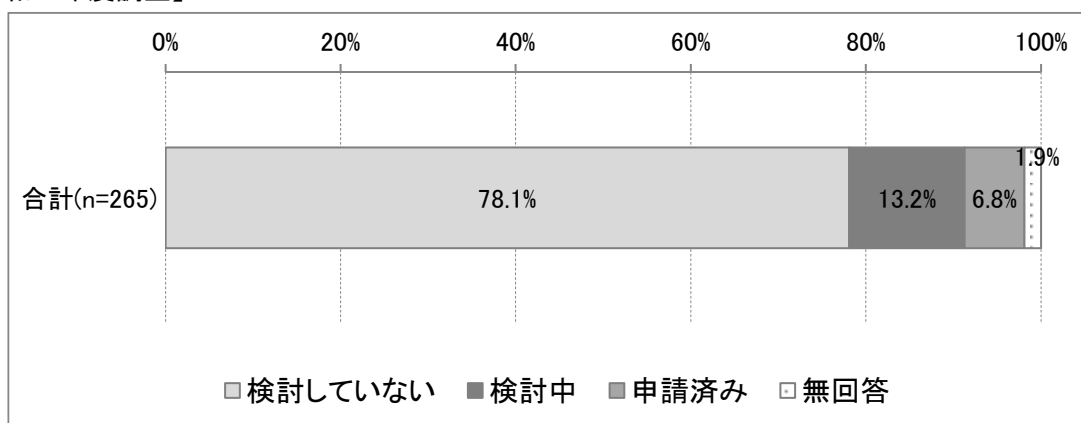
(10) 施設等検討の状況

「検討していない」の割合が最も高く78.1%となっています。次いで、「検討中」(13.2%)、「申請済み」(6.8%)となっています。

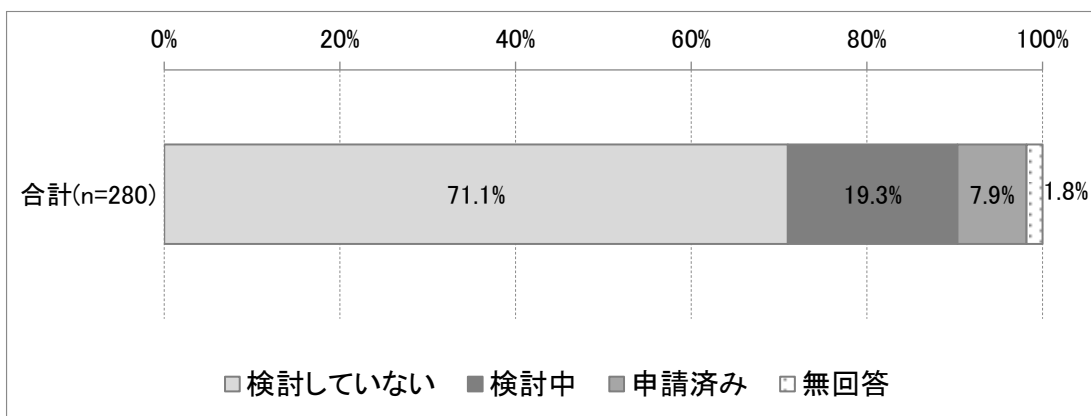
令和2年度調査と比較すると、「検討していない」が7.0ポイント増加し、「検討中」が6.1ポイント減少しています。

図表 1-10 施設等検討の状況 (単数回答)

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



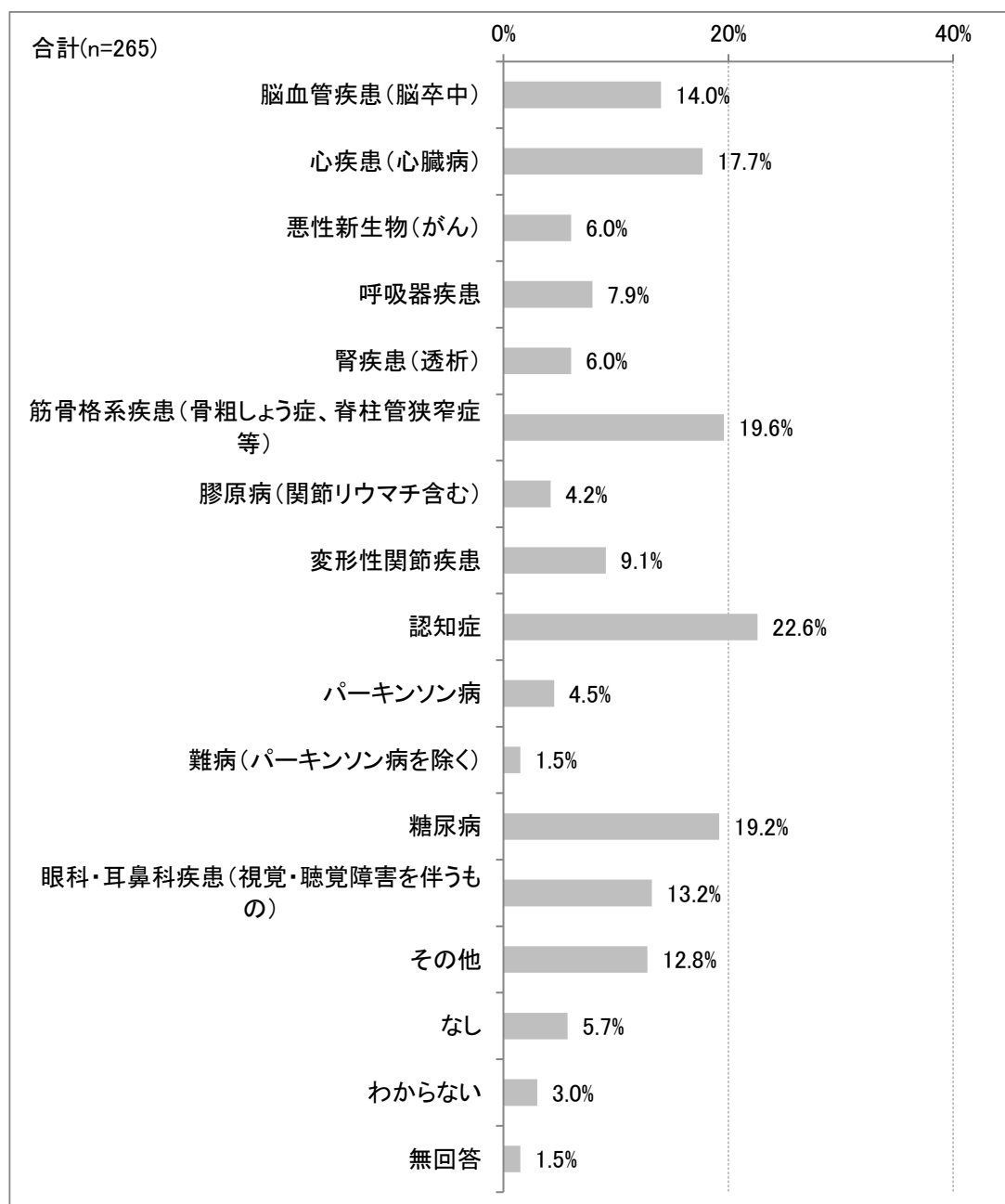
(11) 本人が抱えている傷病

「認知症」の割合が最も高く 22.6%となっています。次いで、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（19.6%）、「糖尿病」（19.2%）となっています。

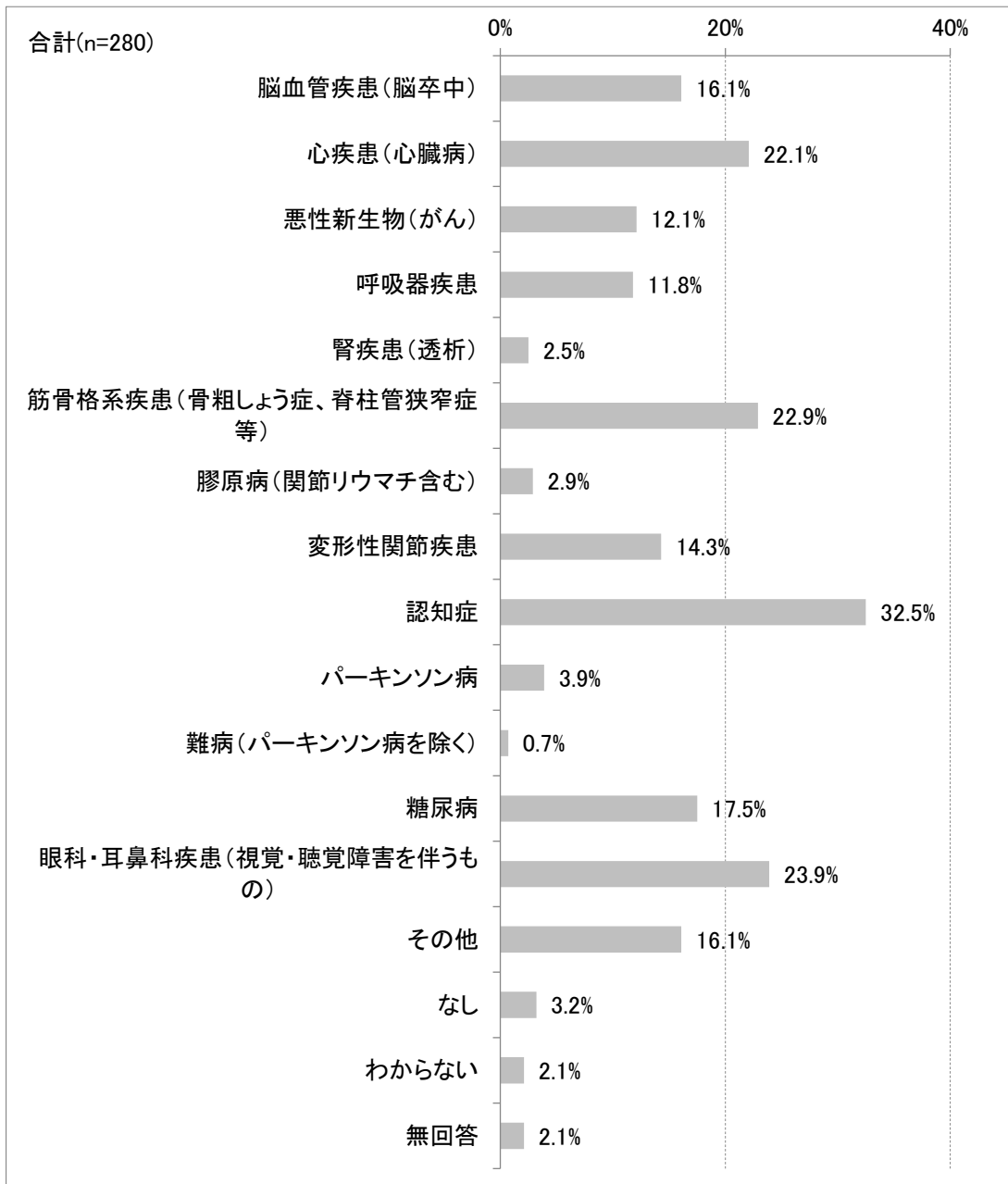
令和2年度調査と比較すると、「悪性新生物（がん）」が 6.1 ポイント、「変形性関節疾患」が 5.2 ポイント、「認知症」が 9.9 ポイント、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が 10.7 ポイントそれぞれ減少しています。

図表 1-11 本人が抱えている傷病（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



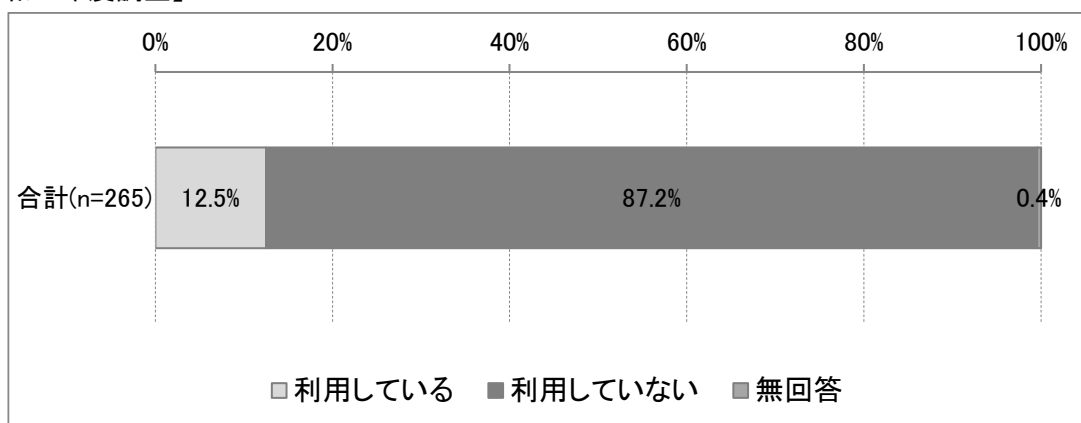
(12) 訪問診療の利用の有無

「利用していない」の割合が最も高く 87.2%となっています。次いで、「利用している」(12.5%)となっています。

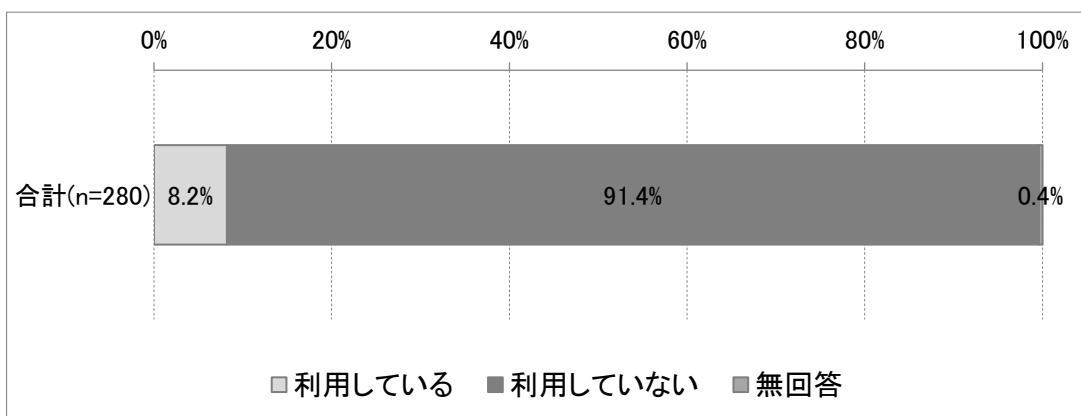
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-12 訪問診療の利用の有無（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



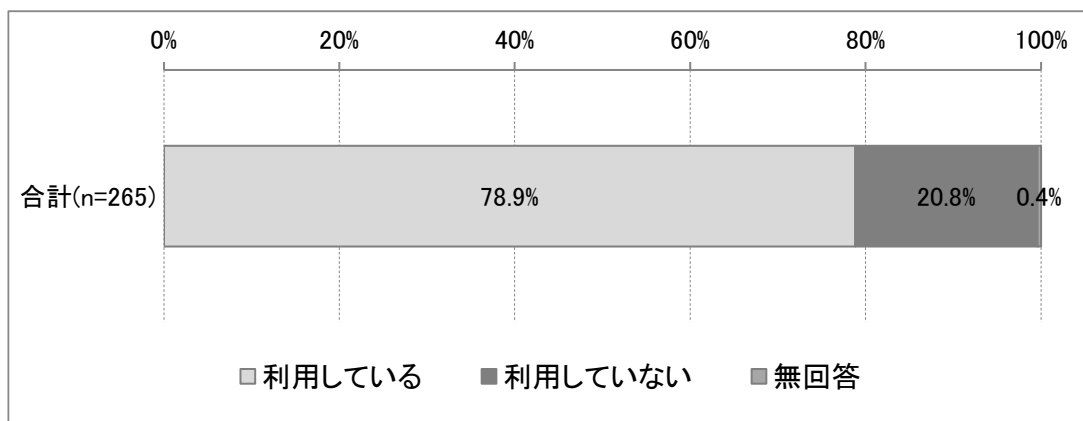
(13) 介護保険サービスの利用の有無

「利用している」の割合が最も高く 78.9%となっています。次いで、「利用していない」(20.8%)となっています。

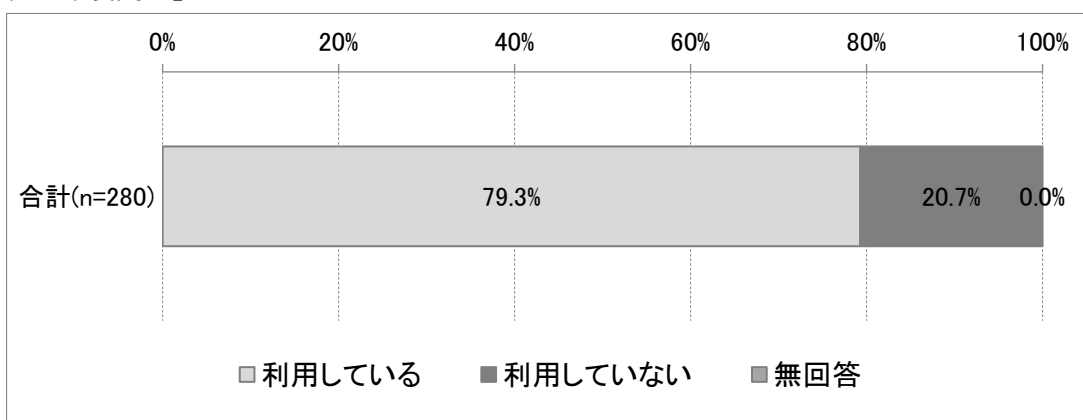
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 1-13 介護保険サービスの利用の有無（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



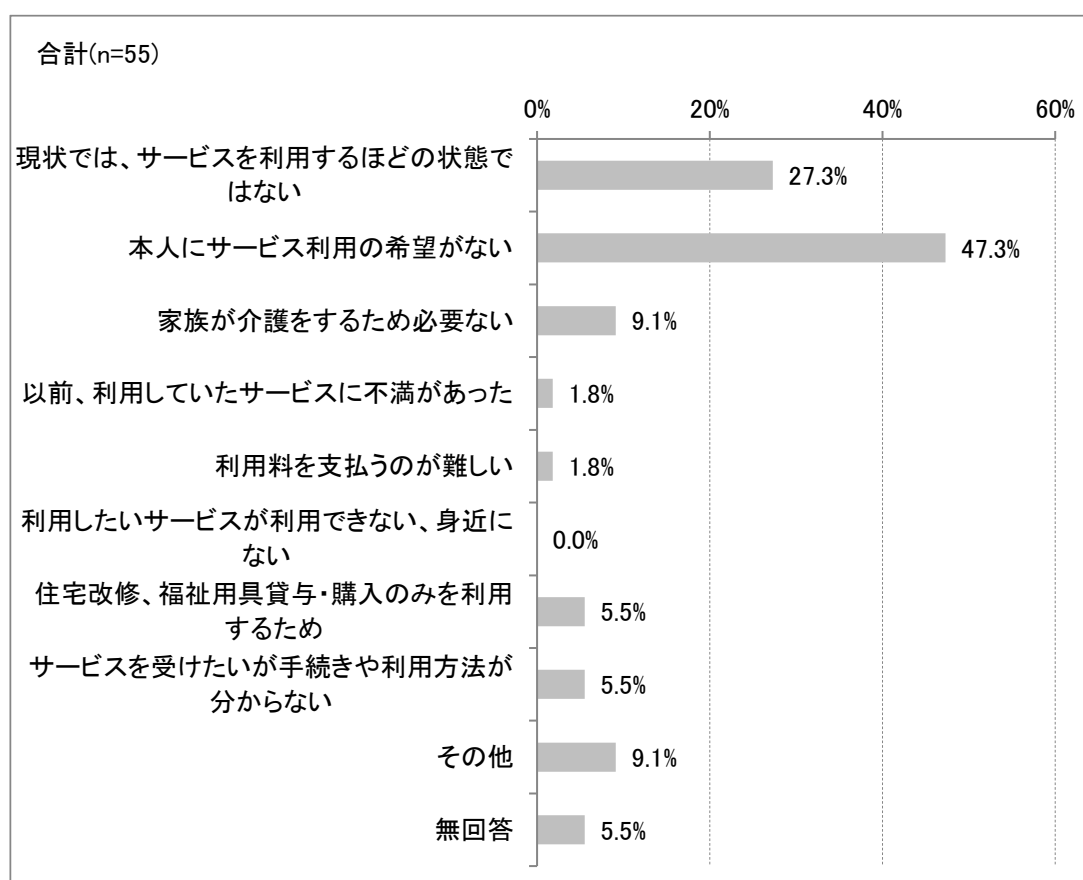
(14) 介護保険サービス未利用の理由

「本人にサービス利用の希望がない」の割合が最も高く 47.3%となっています。次いで、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(27.3%)、「家族が介護をするため必要ない」(9.1%)、「その他」(9.1%) となっています。

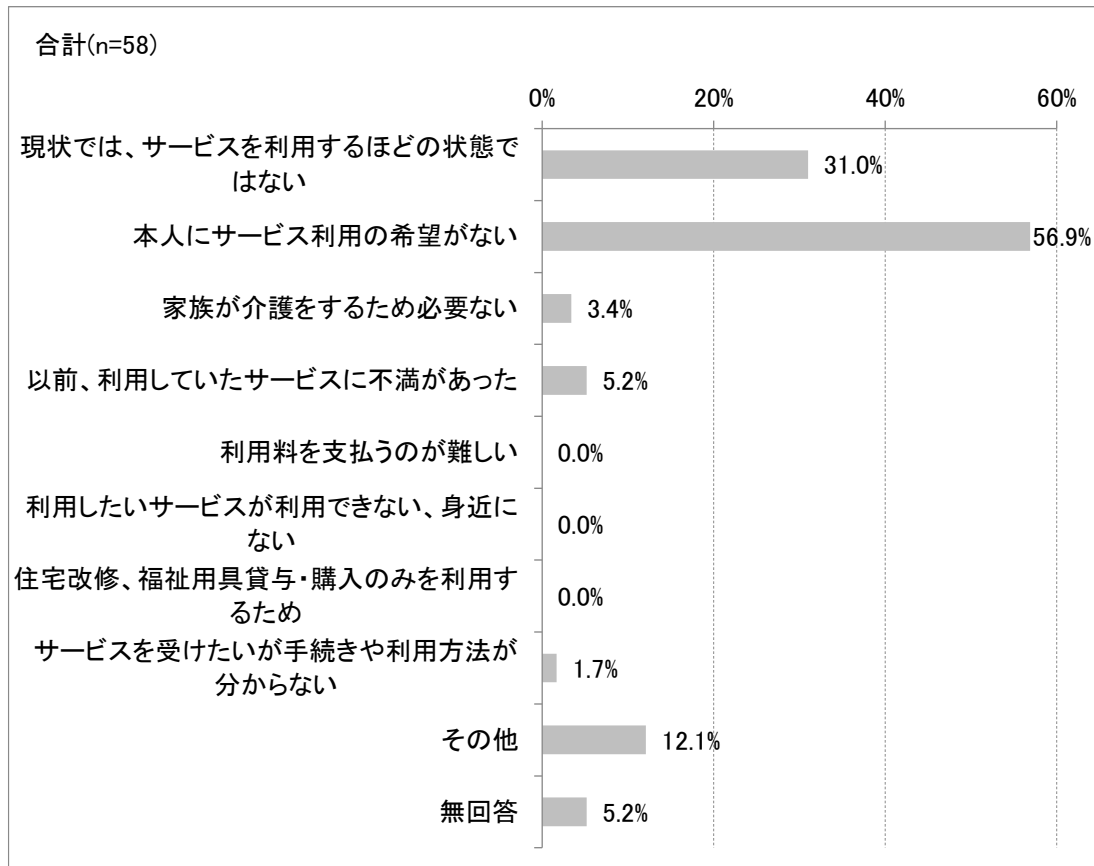
令和2年度調査と比較すると、「本人にサービス利用の希望がない」が9.6ポイント減少しています。一方、「家族が介護するため必要ない」が5.7ポイント、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が5.5ポイント増加しています。

図表 1-14 介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



2 主な介護者様用の調査項目（B票）

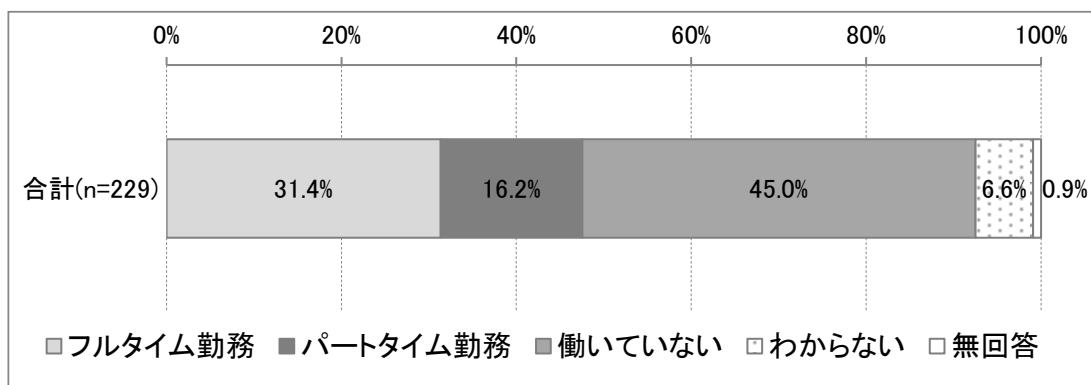
(1) 主な介護者の勤務形態

「働いていない」の割合が最も高く 45.0%となっています。次いで、「フルタイム勤務」(31.4%)、「パートタイム勤務」(16.2%) となっています。

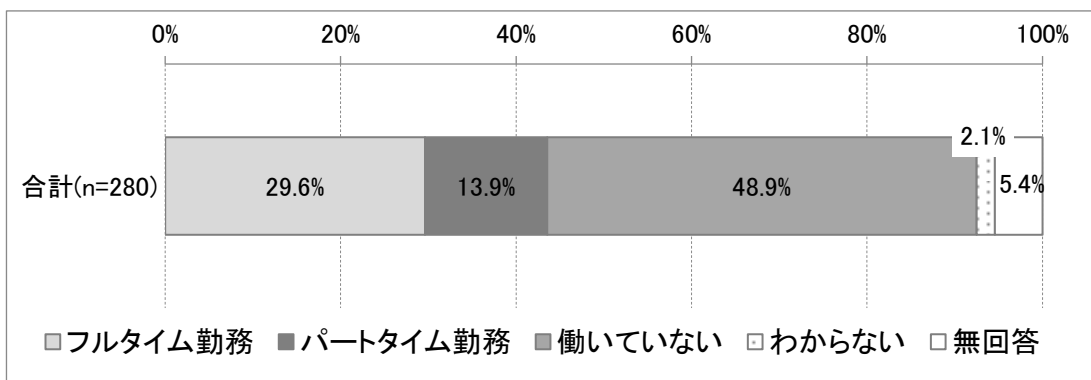
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



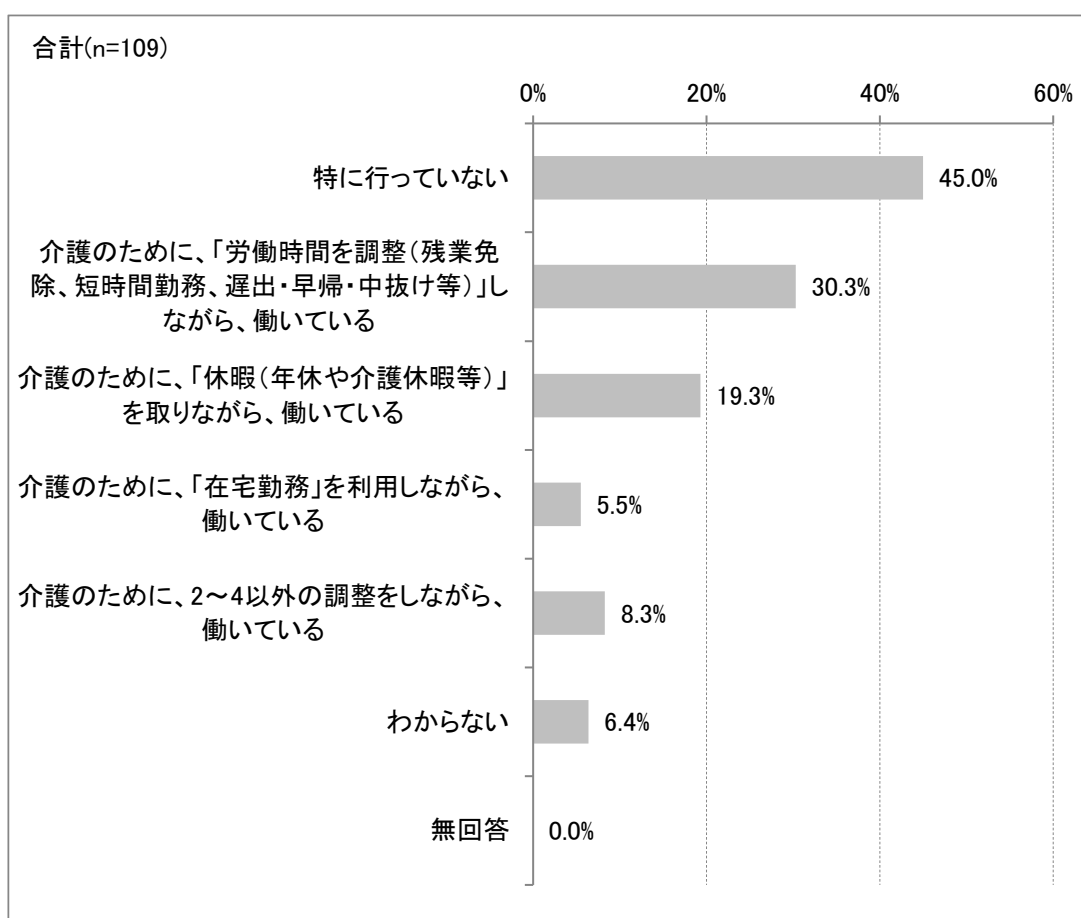
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

「特に行っていない」の割合が最も高く 45.0%となっています。次いで、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」（30.3%）、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」（19.3%）となっています。

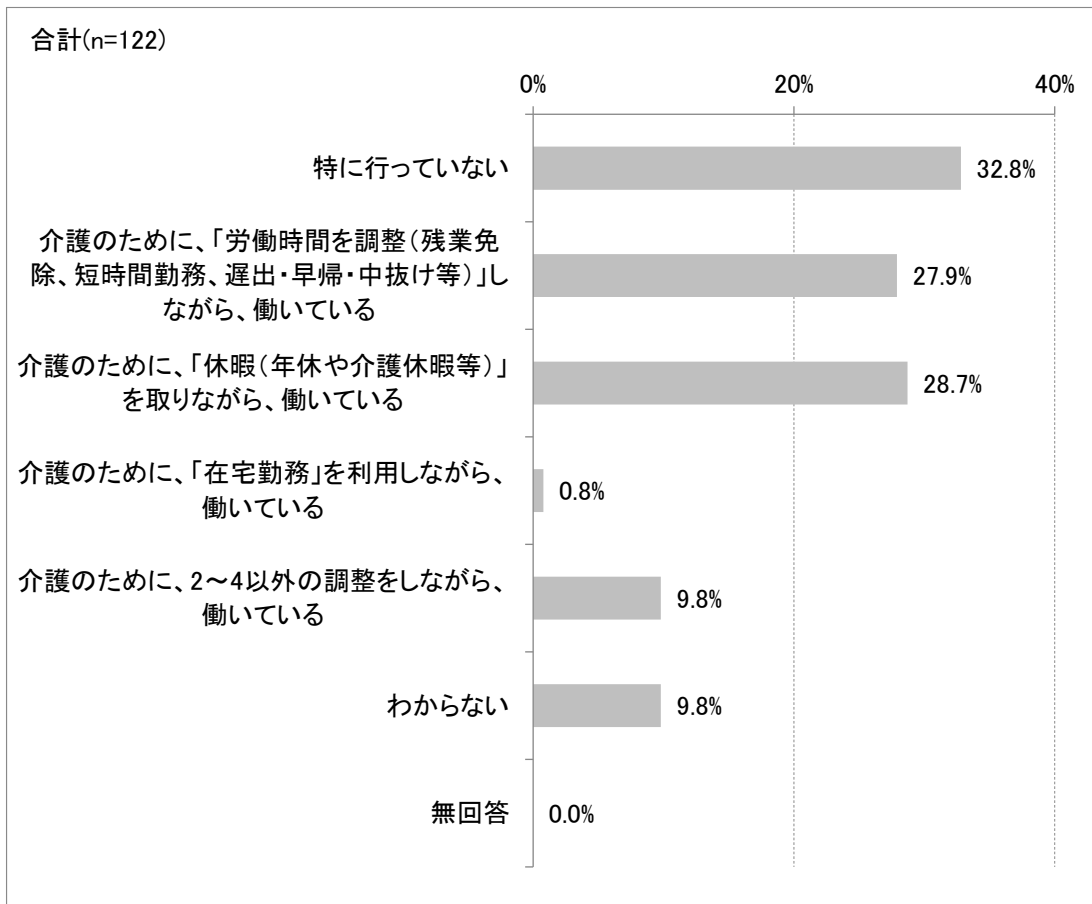
令和2年度調査と比較すると、「特に行っていない」が12.2ポイント増加し、「介護のために「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が9.4ポイント減少しています。

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



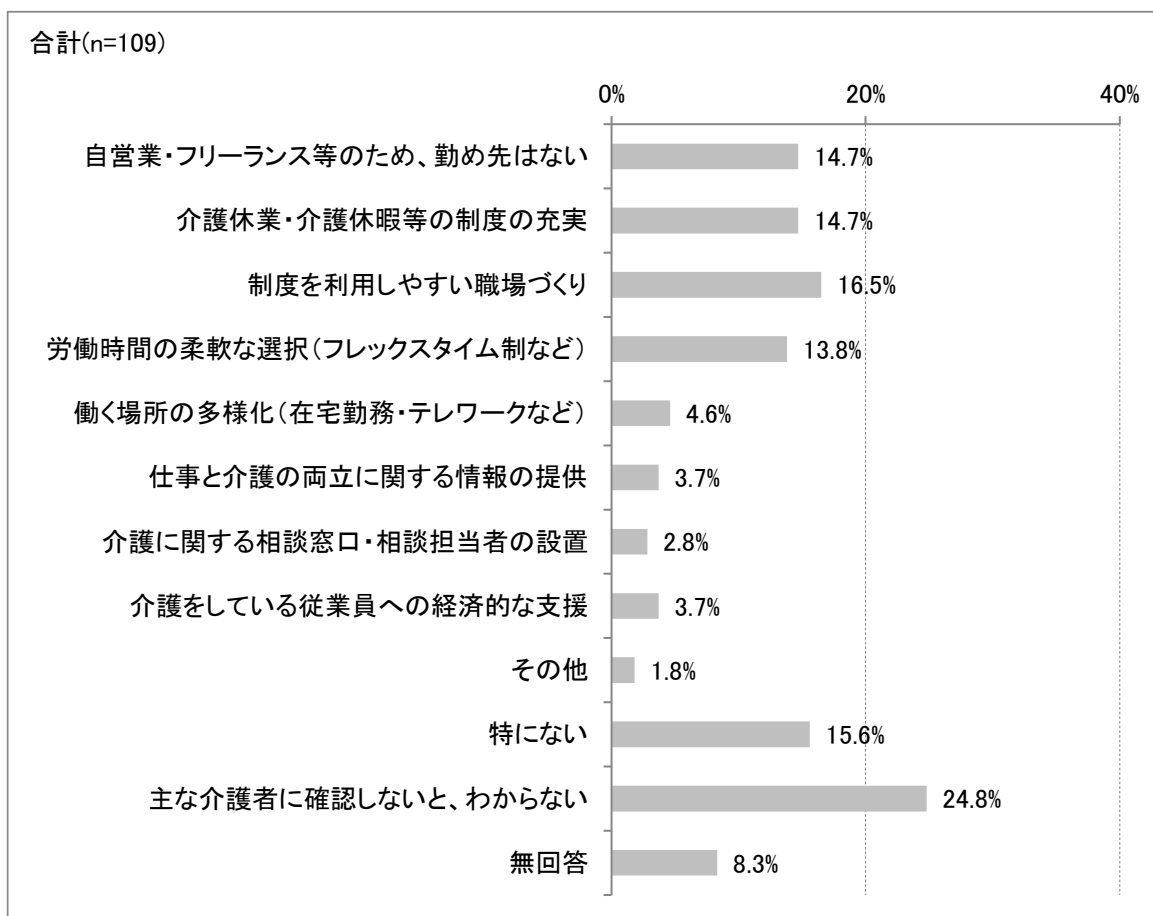
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

「主な介護者に確認しないと、わからない」の割合が最も高く 24.8%となっています。次いで、「制度を利用しやすい職場づくり」(16.5%)、「特にない」(15.6%)となっています。

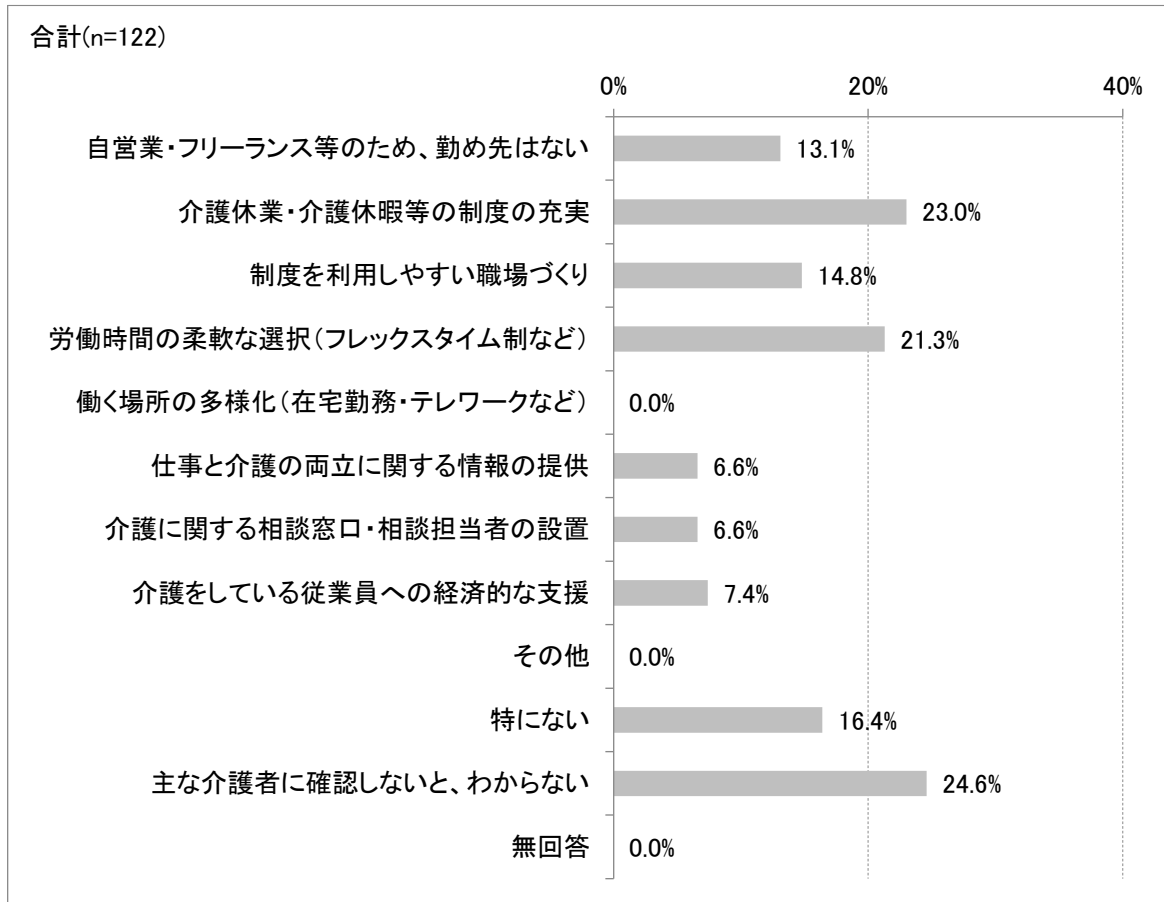
令和2年度調査と比較すると、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が8.3ポイント、「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が7.5ポイントそれぞれ減少しています。

図表 2-3 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援(複数回答)

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



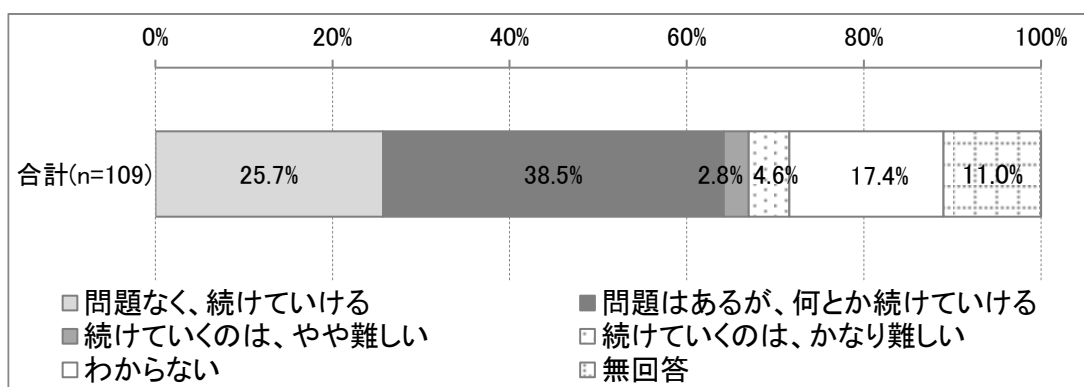
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が最も高く 38.5%となっています。次いで、「問題なく、続けていける」(25.7%)、「わからない」(17.4%)となっています。

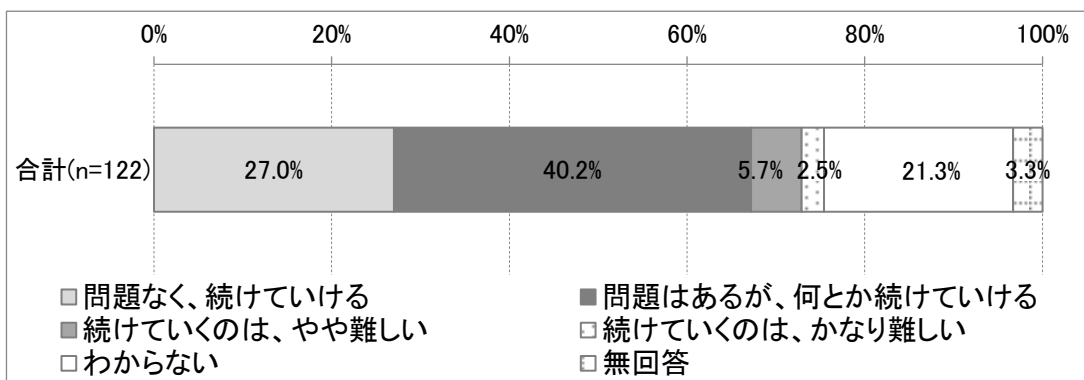
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



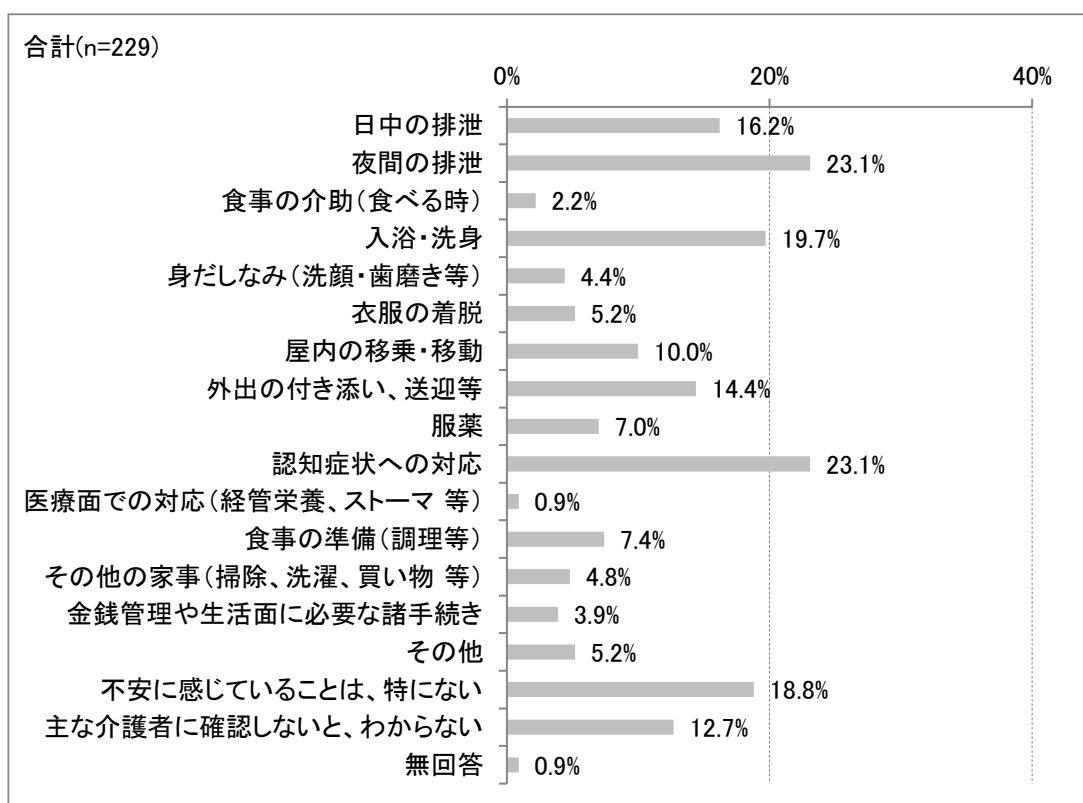
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

「夜間の排泄」、「認知症状への対応」の割合が高く、それぞれ23.1%となっています。次いで、「入浴・洗身」(19.7%)、「不安に感じていることは、特にない」(18.8%)となっています。

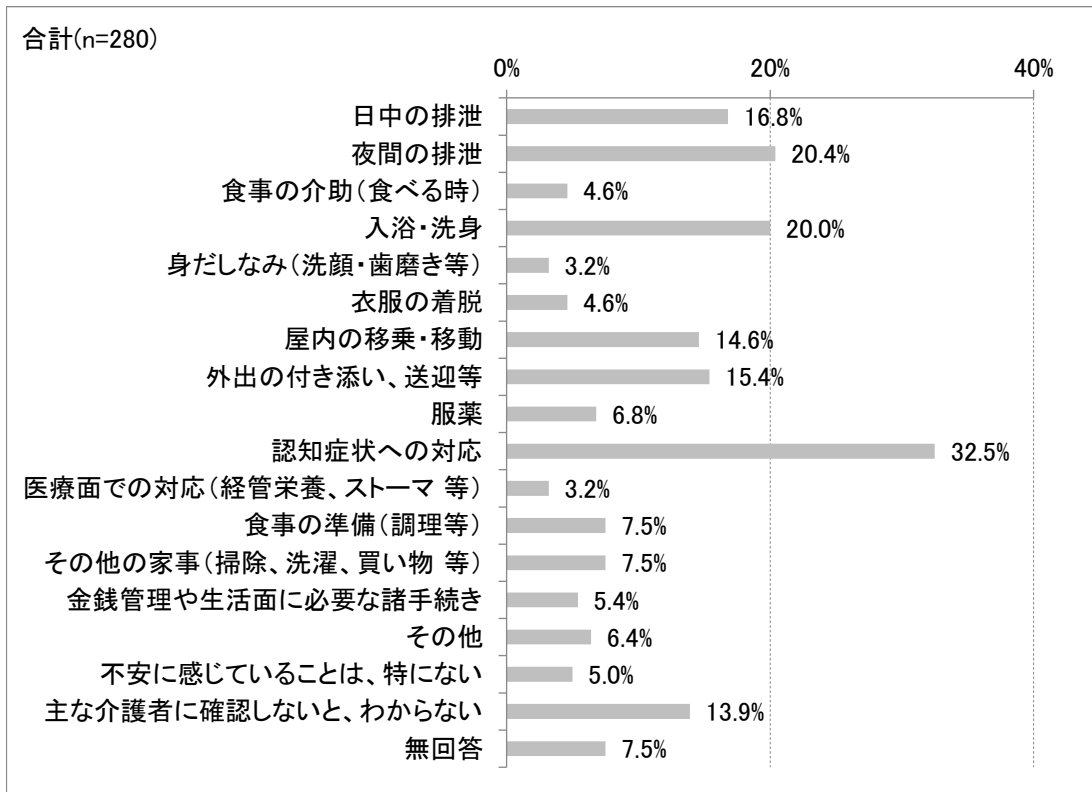
令和2年度調査と比較すると、「認知症状への対応」が9.4ポイント減少しています。一方、「不安に感じていることは、特にない」が13.8ポイント増加しています。

図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



3 要介護認定データ

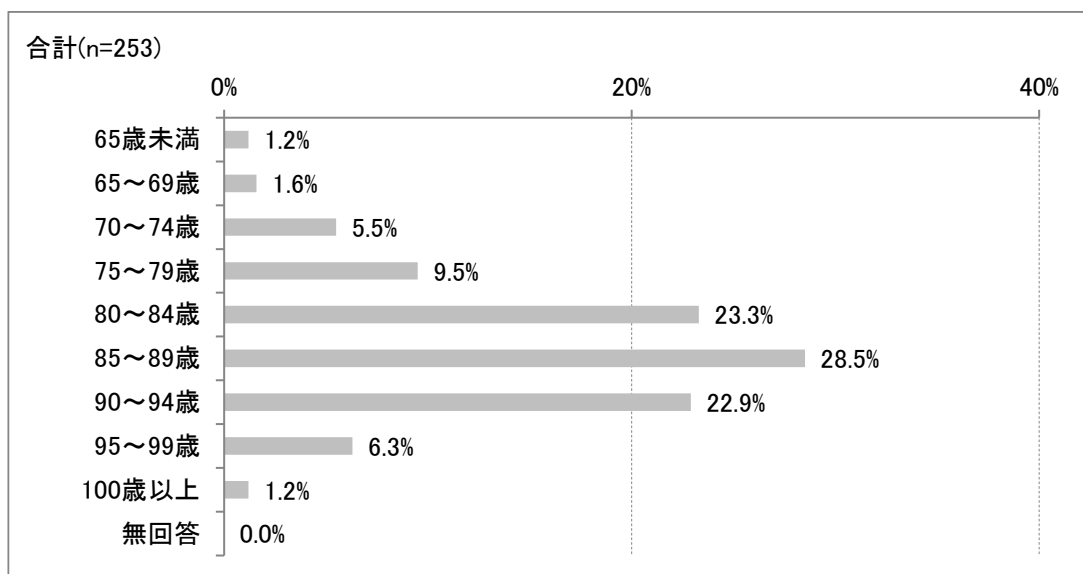
(1) 年齢

「85～89歳」の割合が最も高く28.5%となっています。次いで、「80～84歳」(23.3%)、「90～94歳」(22.9%)となっています。

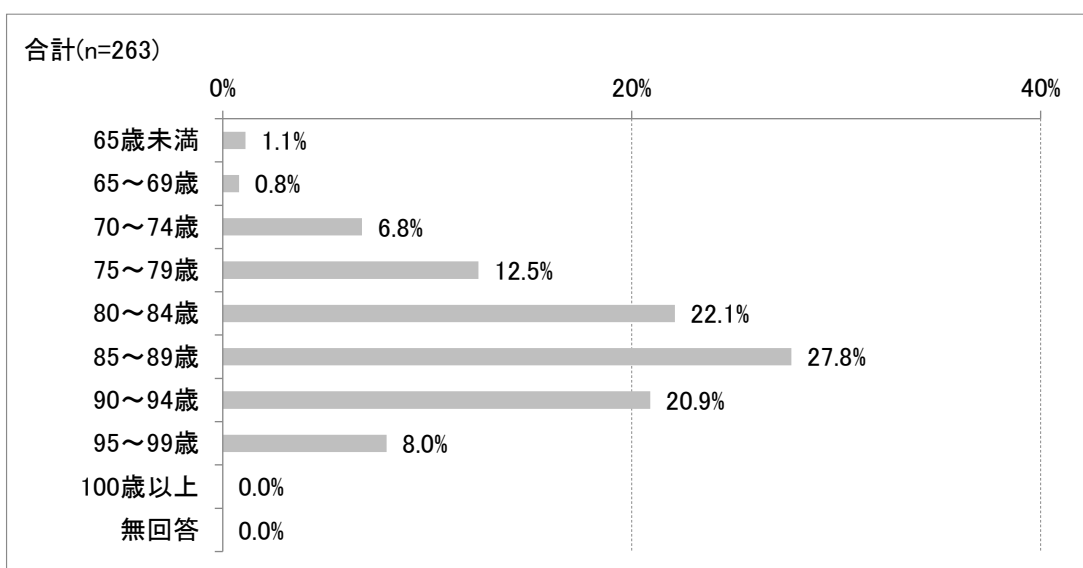
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-1 年齢

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



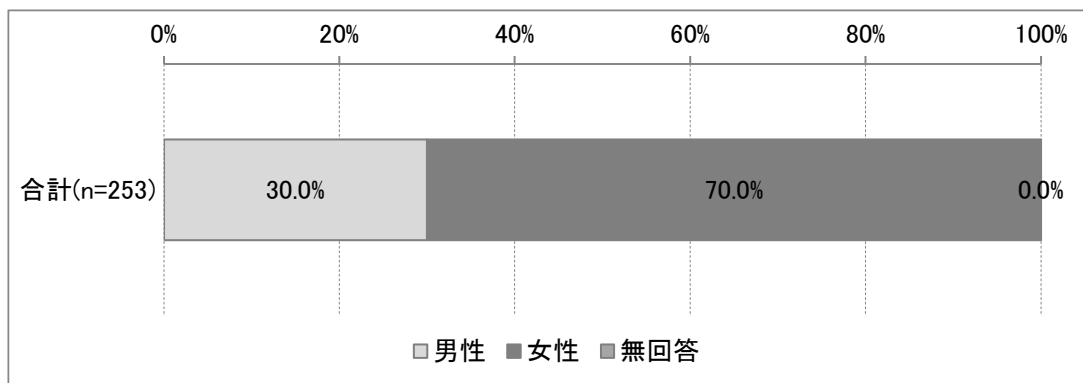
(2) 性別

「女性」の割合が最も高く70.0%となっています。次いで、「男性」(30.0%)となっています。

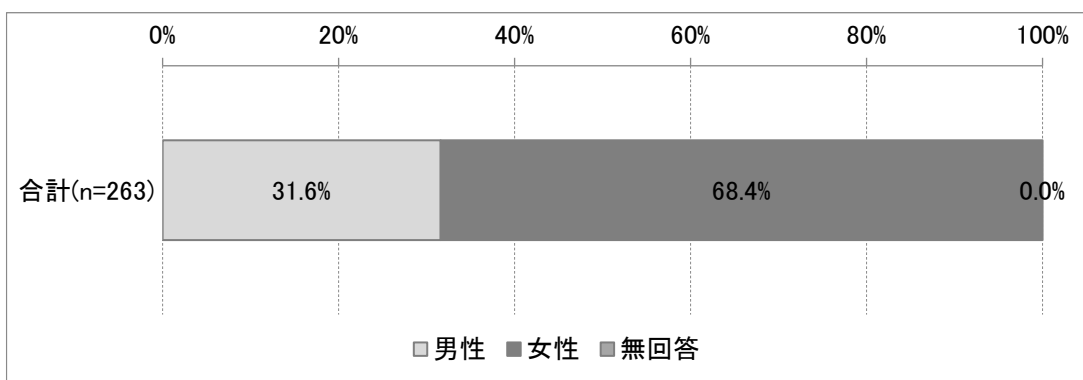
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-2 性別

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



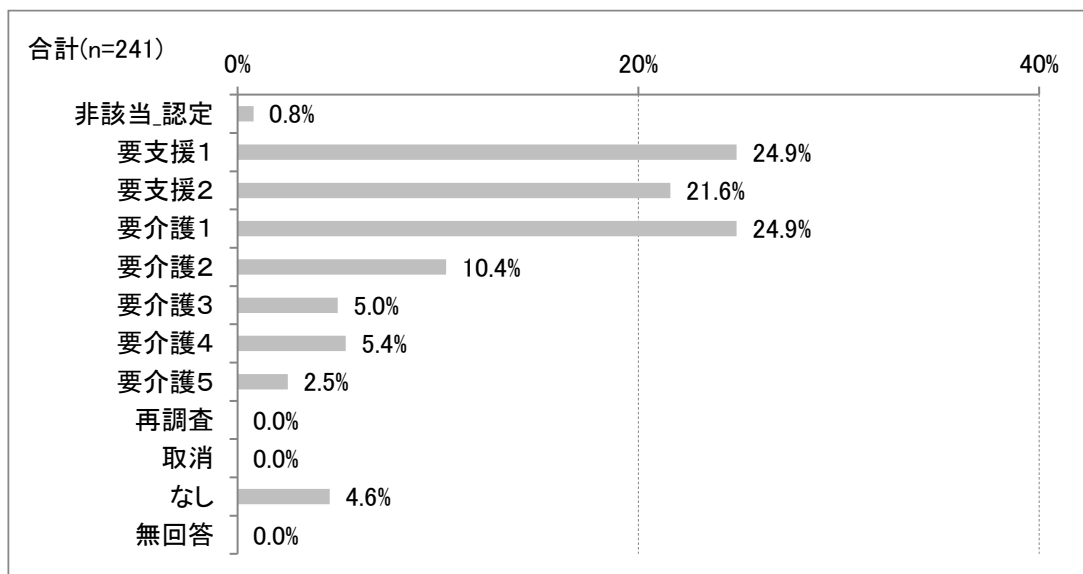
(3) 二次判定結果（要介護度）

「要支援1」、「要介護1」の割合が高く、それぞれ24.9%となっています。次いで、「要支援2」（21.6%）、「要介護2」（10.4%）となっています。

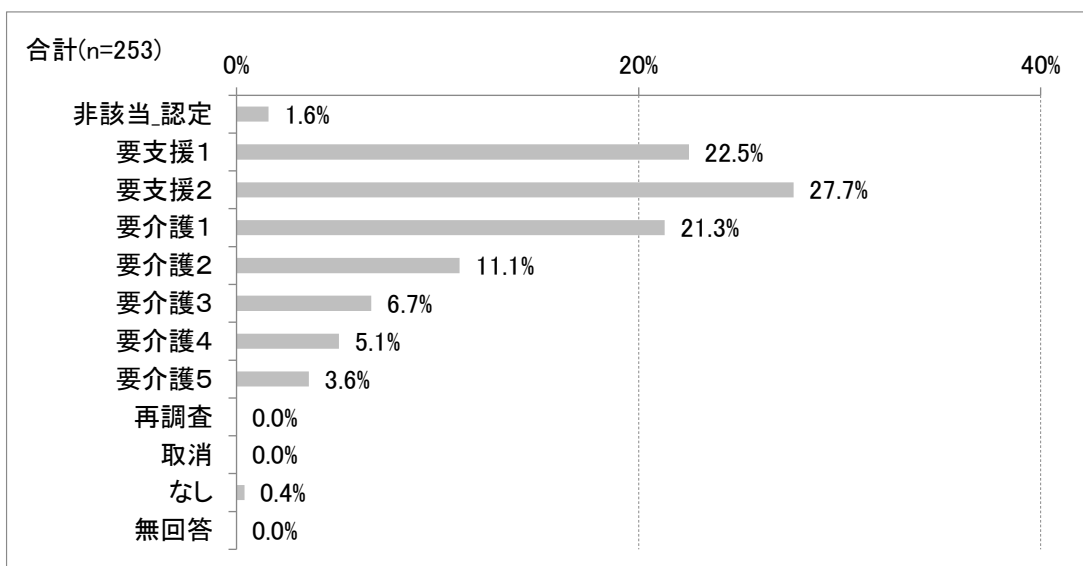
令和2年度調査と比較すると、「要支援2」が6.1ポイント減少しています。

図表 3-3 二次判定結果

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



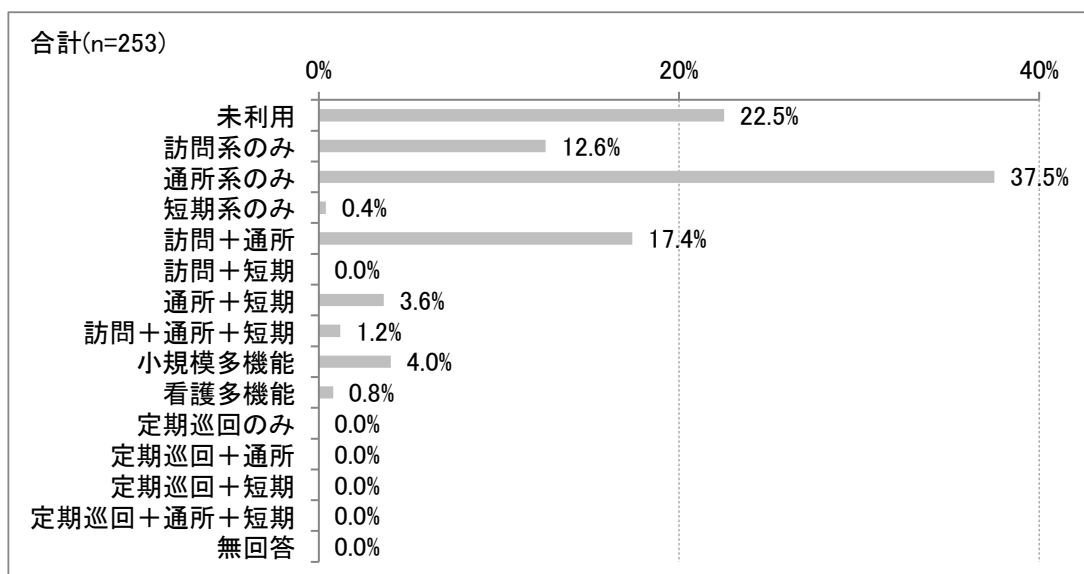
(4) サービス利用の組み合わせ

「通所系のみ」の割合が最も高く 37.5%となっています。次いで、「未利用」(22.5%)、「訪問+通所」(17.4%)となっています。

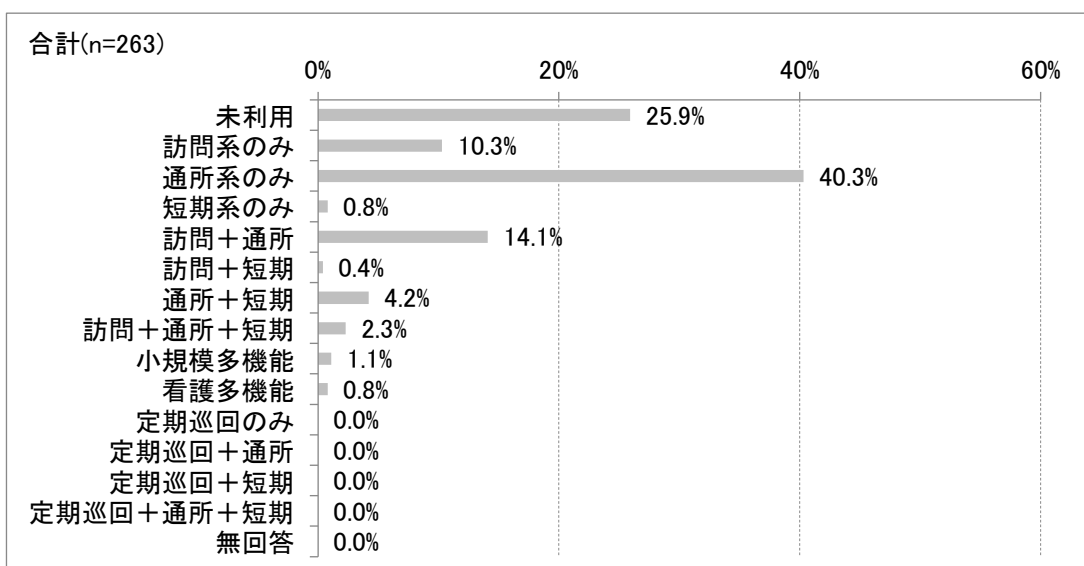
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



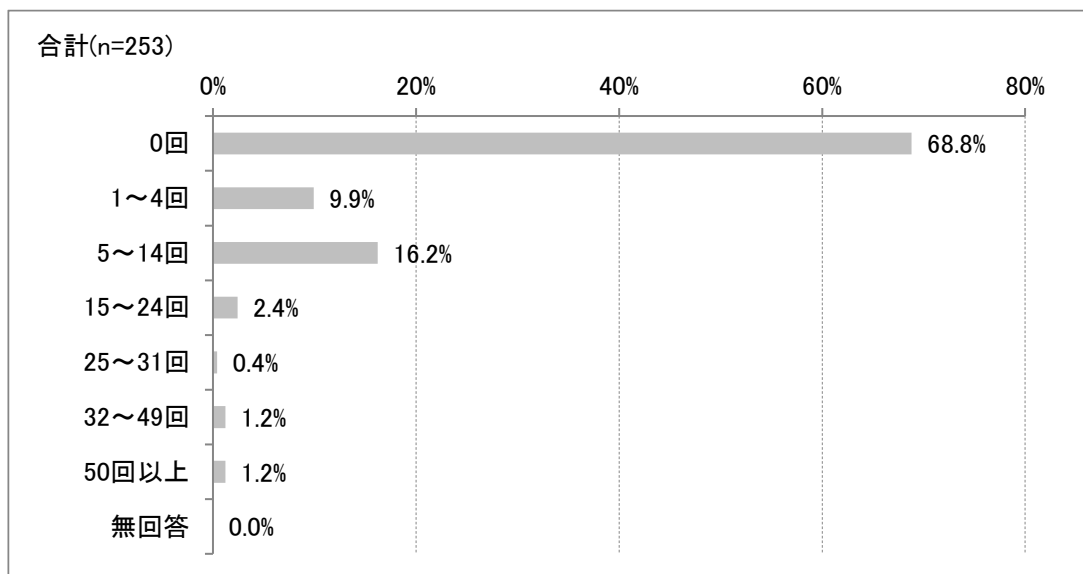
(5) 訪問系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く68.8%となっています。次いで、「5～14回」(16.2%)、「1～4回」(9.9%)となっています。

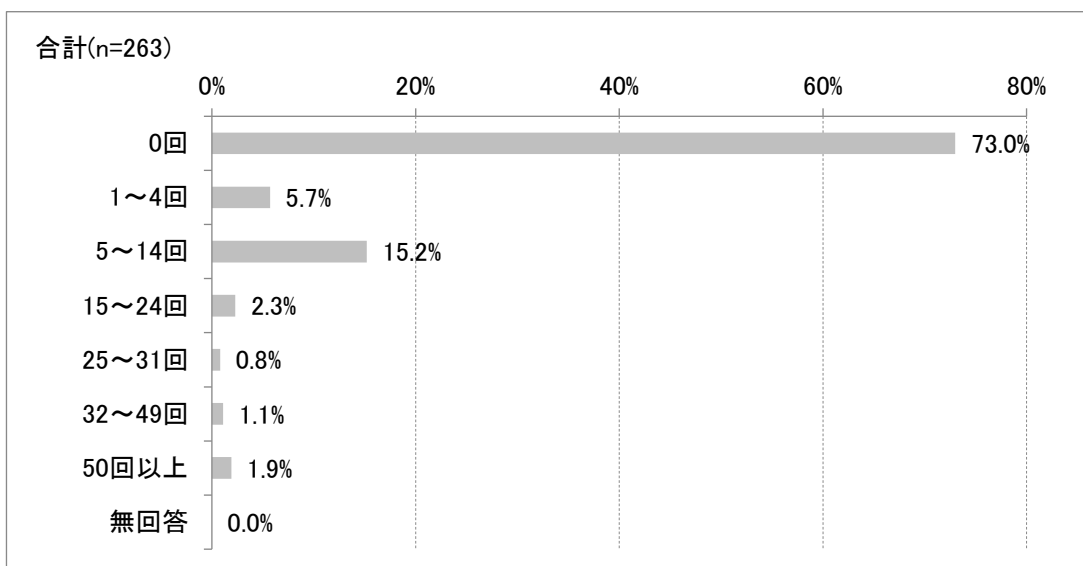
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



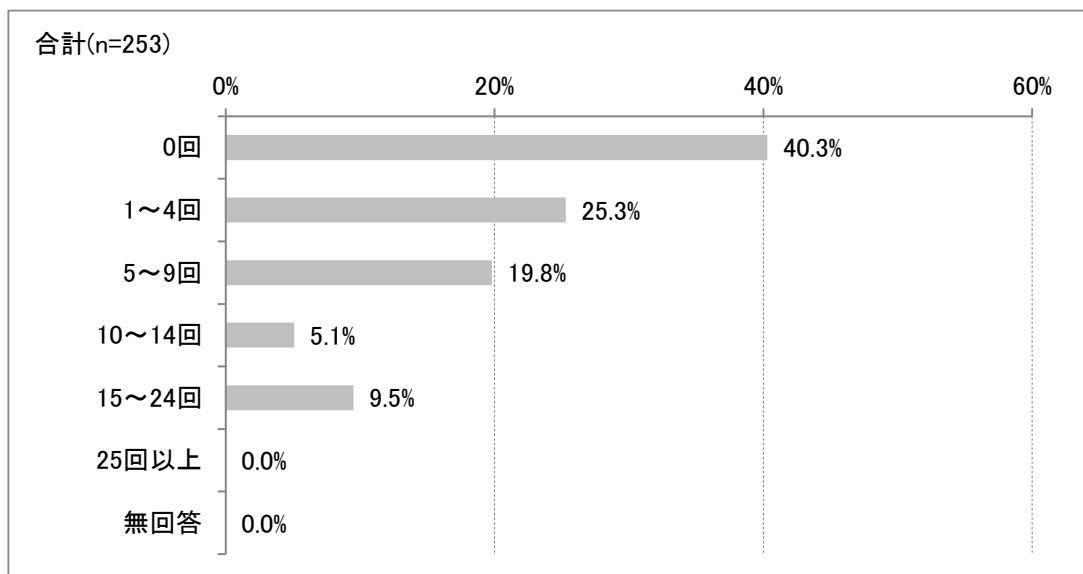
(6) 通所系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く40.3%となっています。次いで、「1～4回」(25.3%)、「5～9回」(19.8%)となっています。

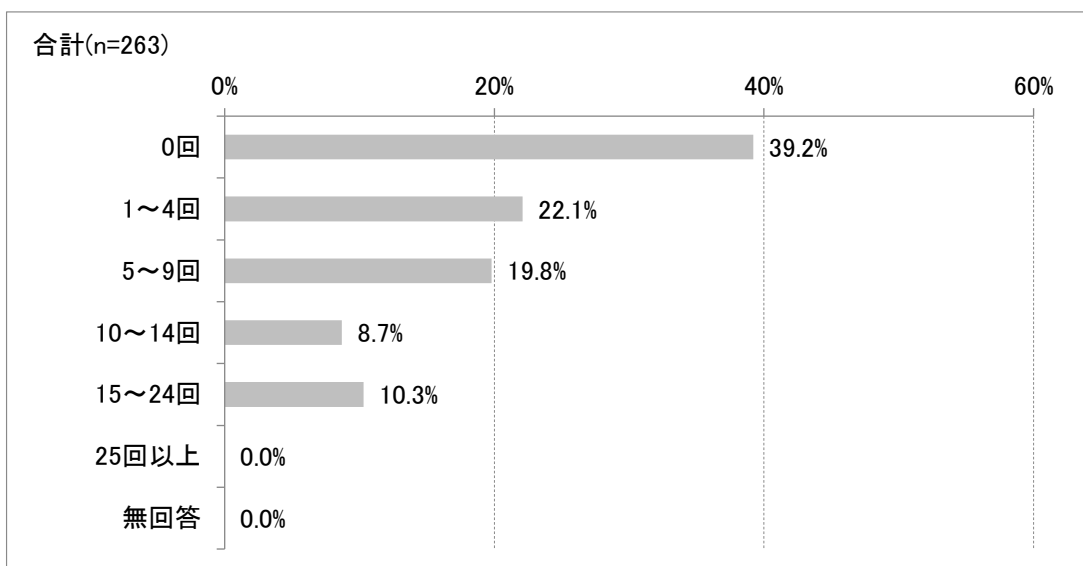
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



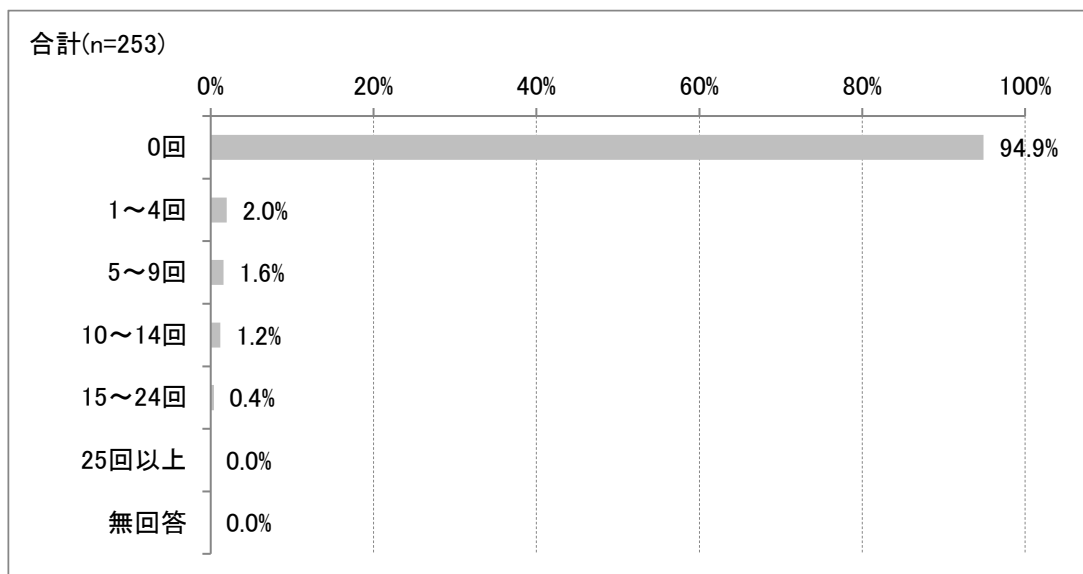
(7) 短期系サービスの合計利用回数

「0回」の割合が最も高く94.9%となっています。次いで、「1～4回」(2.0%)、「5～9回」(1.6%)となっています。

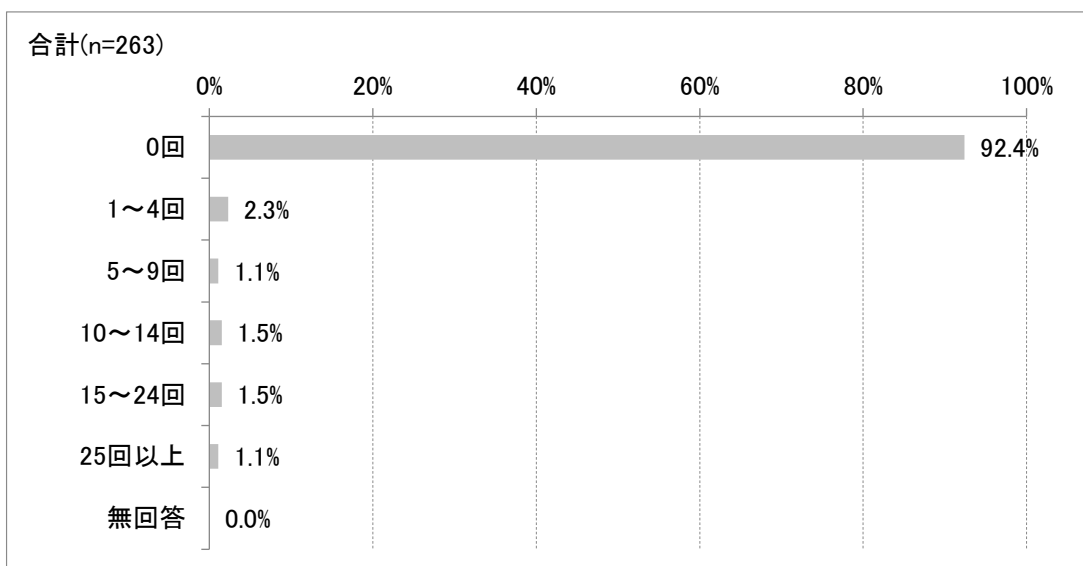
令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



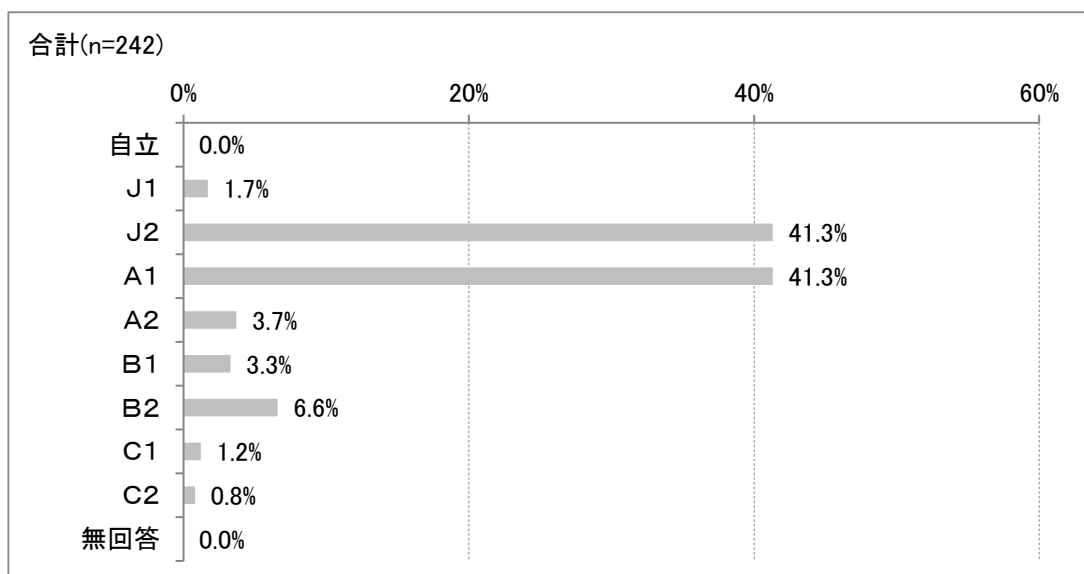
(8) 障害高齢者の日常生活自立度

「J2」、「A1」の割合が高く、それぞれ41.3%となっています。次いで、「B2」(6.6%)、「A2」(3.7%)となっています。

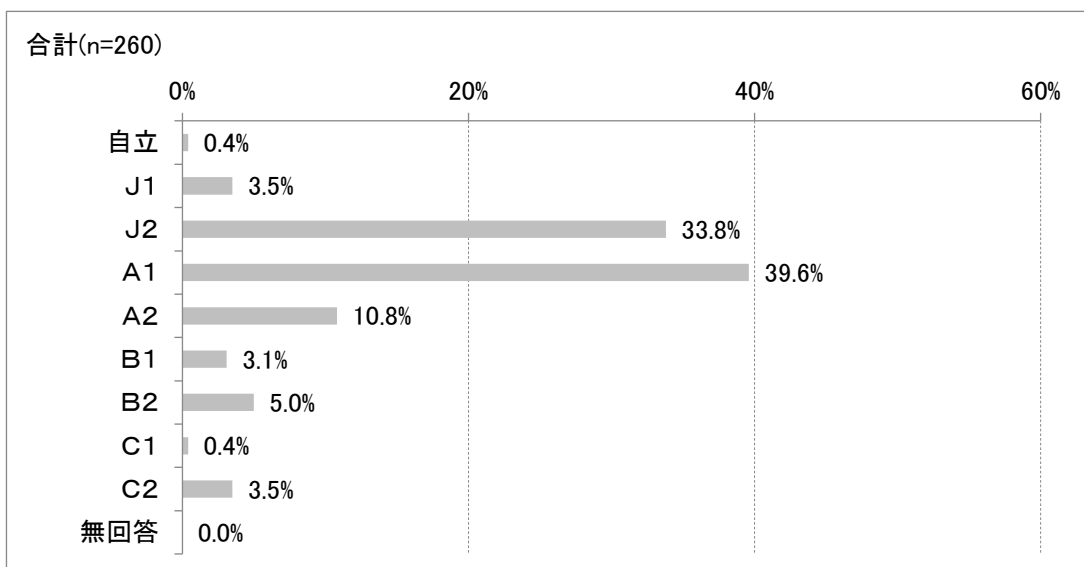
令和2年度調査と比較すると、「J2」が7.5ポイント増加し、「A2」が7.1ポイント減少しています。

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



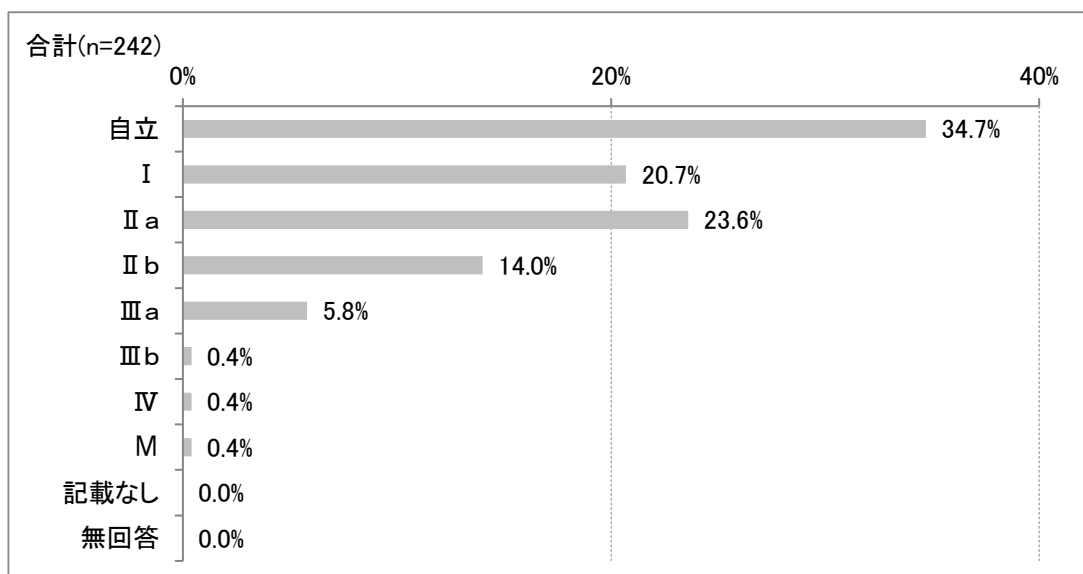
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」の割合が最も高く 34.7%となっています。次いで、「Ⅱ a」(23.6%)、「Ⅰ」(20.7%)となっています。

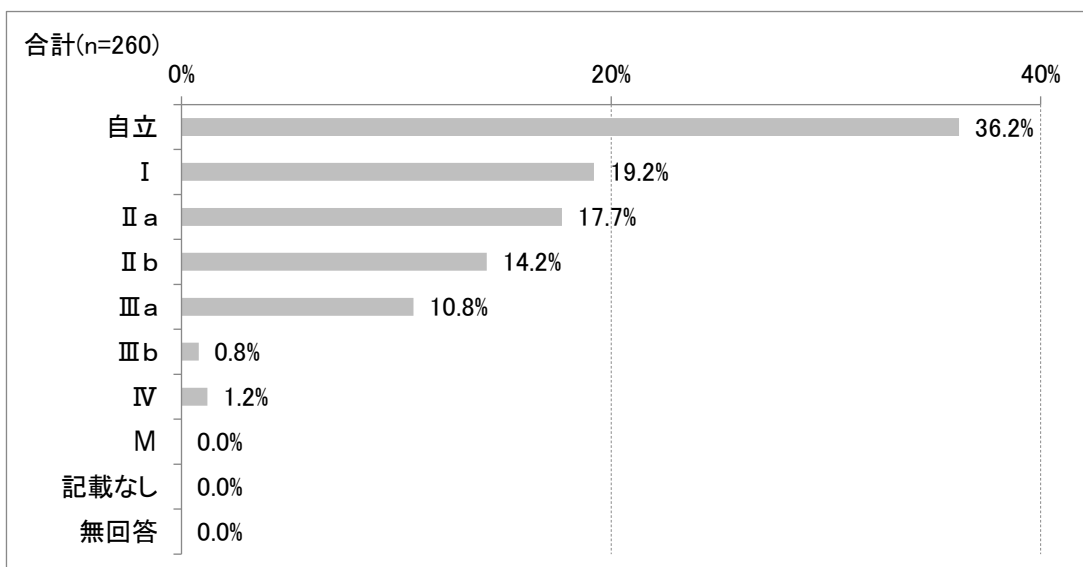
令和2年度調査と比較すると、「Ⅱ a」が 5.9 ポイント増加し、「Ⅲ a」が 5.0 ポイント減少しています。

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



Ⅱ クロス集計結果

Ⅰ 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

Ⅰ.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。

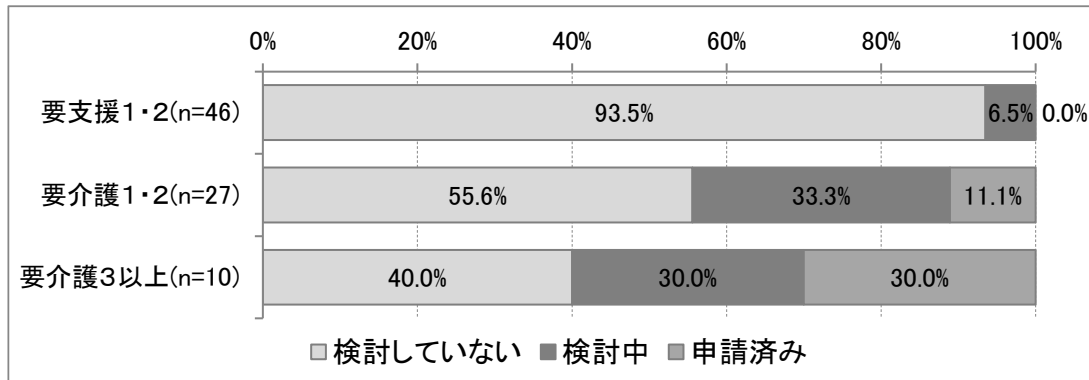
Ⅰ.2 集計結果の傾向

(Ⅰ) 要介護度・世帯類型別の施設等検討の状況

【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

単身世帯での施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が93.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が6.5%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が11.1%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が40.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が30.0%となっています。

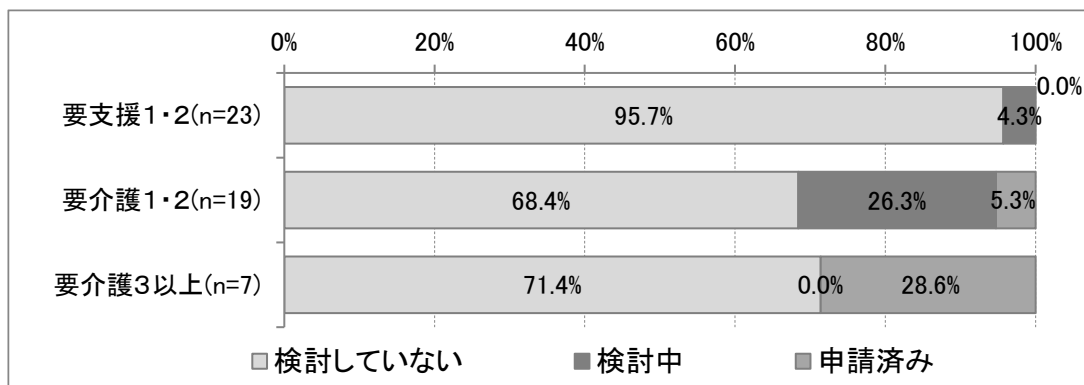
図表 1-1 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯の施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が95.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が4.3%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が68.4%と最も割合が高く、次いで「検討中」が26.3%、「申請済み」が5.3%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が71.4%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が28.6%となっています。

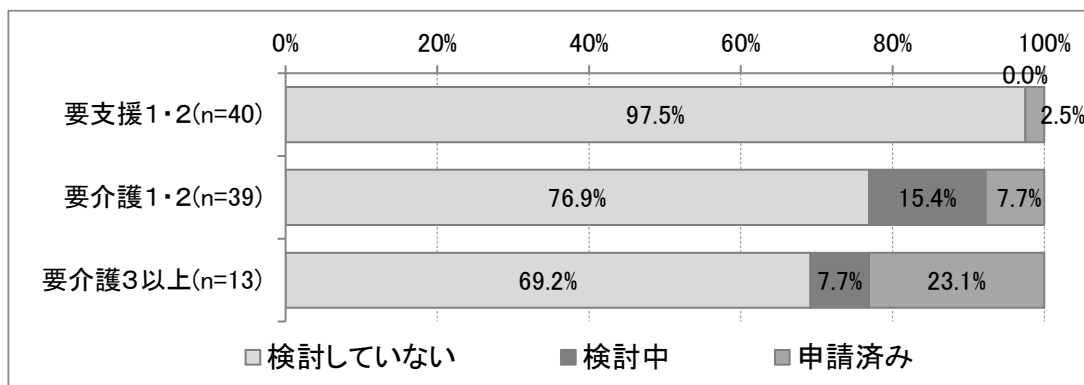
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）】

その他の世帯の施設等の検討状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「検討していない」が97.5%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が2.5%となっています。「要介護1・2」では「検討していない」が76.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が15.4%、「申請済み」が7.7%となっています。「要介護3以上」では「検討していない」が69.2%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が23.1%、「検討中」が7.7%となっています。

図表 1-3 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）

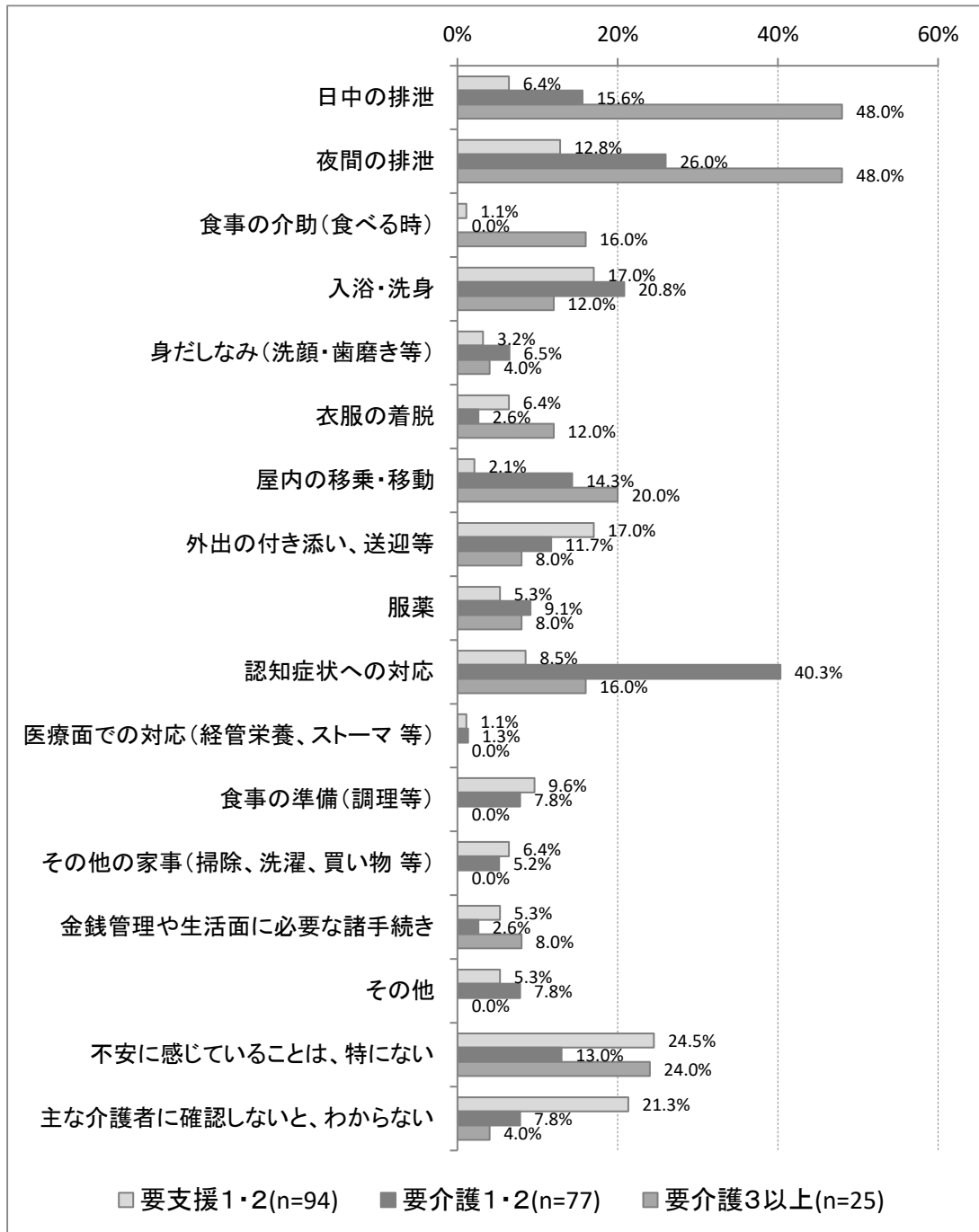


(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う主な介護者が不安に感じる介護

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

要介護度別にみると、「要支援1・2」では「不安に感じていることは、特にない」が24.5%と最も割合が高く、「要介護1・2」では「認知症状への対応」が40.3%、「要介護3以上」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」がともに48.0%と最も割合が高くなっています。

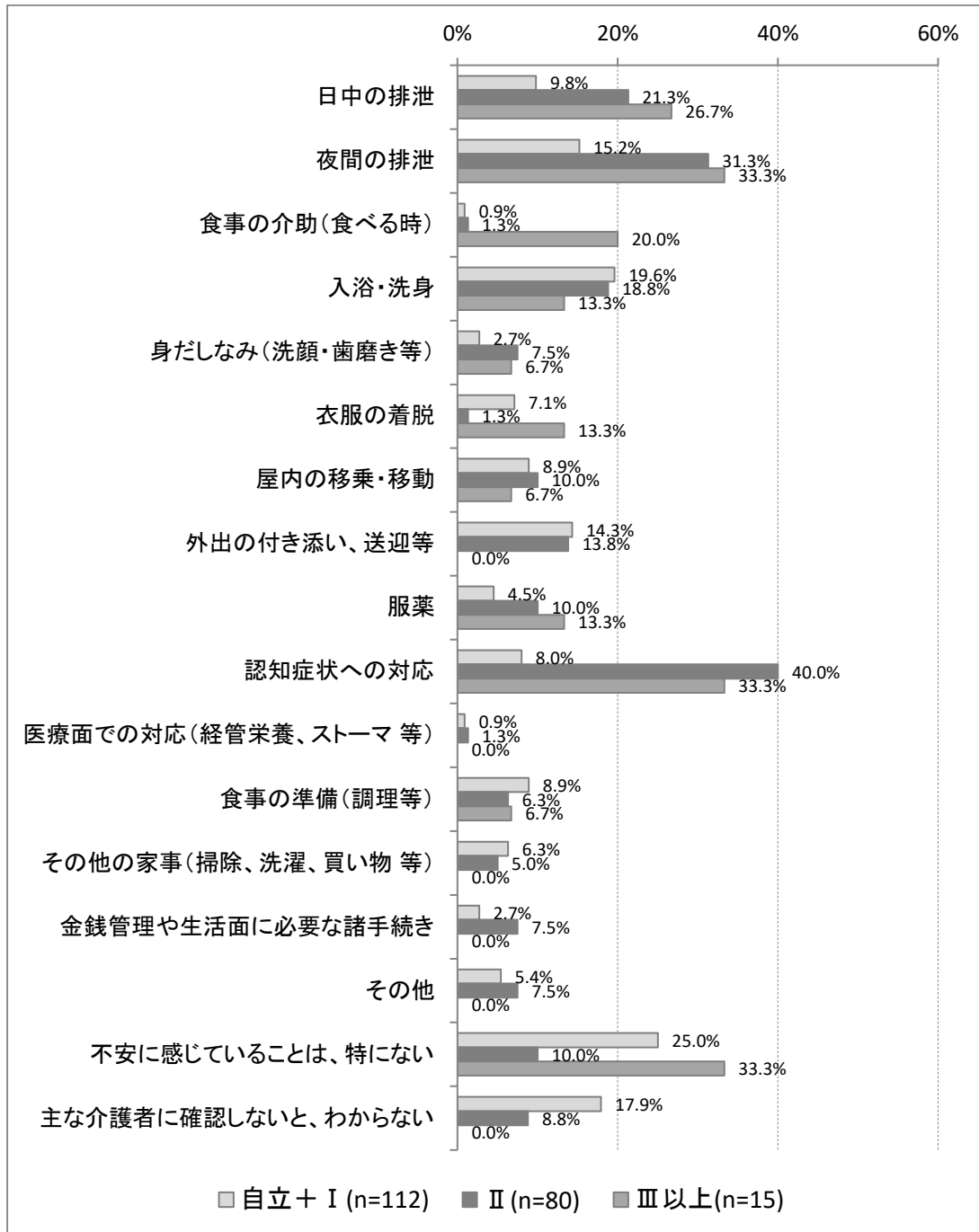
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護】

認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「不安に感じていることは、特にない」が25.0%と最も割合が高く、「Ⅱ」では「認知症状への対応」が40.0%、「Ⅲ以上」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「不安に感じていることは、特にない」がいずれも33.3%と最も割合が高くなっています。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安を感じる介護

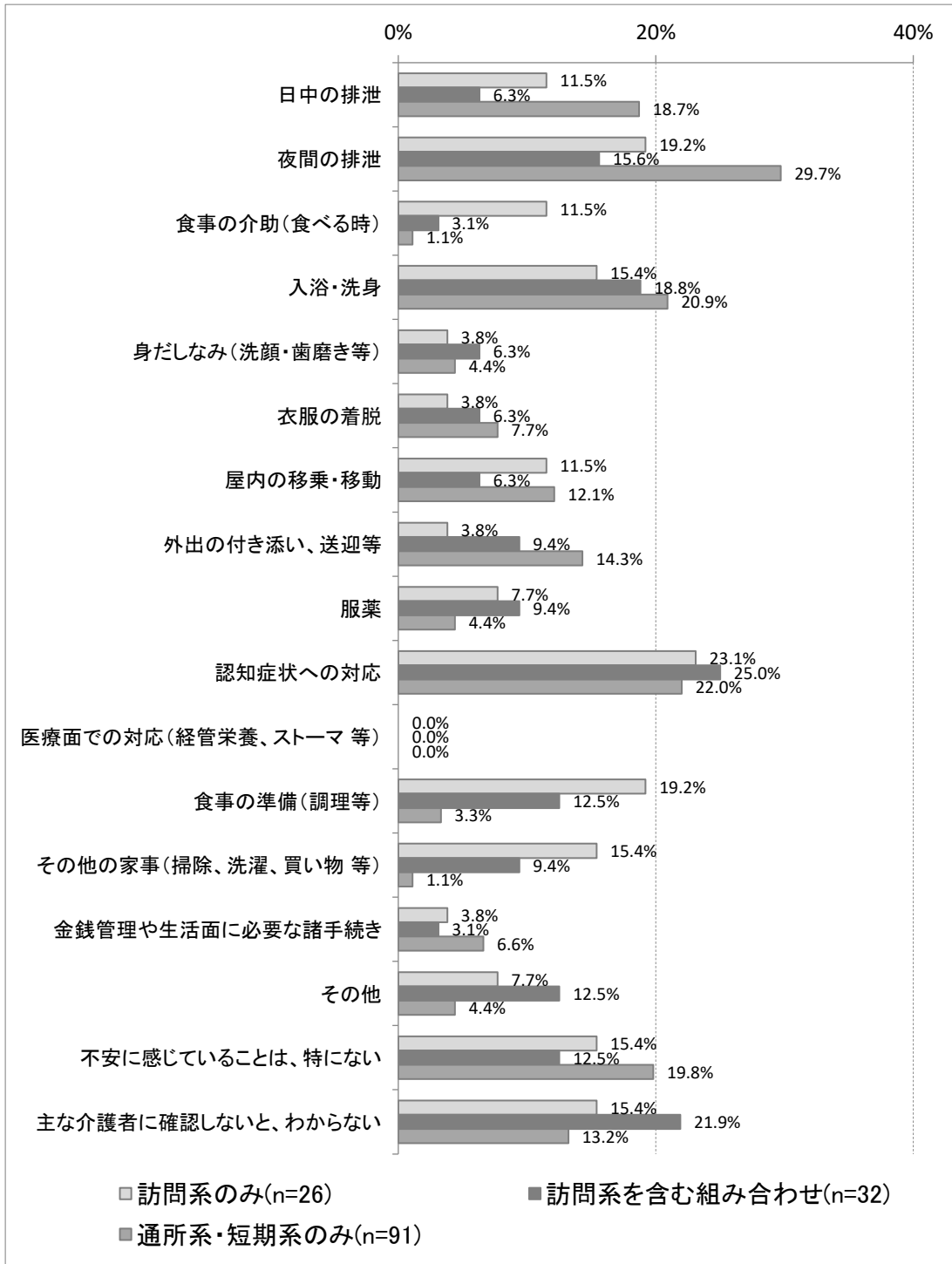


(3) サービス利用組み合わせ別の主な介護者が不安を感じる介護

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護】

サービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」では「認知症場への対応」が最も割合が高く、「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」が29.7%と最も割合が高くなっています。

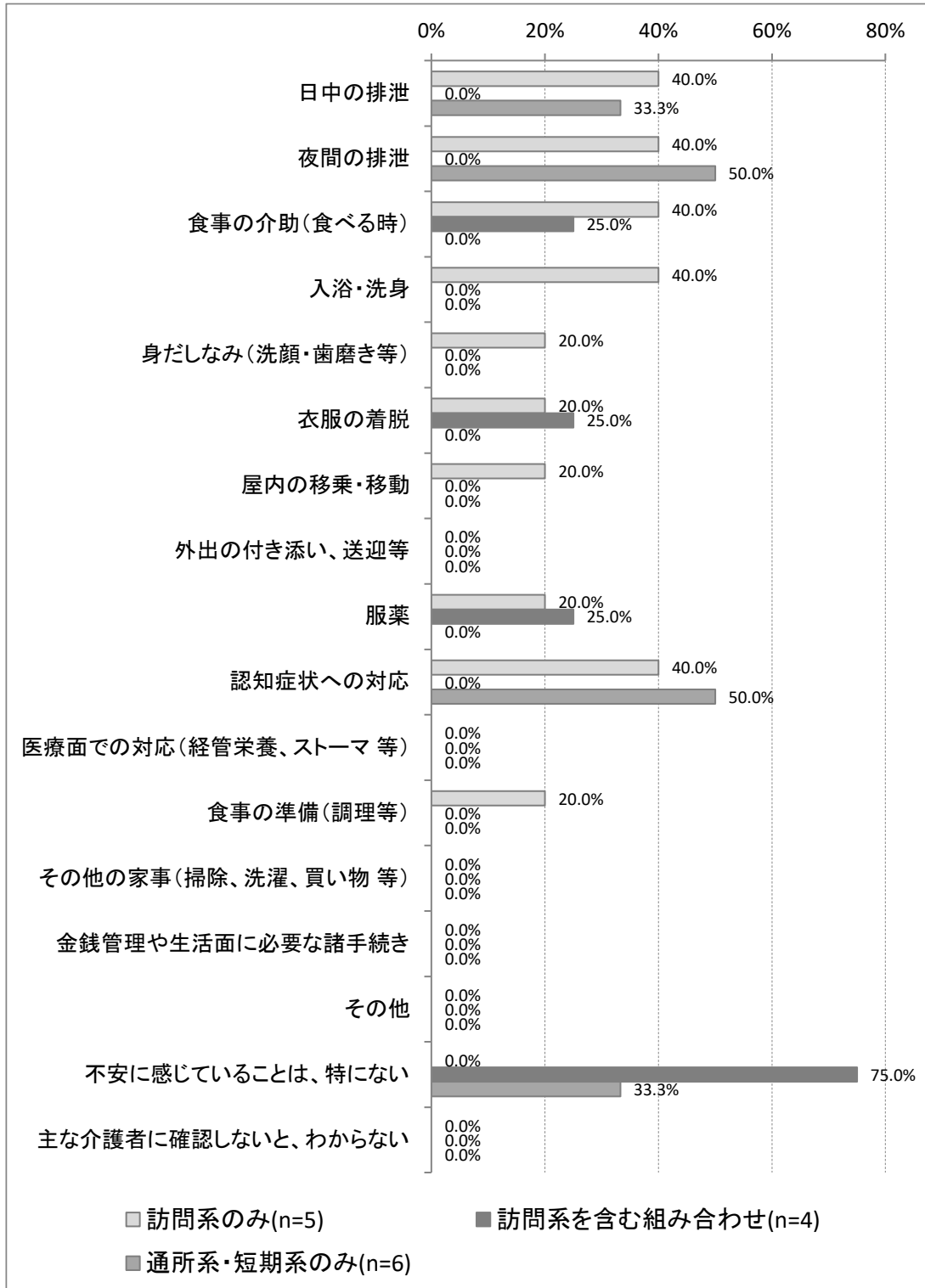
図表 1-6 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

認知症自立度Ⅲ以上でのサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が40.0%、「訪問系を含む組み合わせ」では「不安に感じていることは、特にない」が75.0%、「通所系・短期系のみ」では「夜間の排泄」、「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高くなっています。

図表 1-7 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）

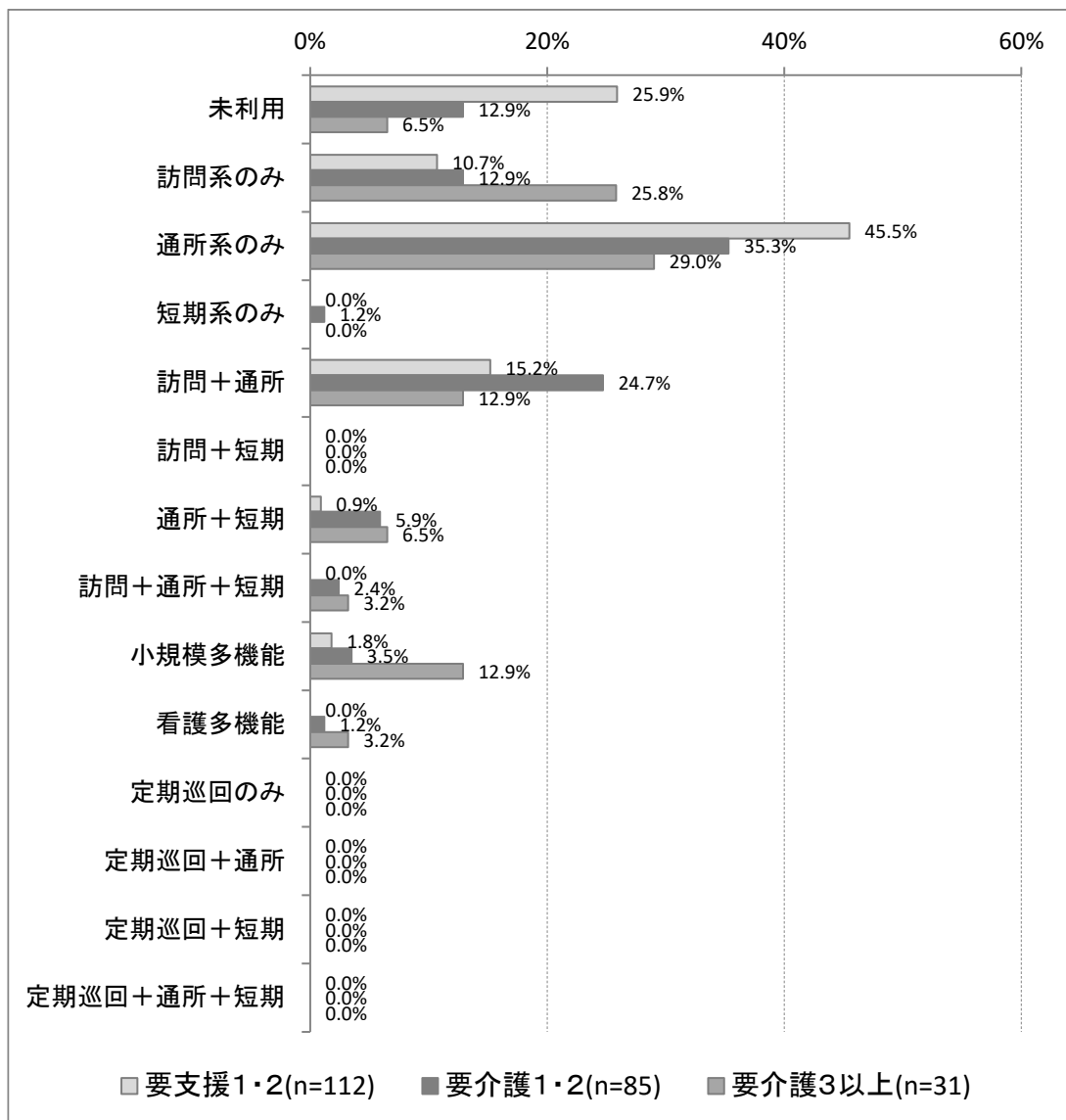


(4) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴うサービス利用の組み合わせ

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを、要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系のみ」が45.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.9%、「訪問+通所」が15.2%となっています。「要介護1・2」では「通所系のみ」が35.3%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が24.7%、「未利用」、「訪問系のみ」が12.9%となっています。「要介護3以上」では「通所系のみ」が29.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が25.8%、「訪問+通所」、「小規模多機能」が12.9%となっています。

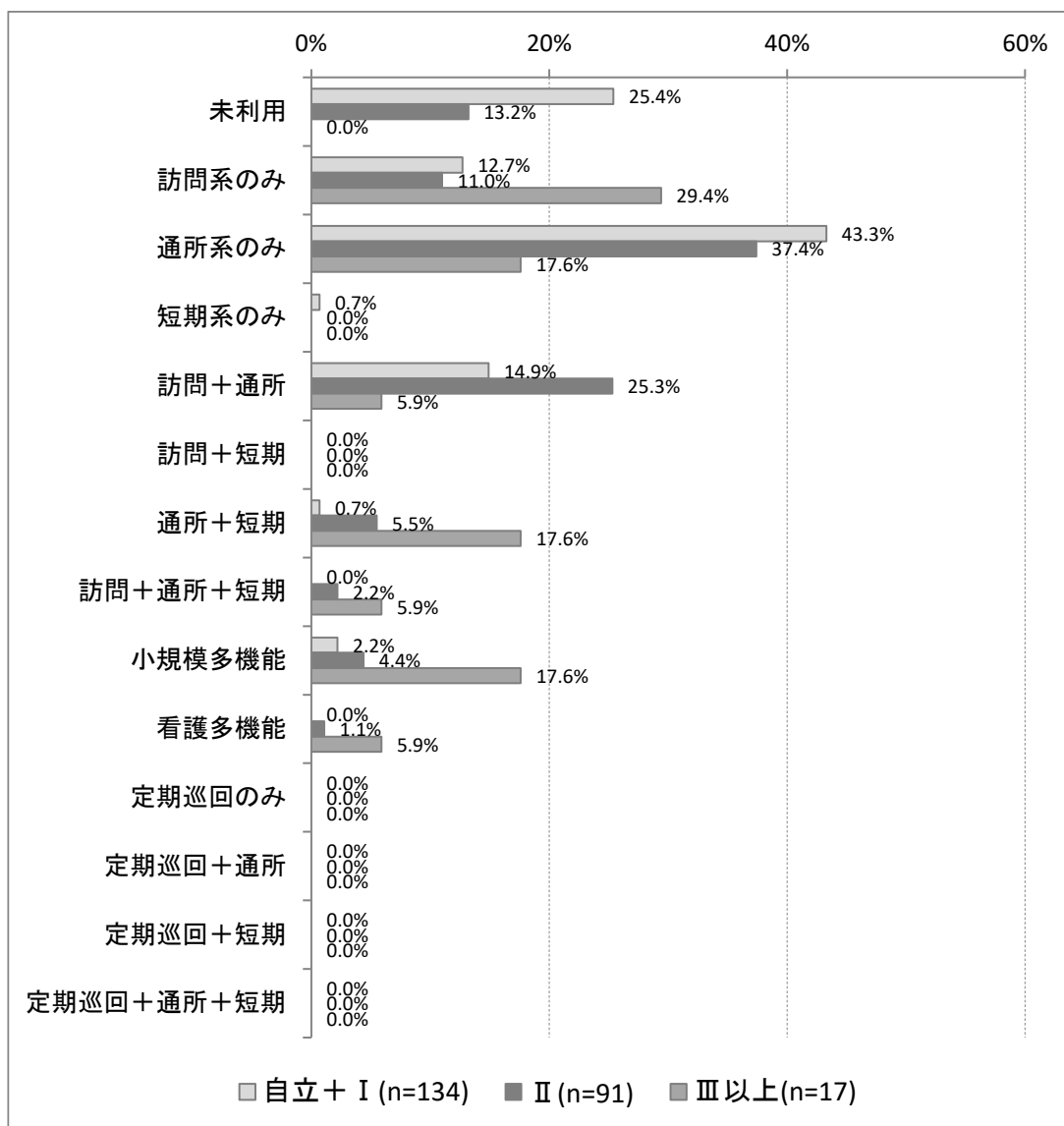
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系のみ」が43.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が25.4%、「訪問+通所」が14.9%となっています。「Ⅱ」では「通所系のみ」が37.4%と最も割合が高く、次いで「訪問+通所」が25.3%、「未利用」が13.2%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問系のみ」が29.4%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」、「通所+短期」、「小規模多機能」が17.6%、「訪問+通所」、「訪問+通所+短期」、「看護多機能」が5.9%となっています。

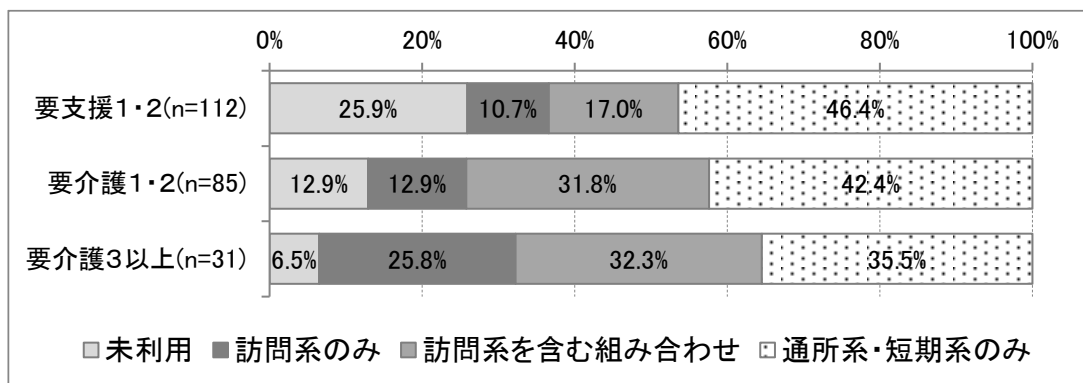
図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（3種類分類）】

「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したサービス利用の組み合わせを、要介護度別にみると、いずれも「通所系・短期系のみ」が最も割合が高く、要介護度が上がるにつれ、その割合は低くなっています。また、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」については、要介護度が上がるにつれ、その割合は高くなっています。

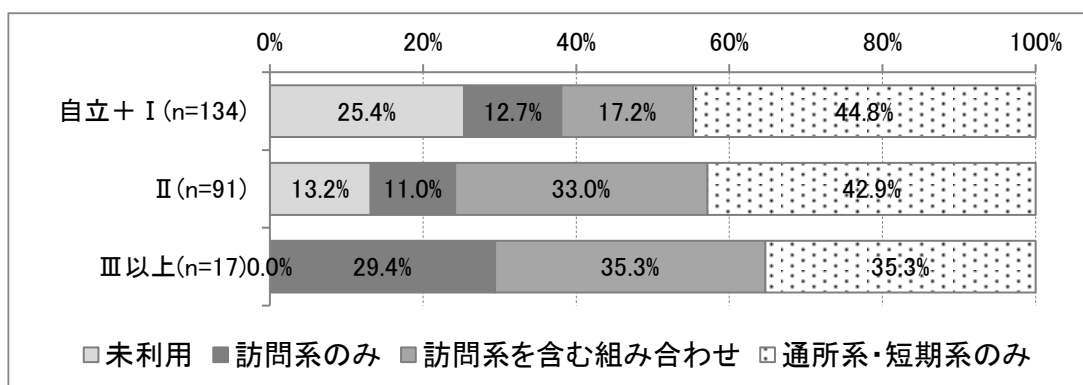
図表 1-10 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（3種類分類）】

認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」、「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」最も割合が高く、「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」がともに35.3%と最も割合が高くなっています。また、「訪問系を含む組み合わせ」については、要介護度が上がるにつれ、その割合は高くなっています。

図表 1-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。

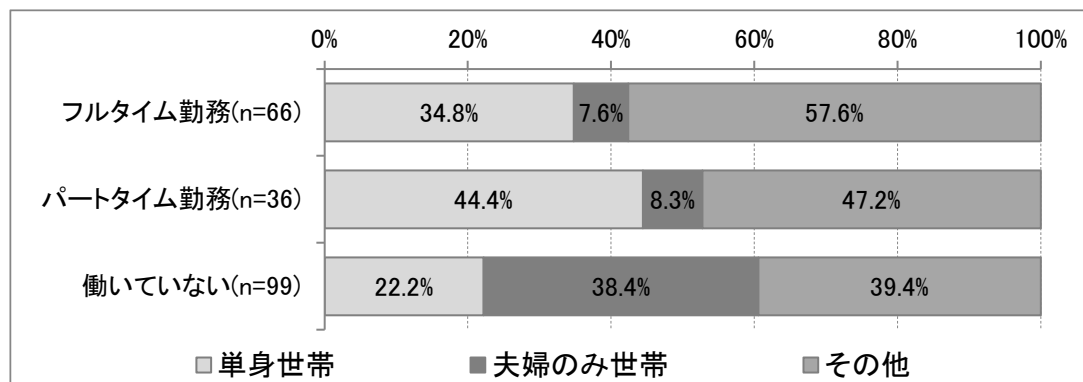
2.2 集計結果の傾向

(1) 就労状況別の主な介護者等の基本属性

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」および「パートタイム勤務」では「その他」が最も割合が高く、次いで「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」となっています。「働いていない」では「その他」が最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」、「単身世帯」の順となっています。

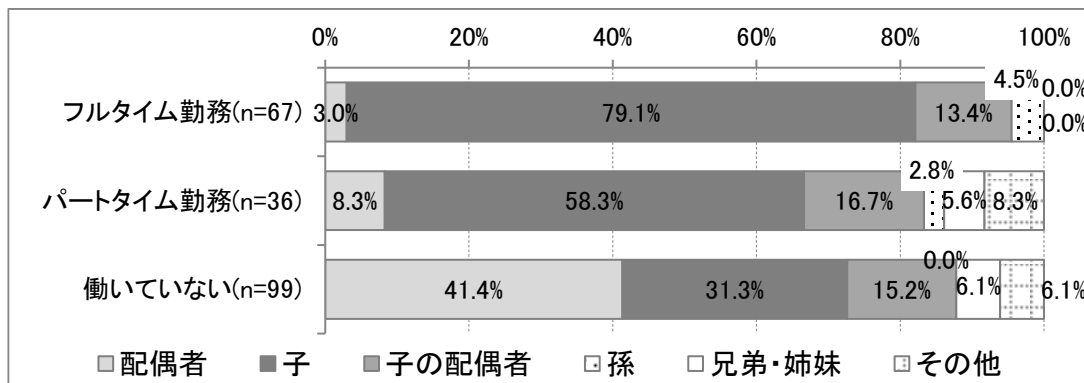
図表 2-1 就労状況別・世帯類型



【就労状況別・主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が79.1%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が13.4%、「孫」が4.5%となっています。「パートタイム勤務」では「子」が58.3%と最も割合が高く、次いで「子の配偶者」が16.7%、「配偶者」、「その他」が8.3%となっています。「働いていない」では「配偶者」が41.4%と最も割合が高く、次いで「子」が31.3%、「子の配偶者」が15.2%となっています。

図表 2-2 就労状況別・主な介護者の本人との関係

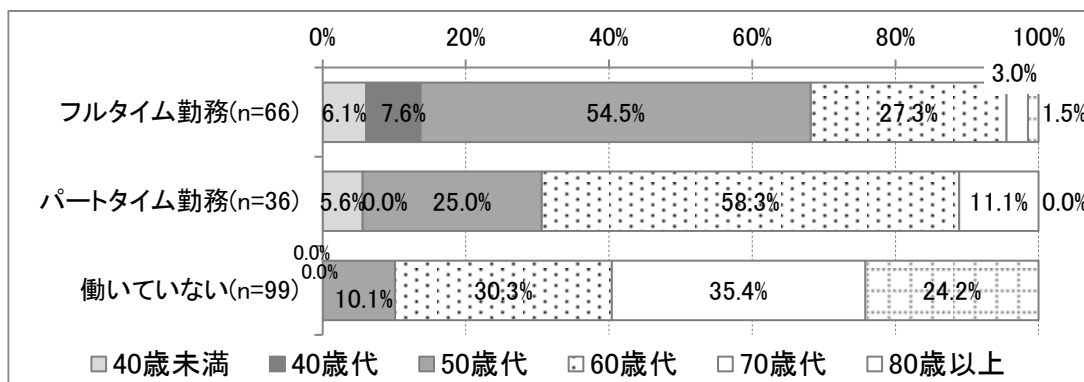


【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「50歳代」が54.5%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が27.3%、「40歳代」が7.6%となっています。「パートタイム勤務」では「60歳代」が58.3%と最も割合が高く、次いで「50歳代」が25.0%、「70歳代」が11.1%となっています。「働いていない」では「70歳代」が35.4%と最も割合が高く、次いで「60歳代」が30.3%、「80歳以上」が24.2%となっています。

介護者が就労していない場合は、介護者の年齢が高齢となる傾向がみられます。

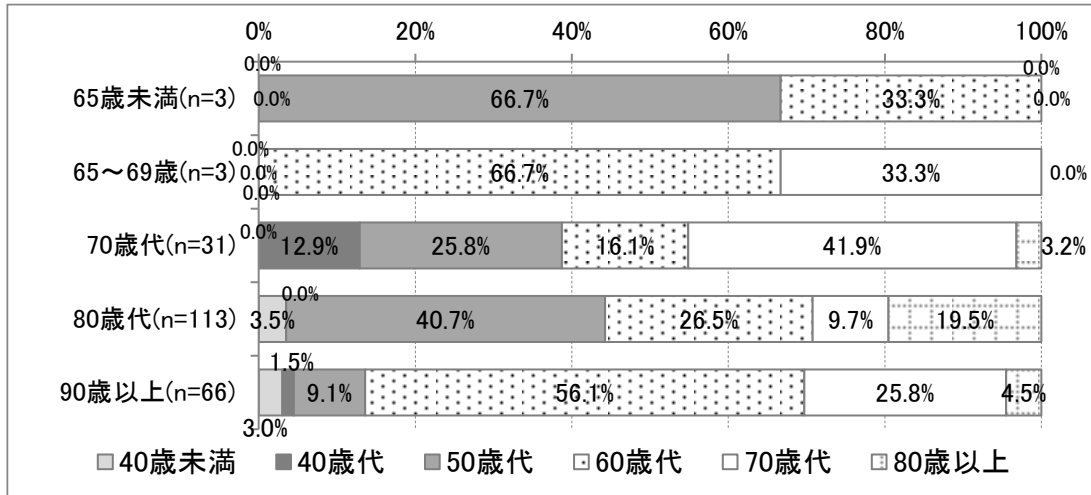
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「50歳代」(66.7%)、「65～69歳」では「60歳代」(66.7%)、「70歳代」では「70歳代」(41.9%)、「80歳代」では「50歳代」(40.7%)、「90歳以上」では「60歳代」(56.1%)がそれぞれ最も割合が高くなっています。

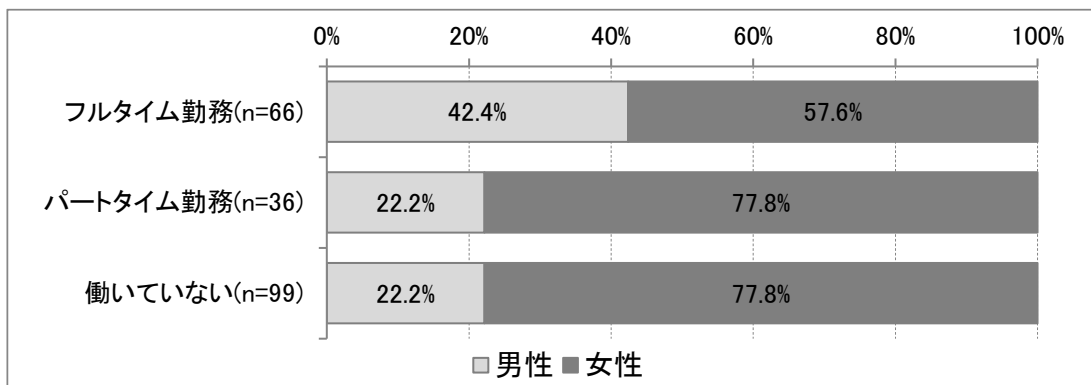
図表 2-4 本人の年齢別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「女性」が57.6%、「男性」が42.4%となっています。「パートタイム勤務」では「女性」の割合がさらに高くなり、77.8%を占め、「男性」が22.2%となっています。「働いていない」でも同様に、「女性」が77.8%、「男性」が22.2%となっています。

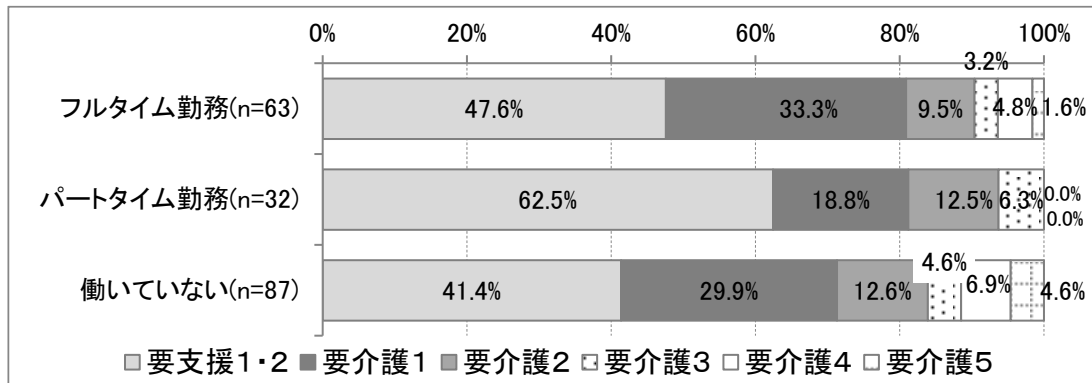
図表 2-5 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

要介護度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では要介護者の介護度は「要支援1・2」のが47.6%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が33.3%、「要介護2」が9.5%となっています。「パートタイム勤務」では「要支援1・2」が62.5%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が18.8%、「要介護2」が12.5%となっています。「働いていない」では「要支援1・2」が41.4%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が29.9%、「要介護2」が12.6%となっています。

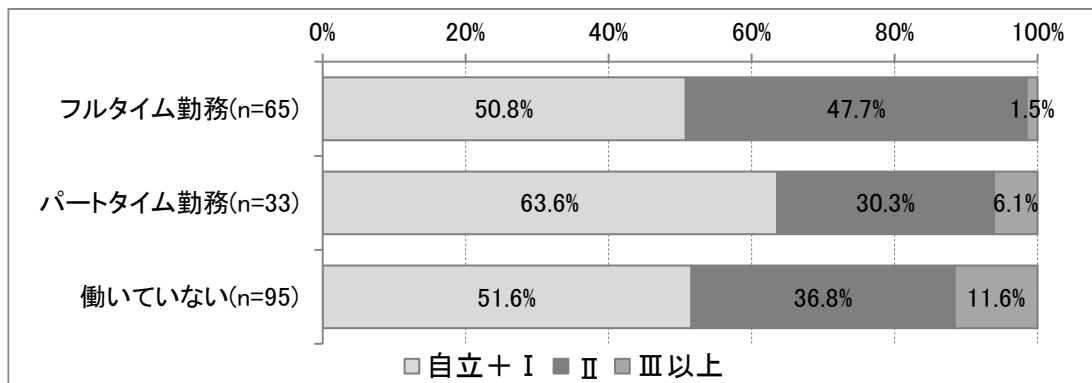
図表 2-6 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が50.8%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が47.7%、「Ⅲ以上」が1.5%となっています。「パートタイム勤務」では「自立+Ⅰ」が63.6%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が30.3%、「Ⅲ以上」が6.1%となっています。「働いていない」では「自立+Ⅰ」が51.6%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が36.8%、「Ⅲ以上」が11.6%となっています。

図表 2-7 就労状況別・認知症自立度

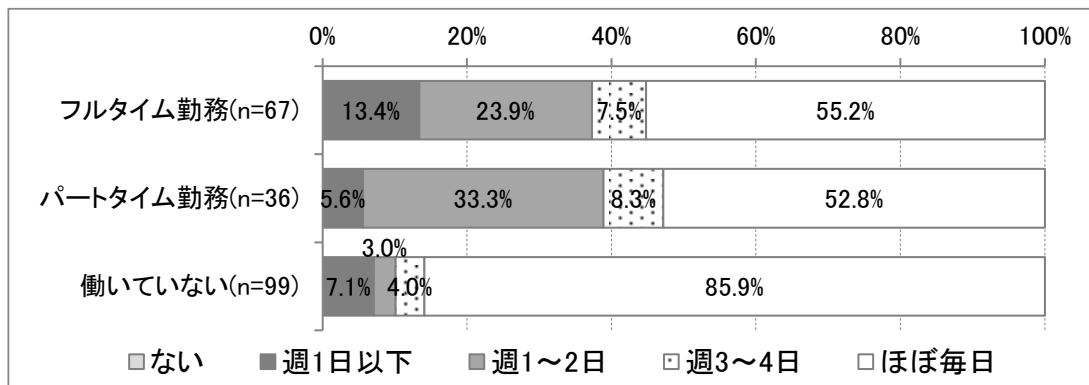


(2) 就労状況別の主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が55.2%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が23.9%、「週1日以下」が13.4%となっています。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が52.8%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が33.3%、「週3～4日」が8.3%となっています。「働いていない」では「ほぼ毎日」が85.9%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が7.1%、「週3～4日」が4.0%となっています。

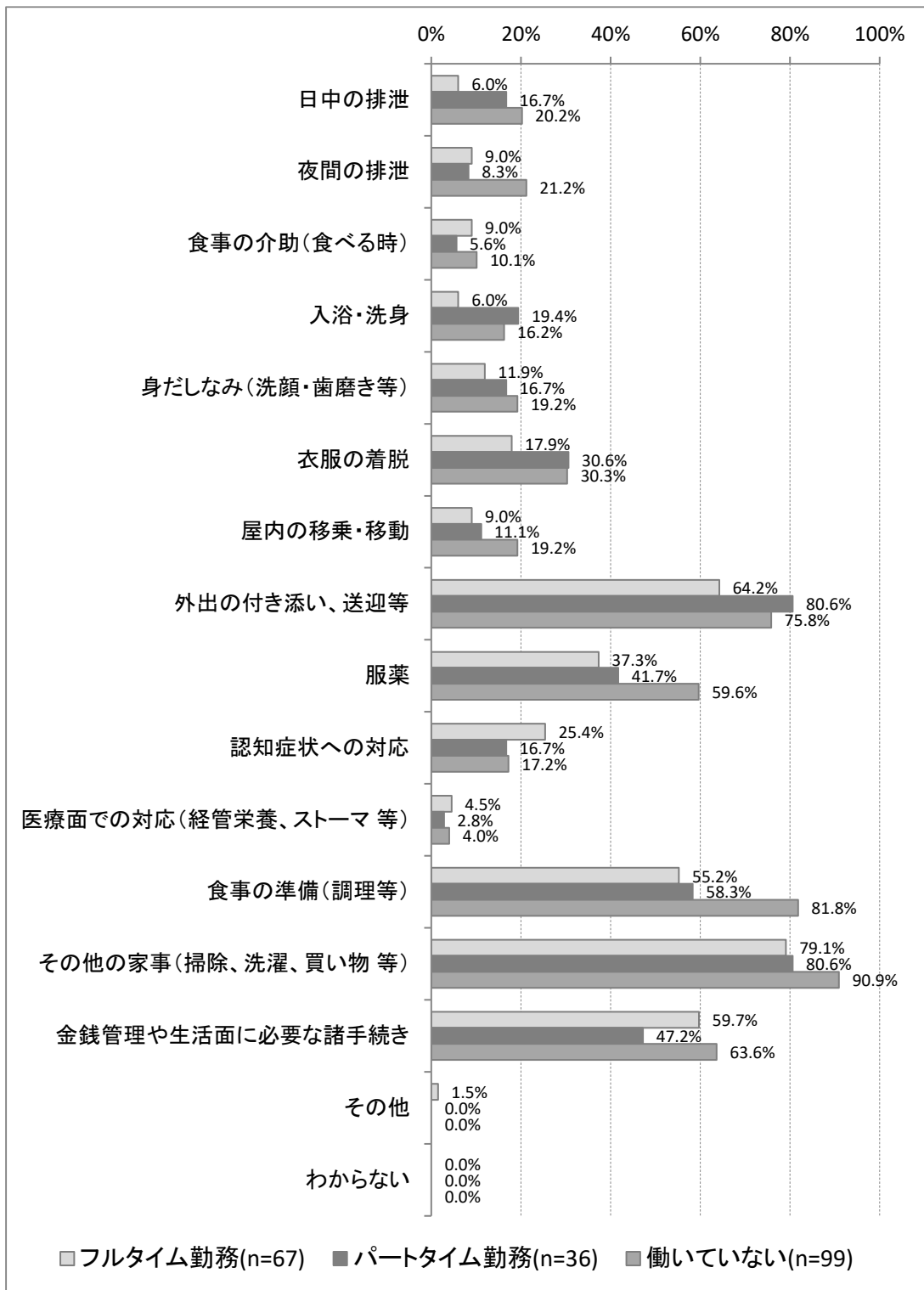
図表 2-8 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・主な介護者が行っている介護】

主な介護者が行っている介護を就労状況別にみると、「フルタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（79.1%）、「パートタイム勤務」では「外出の付き添い、送迎等」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（ともに80.6%）、「働いていない」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（90.9%）がそれぞれ最も割合が高くなっています。

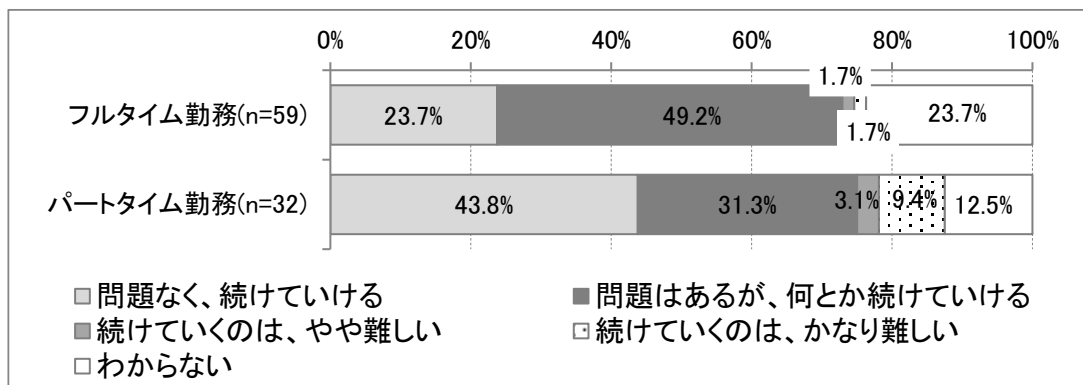
図表 2-9 就労状況別・主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が49.2%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「わからない」が23.7%となっています。「パートタイム勤務」では「問題なく、続けていける」が43.8%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が31.3%、「わからない」が12.5%となっています。

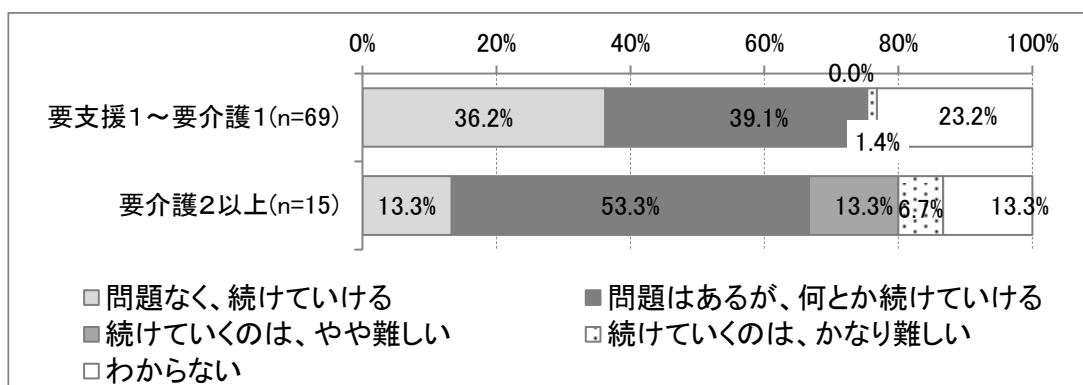
図表 2-10 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を要介護度別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が39.1%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が36.2%、「わからない」が23.2%となっています。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が53.3%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」、「わからない」が13.3%、「続けていくのは、かなり難しい」が6.7%となっています。

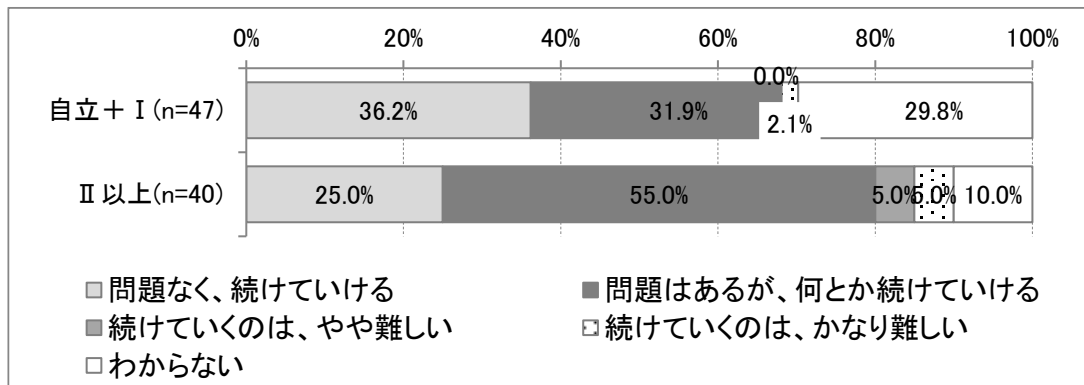
図表 2-11 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「問題なく、続けていける」が36.2%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が31.9%、「わからない」が29.8%となっています。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が55.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が25.0%、「わからない」が10.0%となっています。

図表 2-12 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）

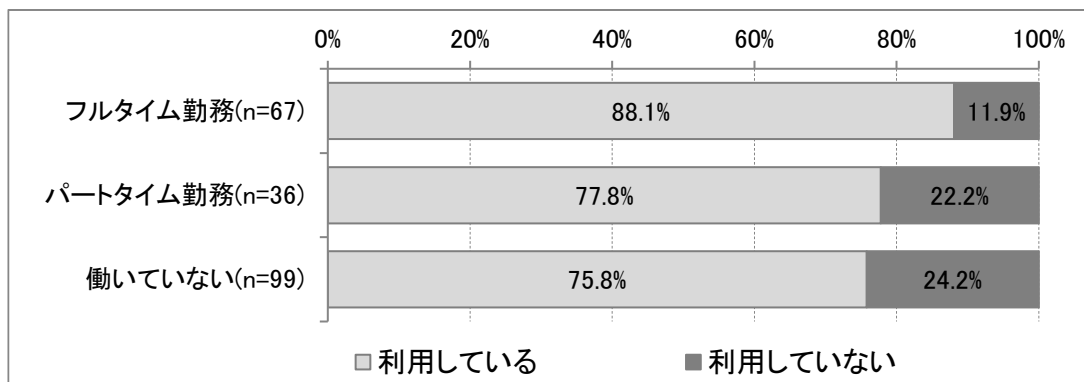


(3) 就労状況、就労継続見込み別の介護保険サービスの利用状況と主な介護者が不安に感じる介護

【就労状況別・介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が88.1%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が11.9%となっています。「パートタイム勤務」では「利用している」が77.8%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が22.2%となっています。「働いていない」では「利用している」が75.8%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が24.2%となっています。

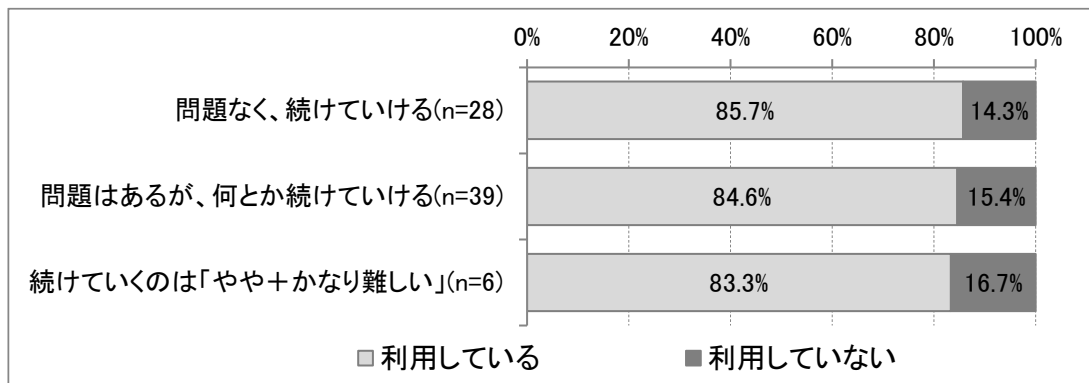
図表 2-13 就労状況別・介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が85.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が14.3%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が84.6%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が15.4%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」では「利用している」が83.3%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が16.7%となっています。

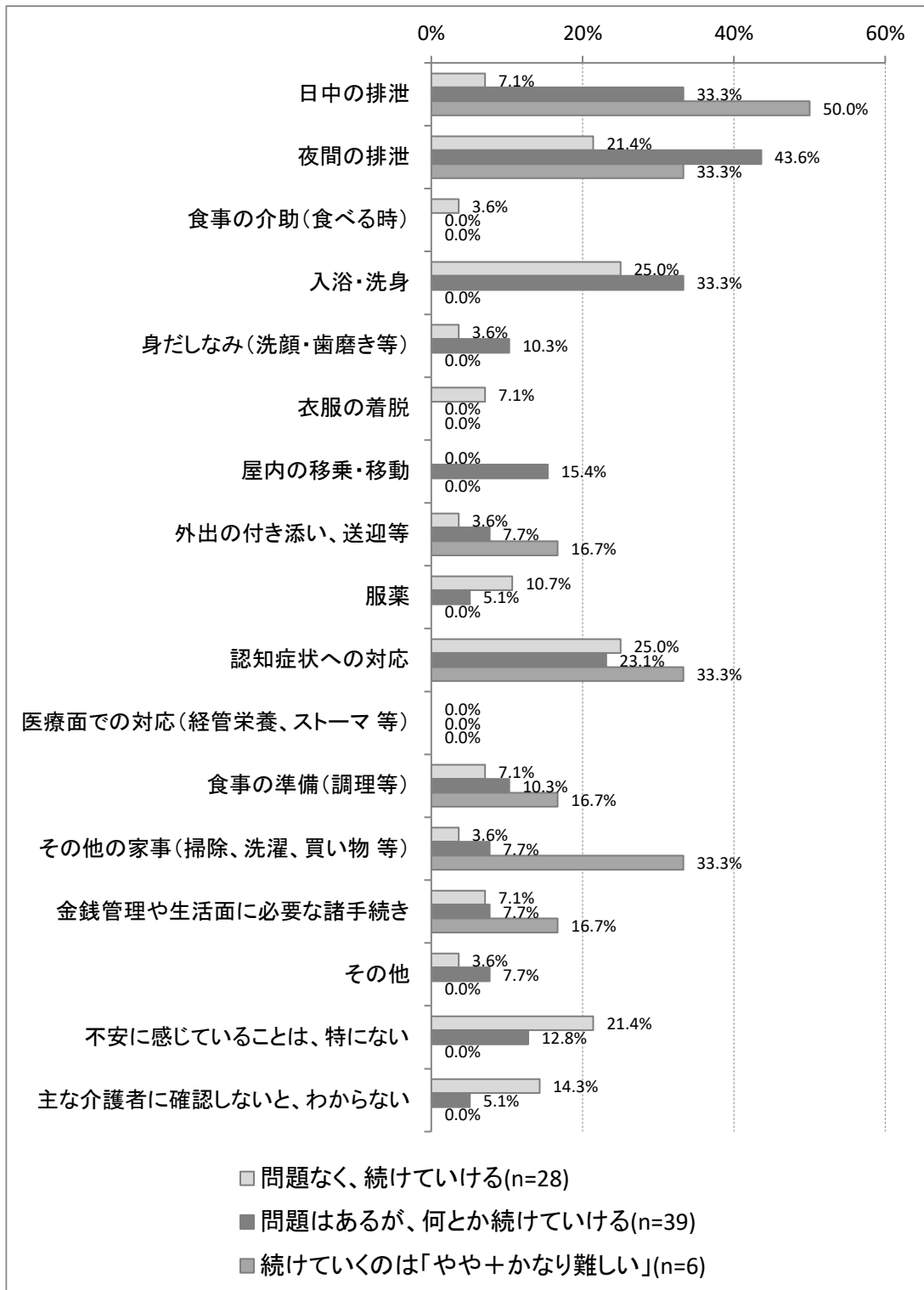
図表 2-14 就労継続見込み別・介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が25.0%と最も割合が高く、「問題はあるが、何とか続けていける」では「夜間の排泄」が43.6%と最も割合が高く、「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「日中の排泄」が50.0%と最も割合が高くなっています。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務＋パートタイム勤務)

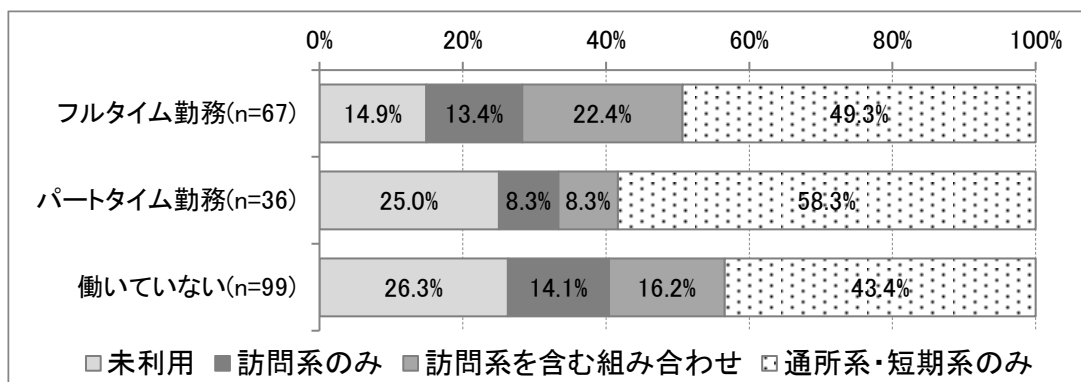


(4) 就労状況別のサービス利用の組み合わせの状況

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを、介護者の勤務形態別にみると、いずれの勤務形態においても、「通所系・短期系のみ」がと最も割合が高くなっています。「訪問系を含む組み合わせ」については、「フルタイム勤務」で22.4%を占め、他の勤務形態に比べて割合が高くなっています。

図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ

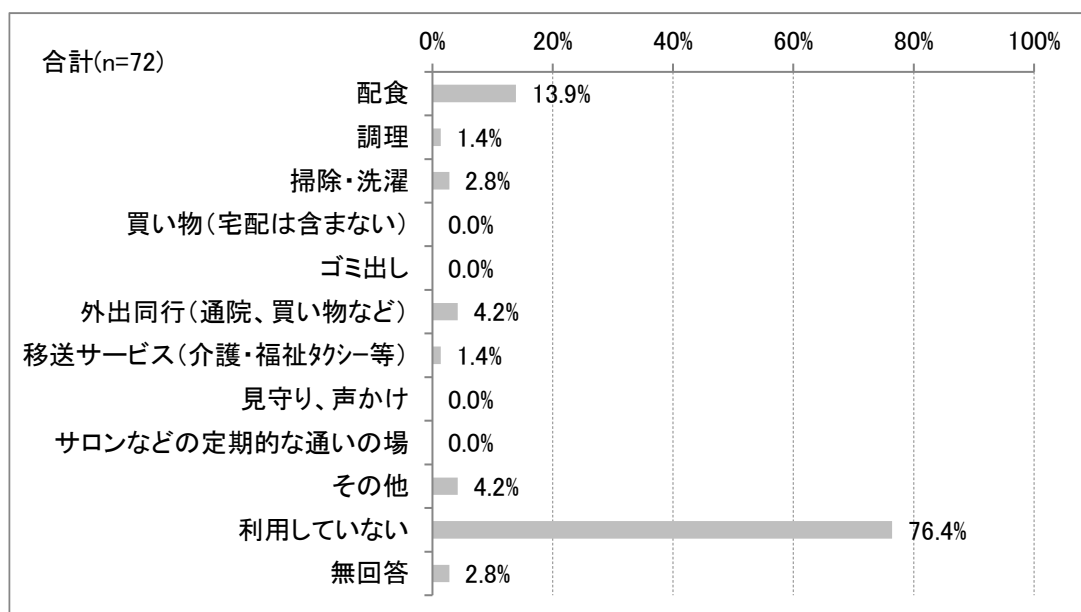


(5) 就労状況別の保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）】

利用している保険外の支援・サービスを「フルタイム勤務」の介護者の場合でみると、「利用していない」の割合が76.4%と最も高くなっており、次いで、「配食（13.9%）」、「外出同行（通院、買い物など）（4.2%）」、「その他（4.2%）」となっています。

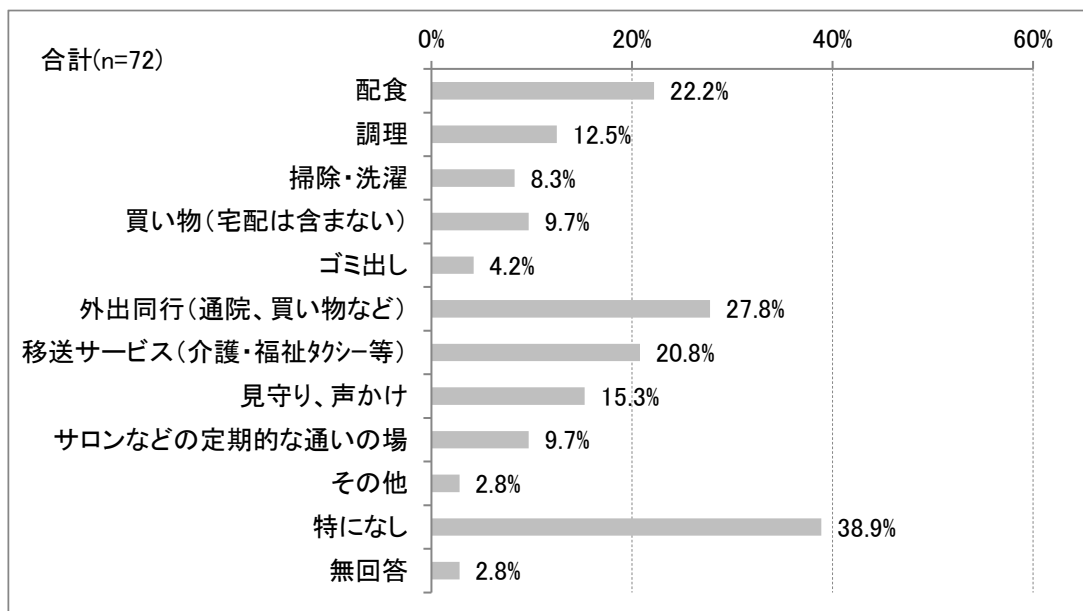
図表 2-17 利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）】

在宅生活の継続に必要と感じる支援サービスを「フルタイム勤務」の介護者の場合でみると、「特になし」の割合が38.9%と最も高くなっており、次いで、「外出同行（通院、買い物など）（27.8%）」、「配食（22.2%）」となっています。

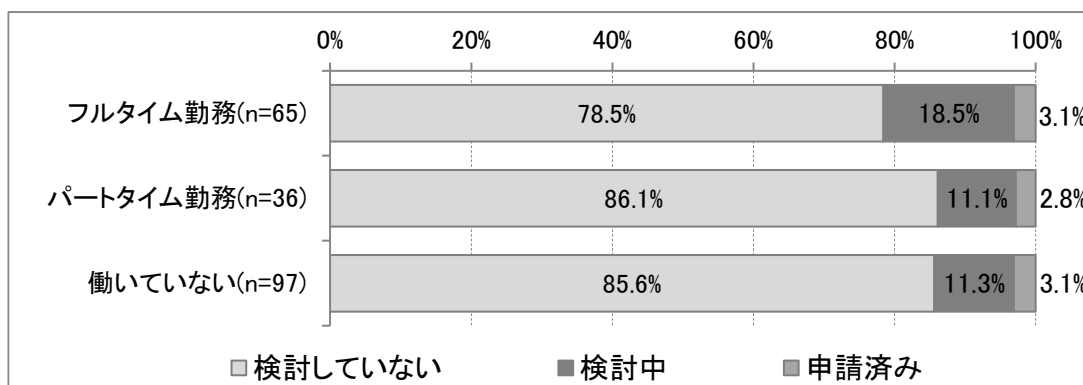
図表 2-18 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が78.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が18.5%、「申請済み」が3.1%となっています。「パートタイム勤務」では「検討していない」が86.1%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.1%、「申請済み」が2.8%となっています。「働いていない」では「検討していない」が85.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が11.3%、「申請済み」が3.1%となっています。

図表 2-19 就労状況別・施設等検討の状況

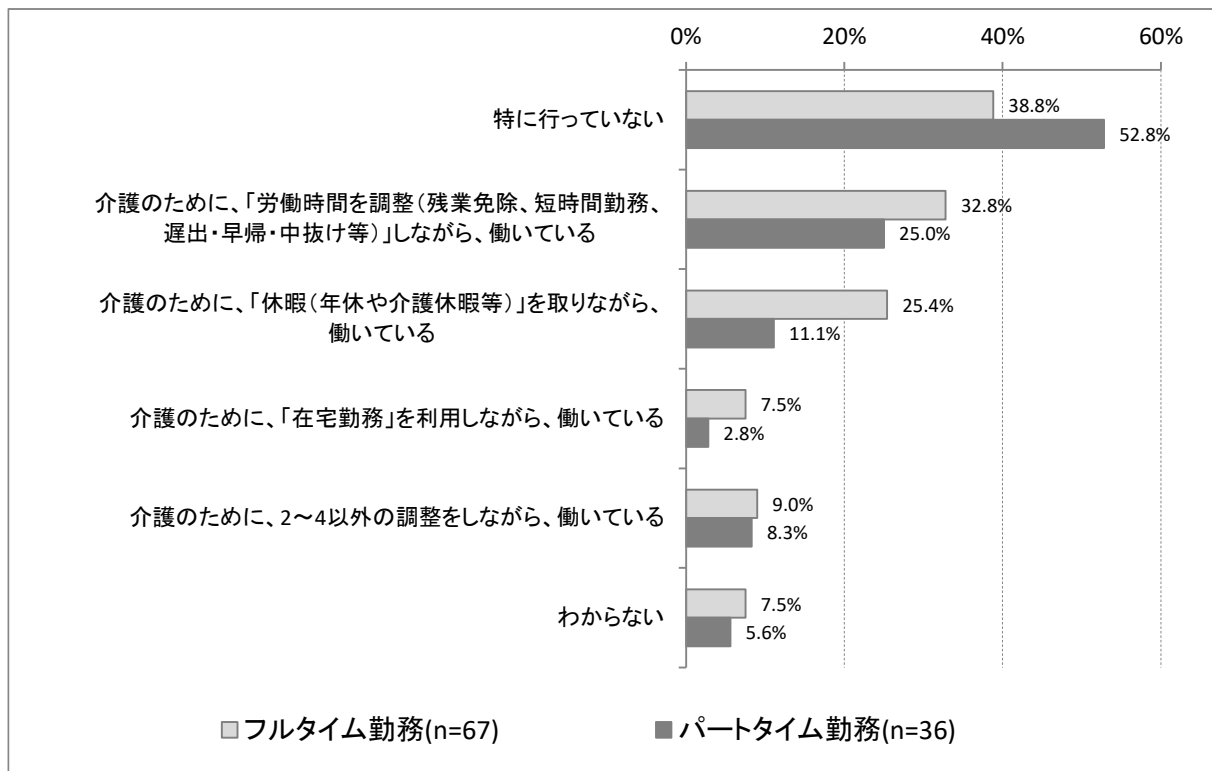


(6) 就労状況別の介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が38.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が32.8%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が25.4%となっています。「パートタイム勤務」では「特に行っていない」が52.8%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が25.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が11.1%となっています。

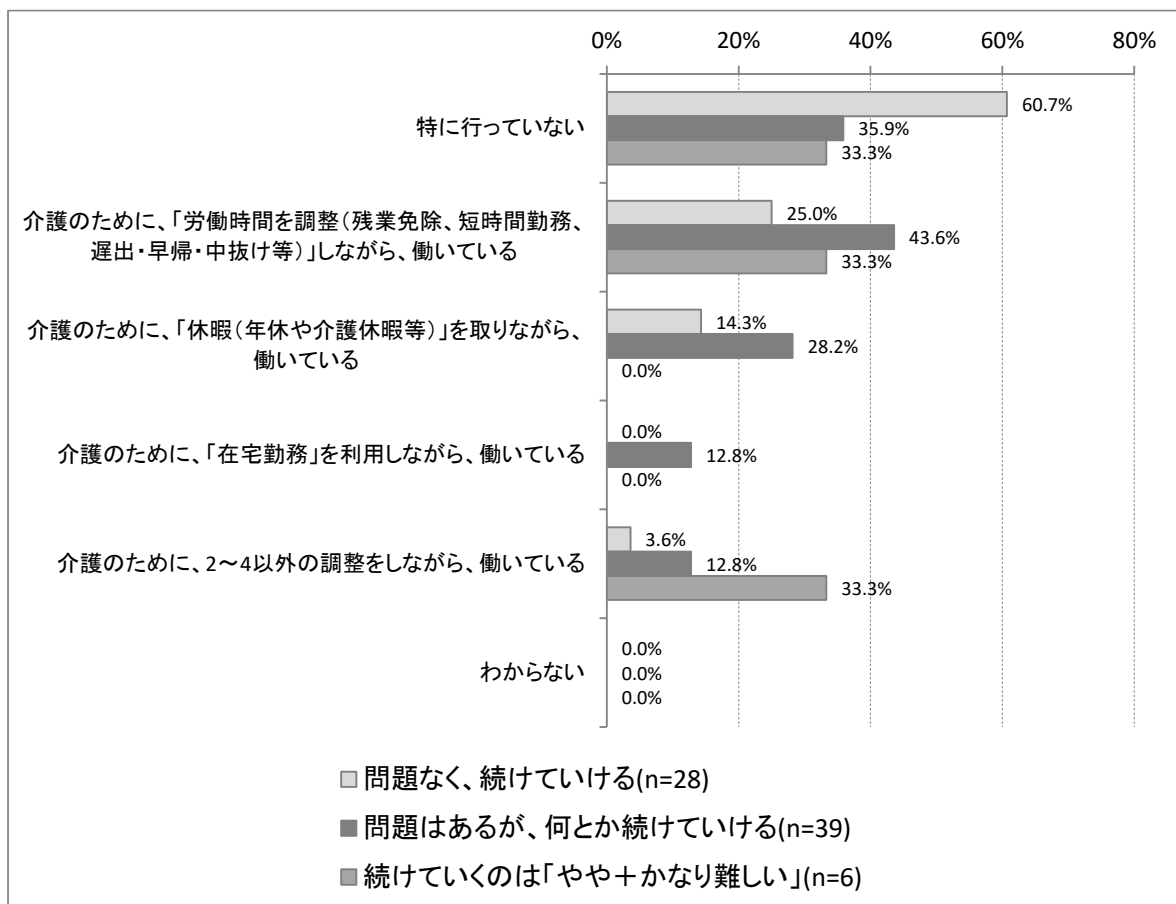
図表 2-20 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が60.7%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が25.0%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が14.3%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が43.6%と最も割合が高く、次いで「特に行っていない」が35.9%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が28.2%となっています。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」がいずれも33.3%となっています。

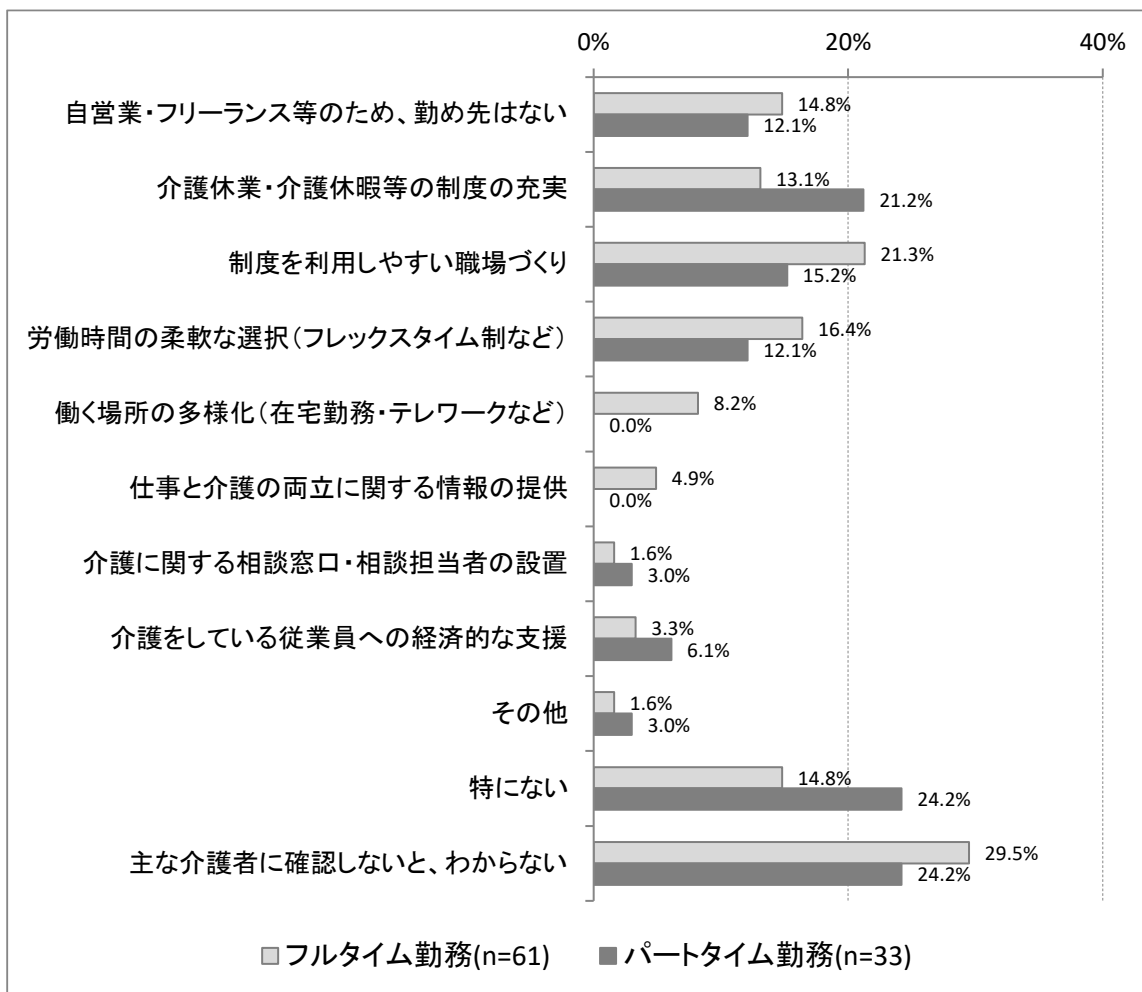
図表 2-21 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【就労状況別・効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「主な介護者に確認しないと、わからない」が29.5%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が21.3%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が16.4%となっています。「パートタイム勤務」では「特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が24.2%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が21.2%、「制度を利用しやすい職場づくり」が15.2%となっています。

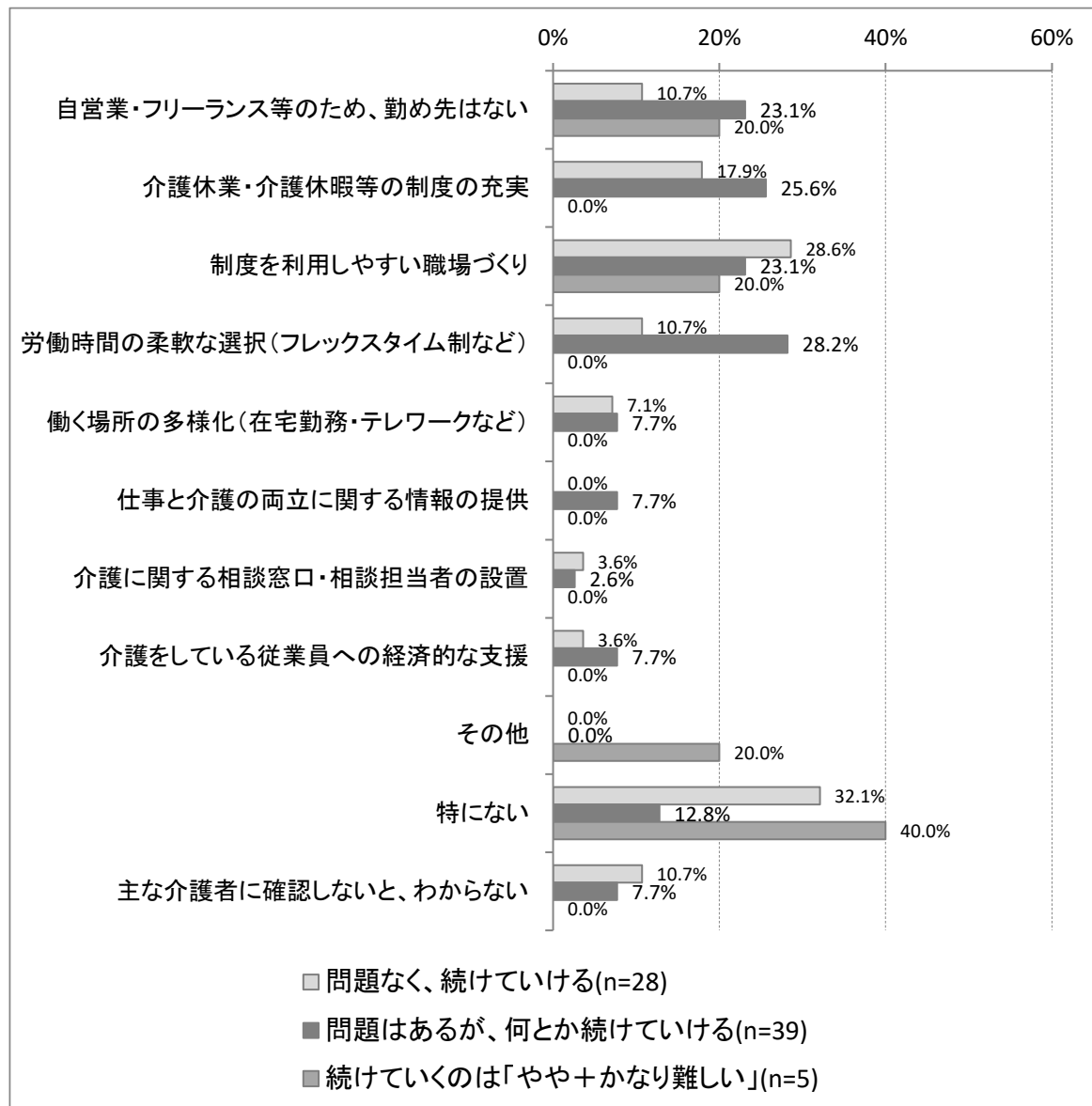
図表 2-22 就労状況別・効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が32.1%と最も割合が高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が28.6%となっています。「問題はあるが、何とか続けていける」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が28.2%と最も割合が高く、「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」では「特にない」が40.0%と最も割合が高くなっています。

図表 2-23 就労継続見込み別・効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

○ ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。

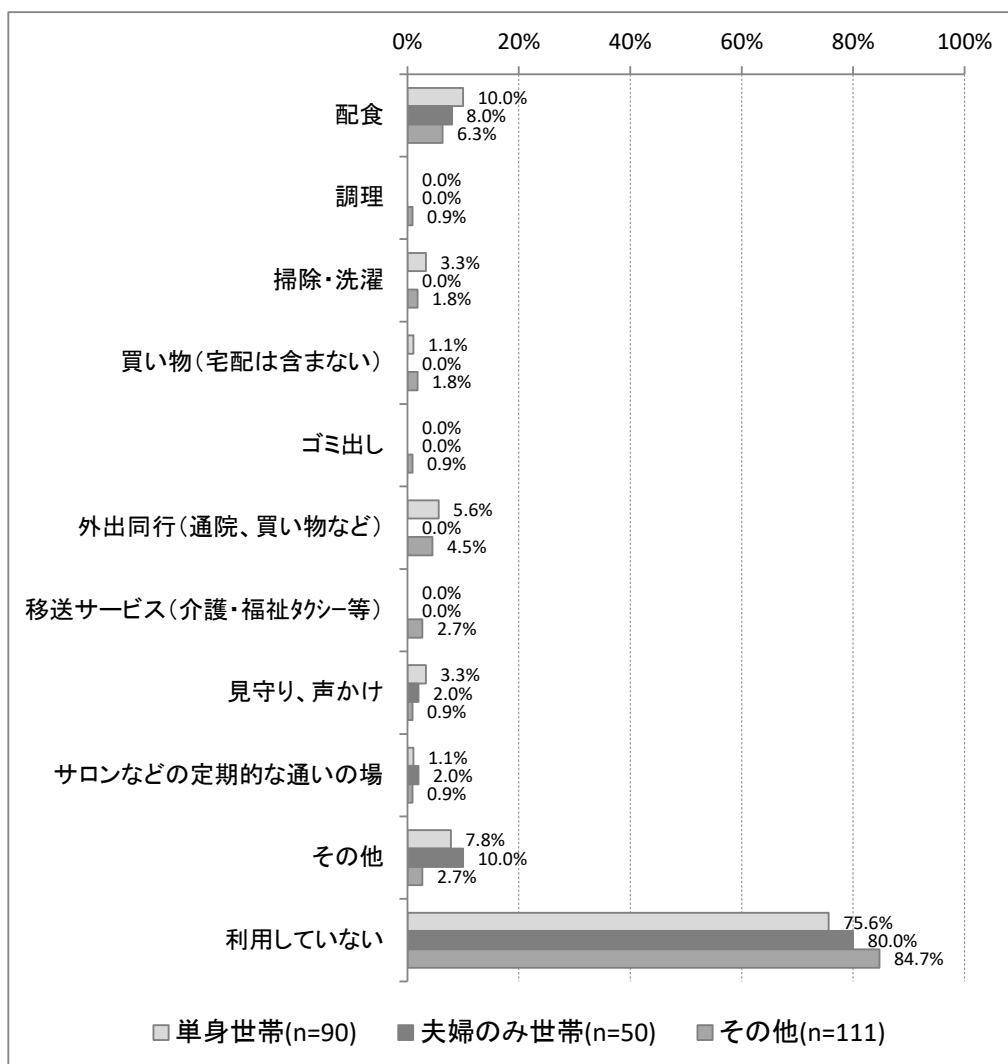
3.2 集計結果の傾向

(1) 世帯類型別の保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、いずれの世帯類型においても「利用していない」の割合が最も高くなっています。

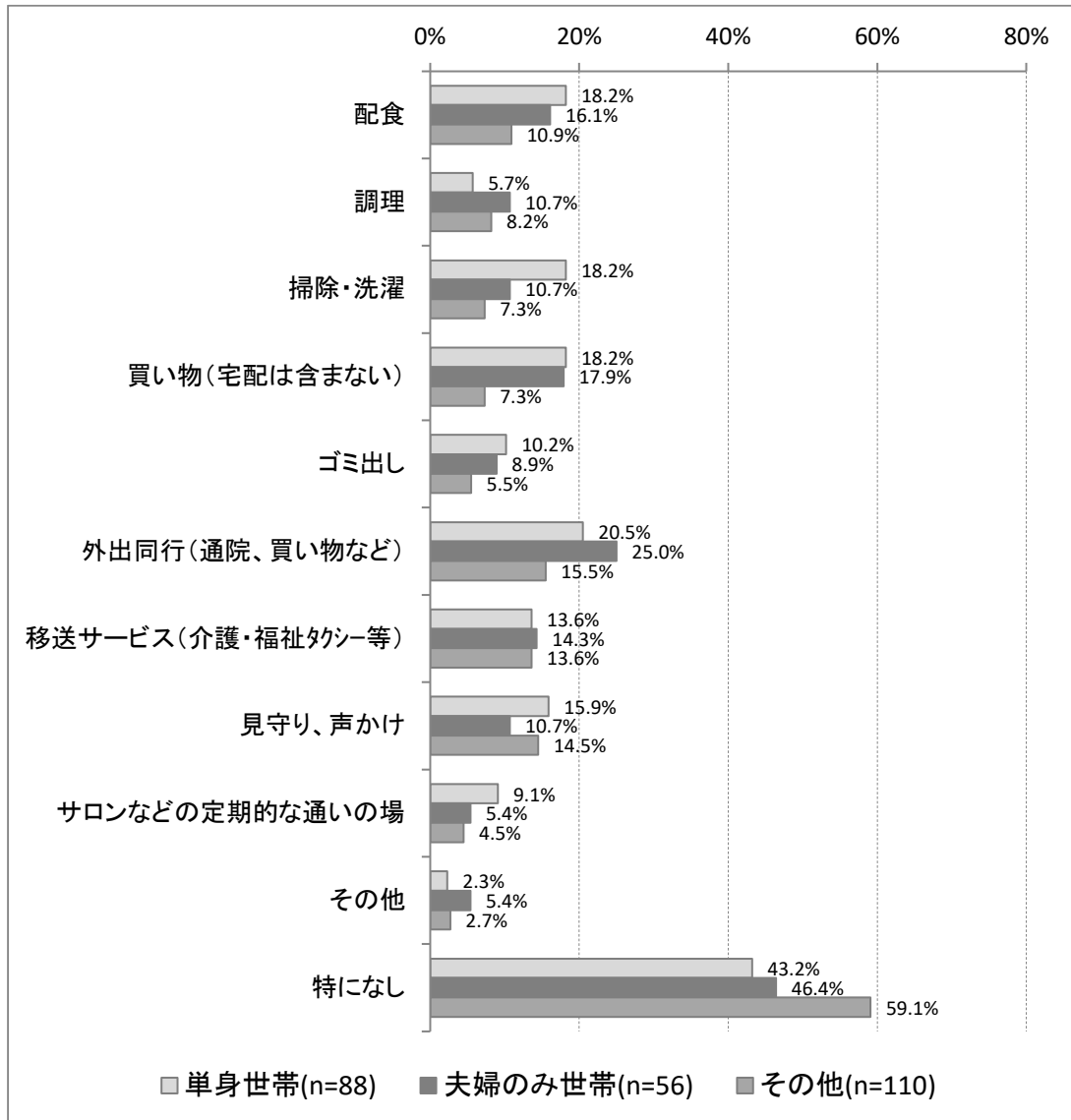
図表 3-1 世帯類型別・保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が43.2%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が20.5%、「配食」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」が18.2%となっています。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が46.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が25.0%、「買い物（宅配は含まない）」が17.9%となっています。「その他」では「特になし」が59.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が15.5%、「見守り、声かけ」が14.5%となっています。

図表 3-2 世帯類型別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

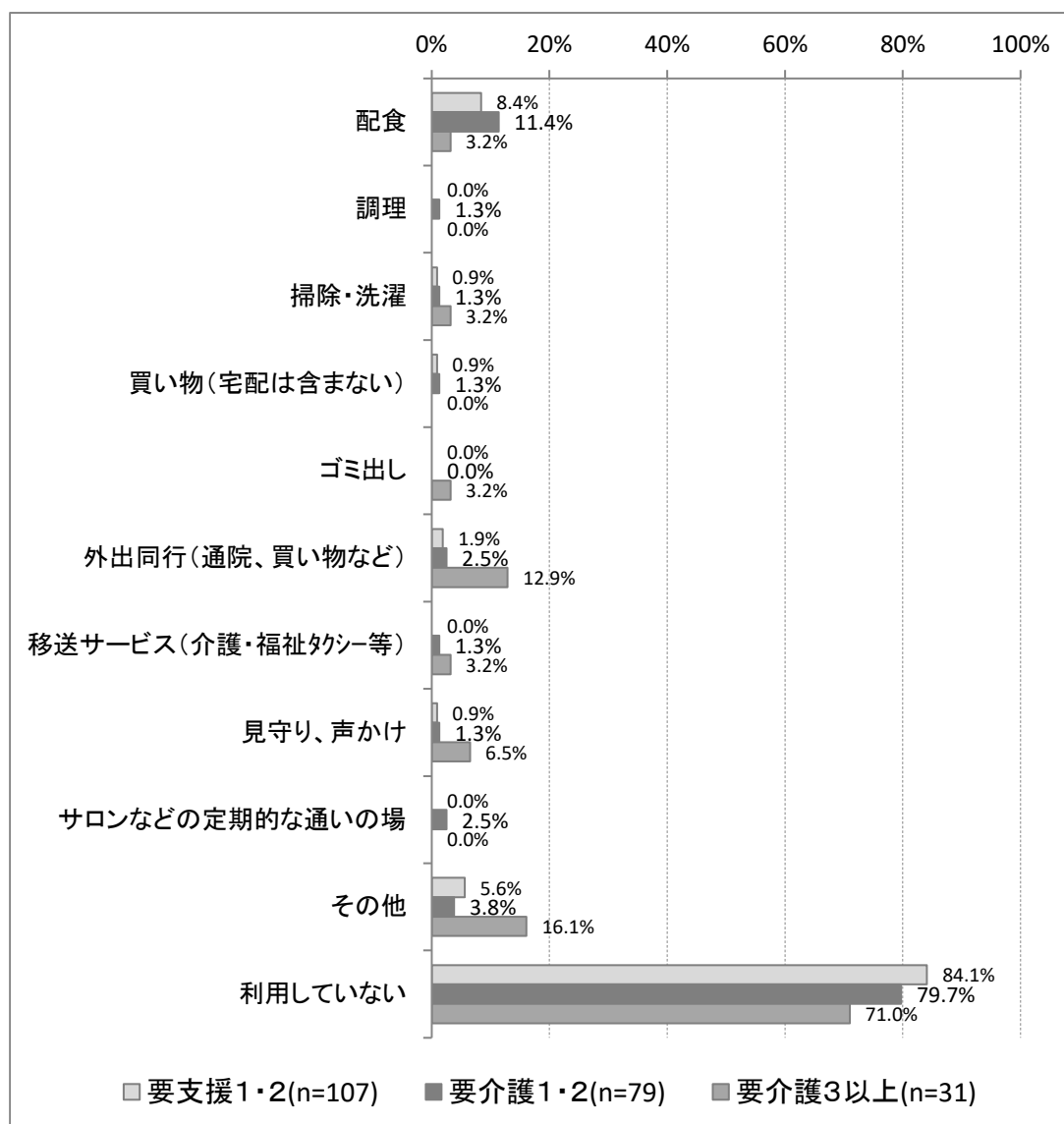


(2) 世帯類型×要介護度×保険外の支援・サービスの利用状況

【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が84.1%と最も割合が高く、次いで「配食」が8.4%、「その他」が5.6%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が79.7%と最も割合が高く、次いで「配食」が11.4%、「その他」が3.8%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が71.0%と最も割合が高く、次いで「その他」が16.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が12.9%となっています。

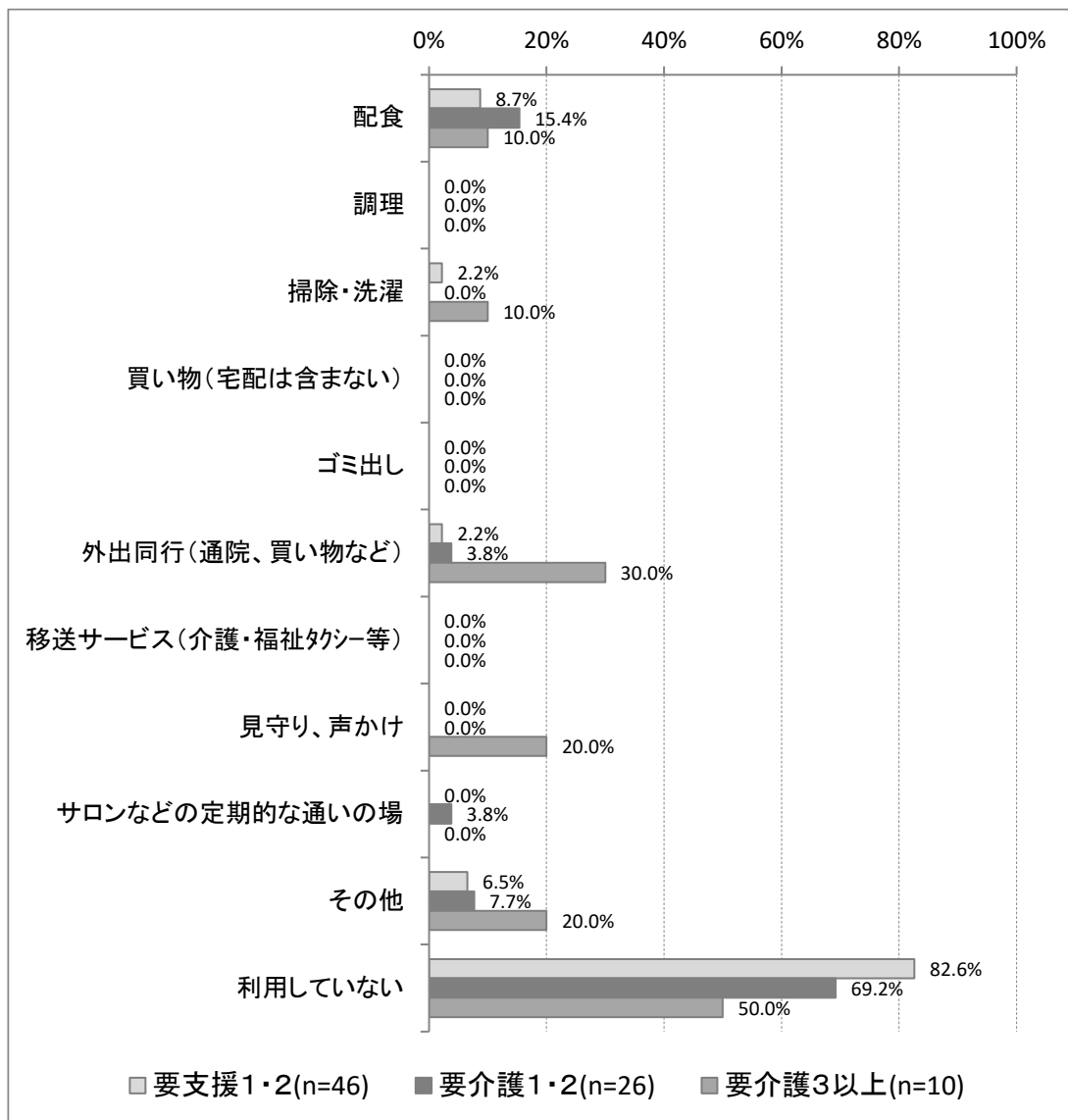
図表 3-3 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）】

単身世帯における、保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が82.6%と最も割合が高く、次いで「配食」が8.7%、「その他」が6.5%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が69.2%と最も割合が高く、次いで「配食」が15.4%、「その他」が7.7%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が30.0%、「見守り、声かけ」、「その他」が20.0%となっています。

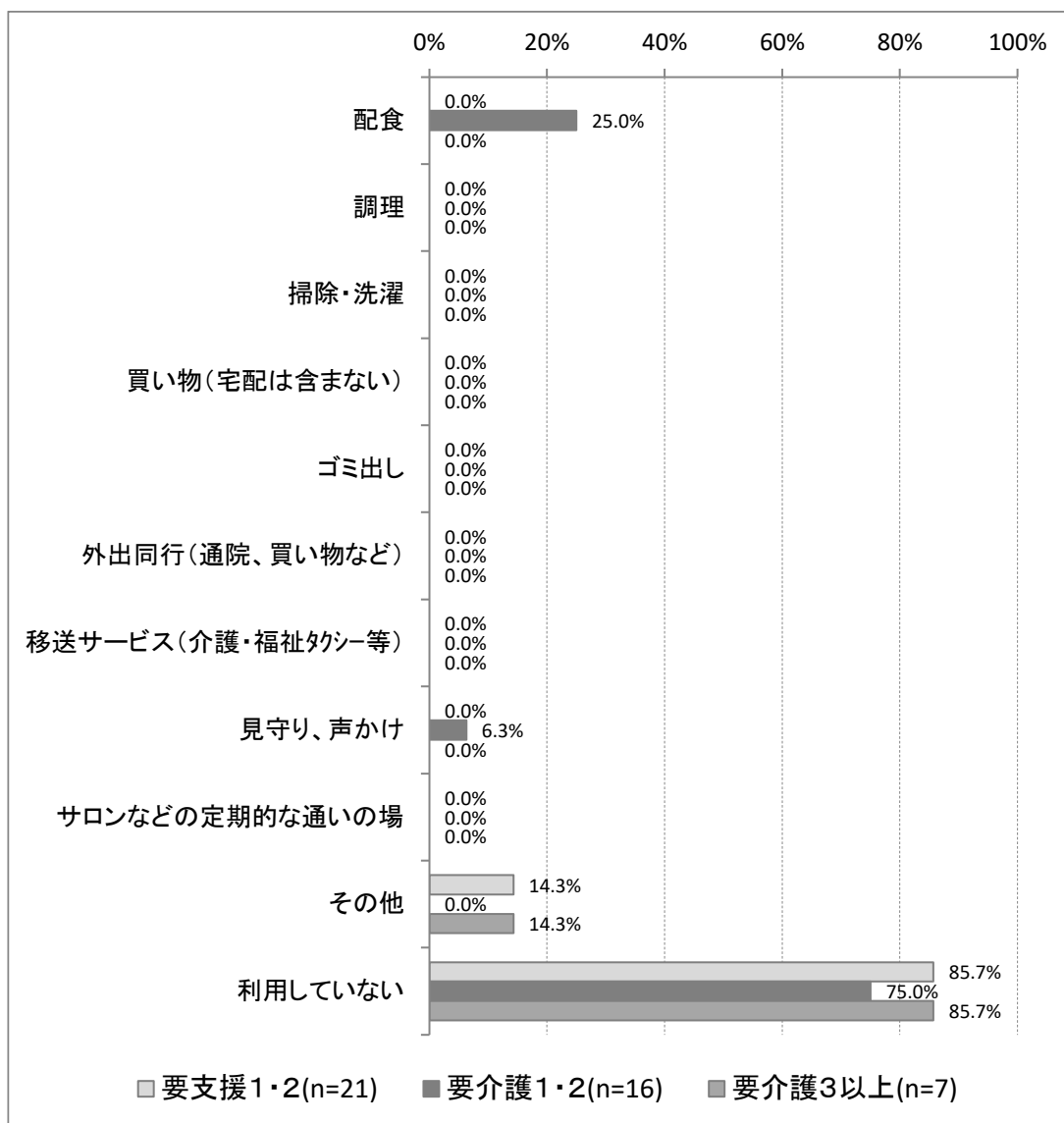
図表 3-4 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（単身世帯）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯における保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が85.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が14.3%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が25.0%、「見守り、声かけ」が6.3%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が85.7%と最も割合が高く、次いで「その他」が14.3%となっています。

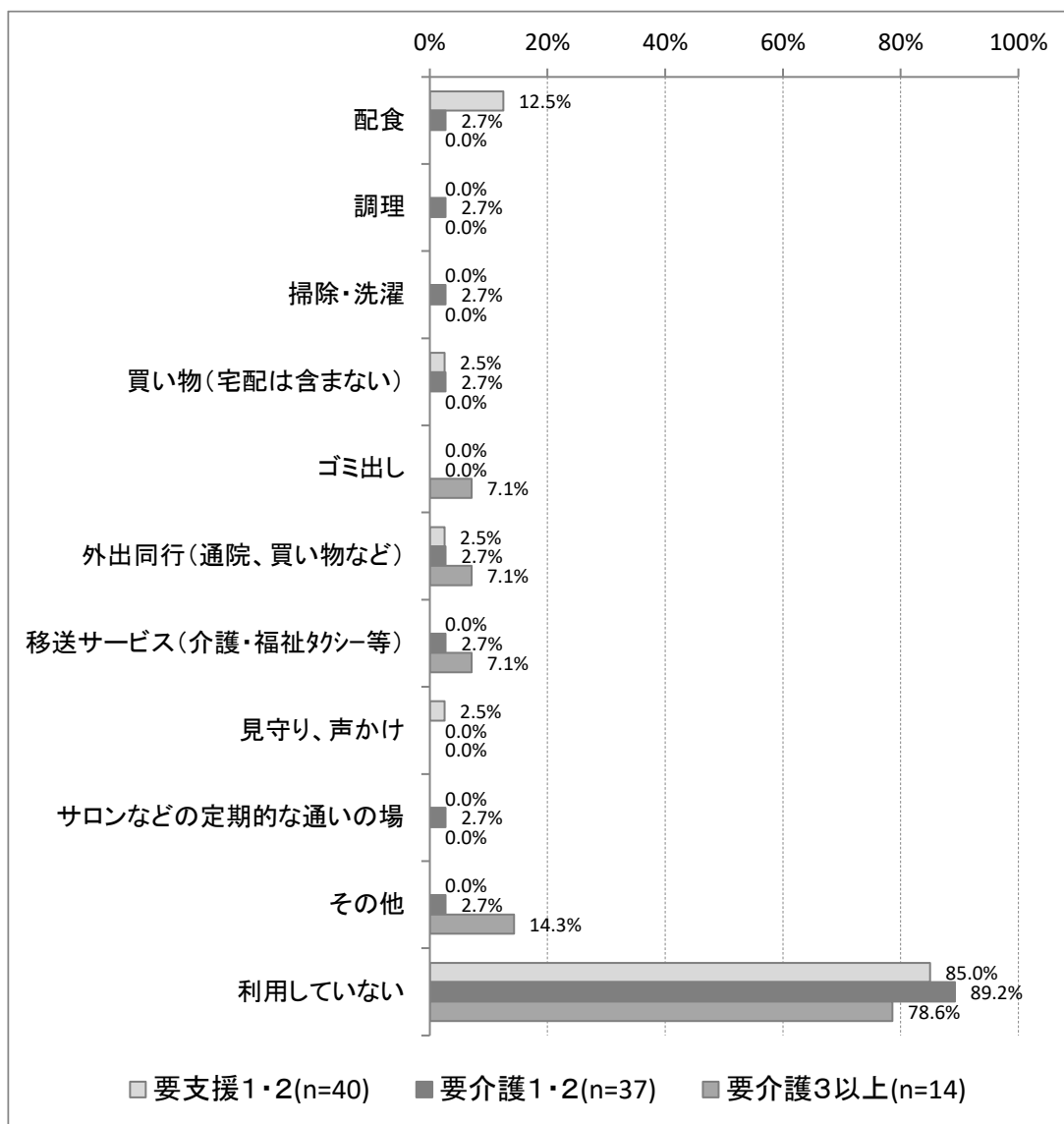
図表 3-5 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）】

その他の世帯における、保険外の支援・サービスの利用状況を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「利用していない」が85.0%と最も割合が高く、次いで「配食」が12.5%、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が2.5%となっています。「要介護1・2」では「利用していない」が89.2%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」が2.7%となっています。「要介護3以上」では「利用していない」が78.6%と最も割合が高く、次いで「その他」が14.3%、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が7.1%となっています。

図表 3-6 要介護度別・保険外の支援・サービスの利用状況（その他世帯）

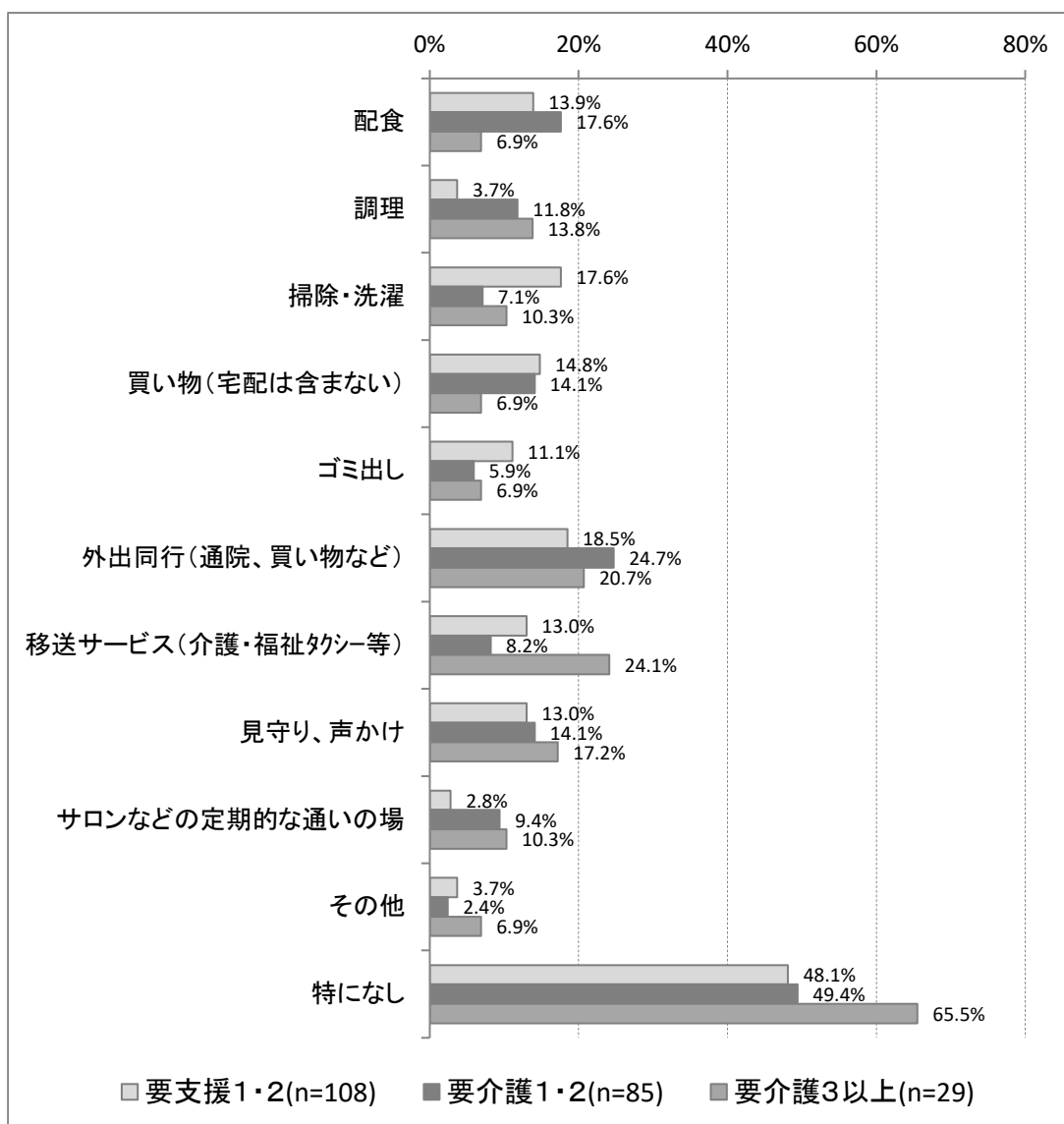


(3) 世帯類型×要介護度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が48.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が18.5%、「掃除・洗濯」が17.6%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が49.4%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が24.7%、「配食」が17.6%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が65.5%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が24.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が20.7%となっています。

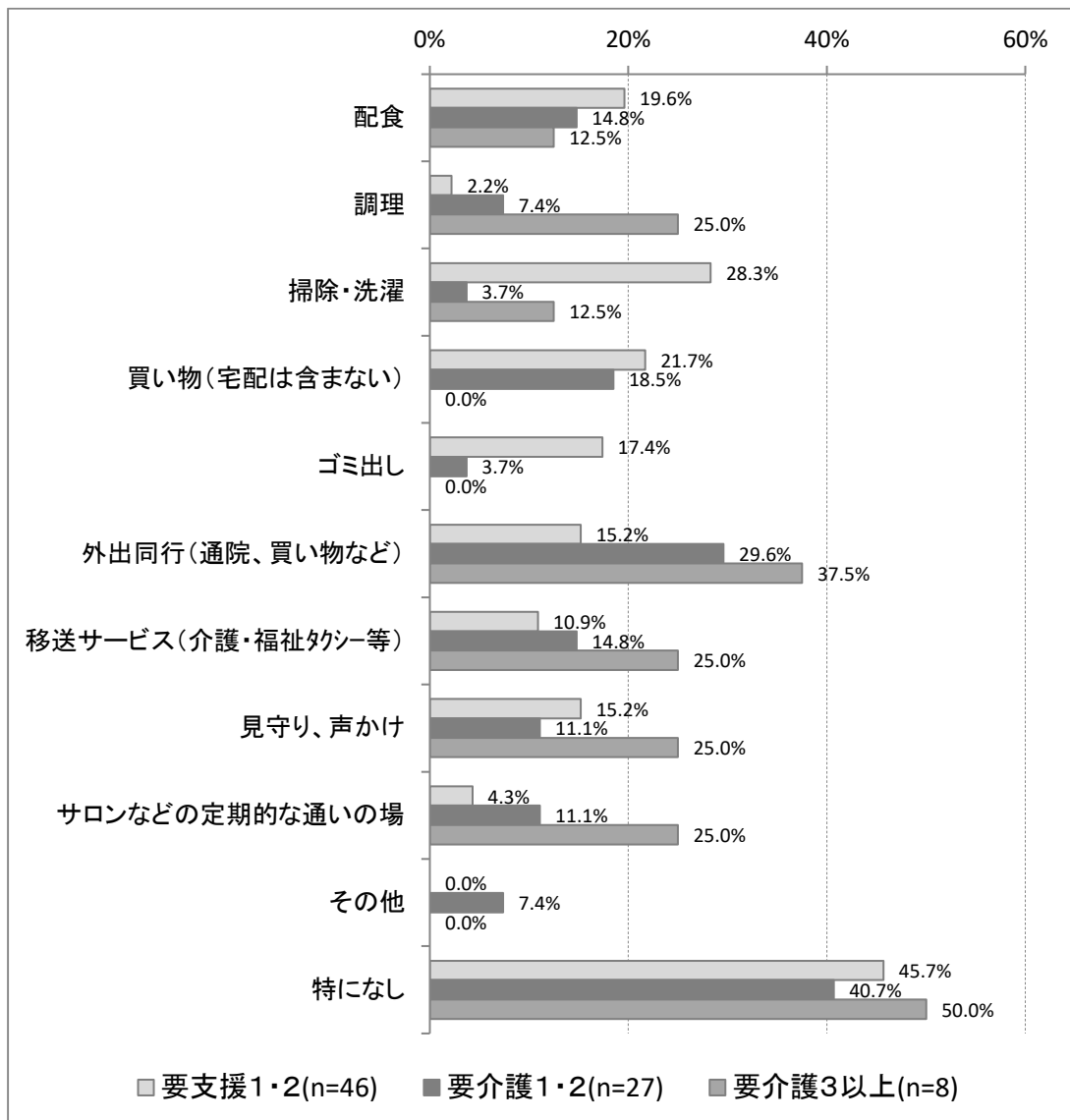
図表 3-7 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）】

単身世帯における、保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が45.7%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」が28.3%、「買い物（宅配は含まない）」が21.7%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が40.7%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が29.6%、「買い物（宅配は含まない）」が18.5%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が37.5%、「調理」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が25.0%となっています。

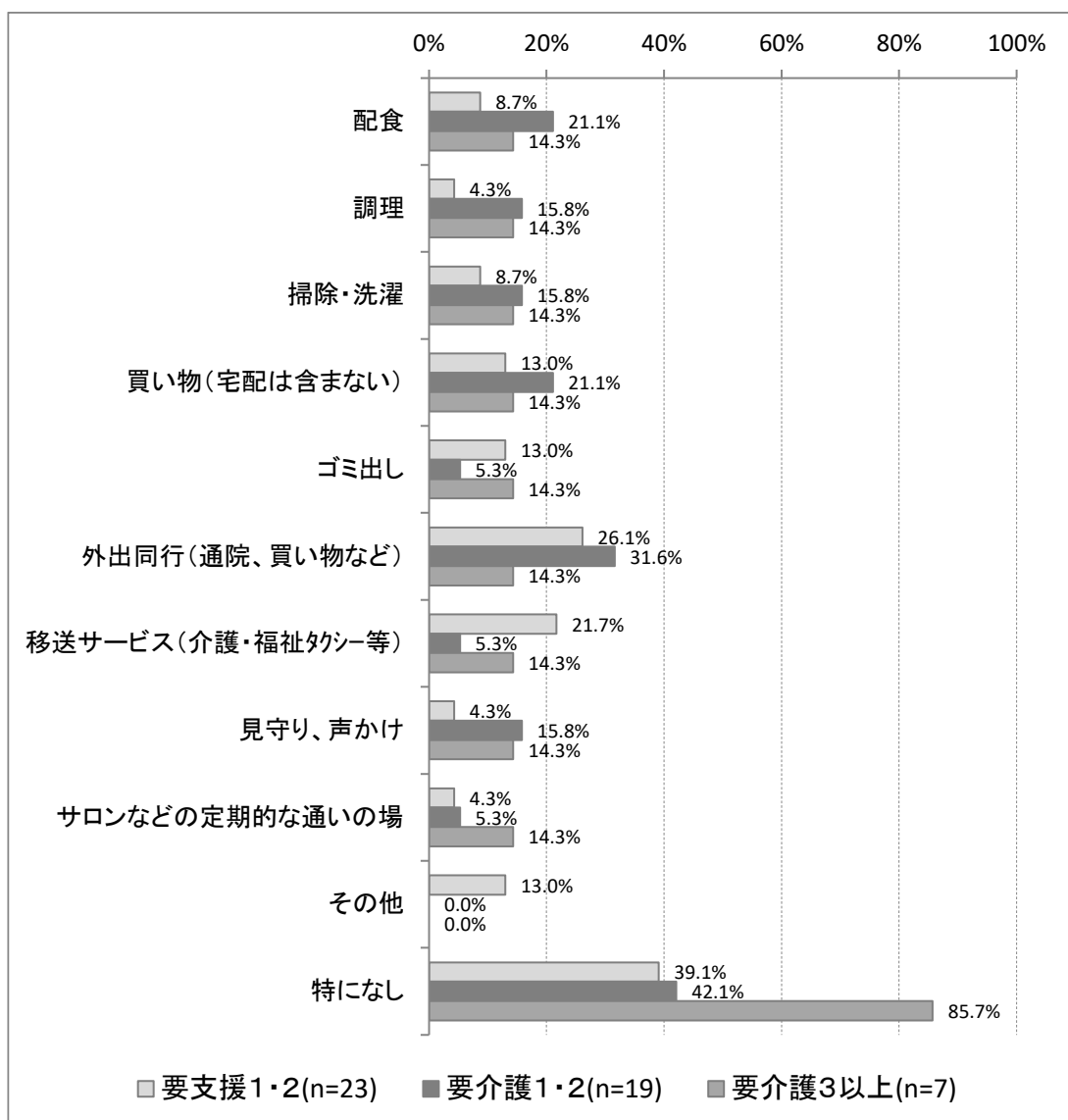
図表 3-8 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯における、保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が39.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が26.1%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が21.7%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が42.1%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が31.6%、「配食」、「買い物（宅配は含まない）」が21.1%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が85.7%と最も割合が高く、次いで「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「サロンなどの定期的な通いの場」が14.3%となっています。

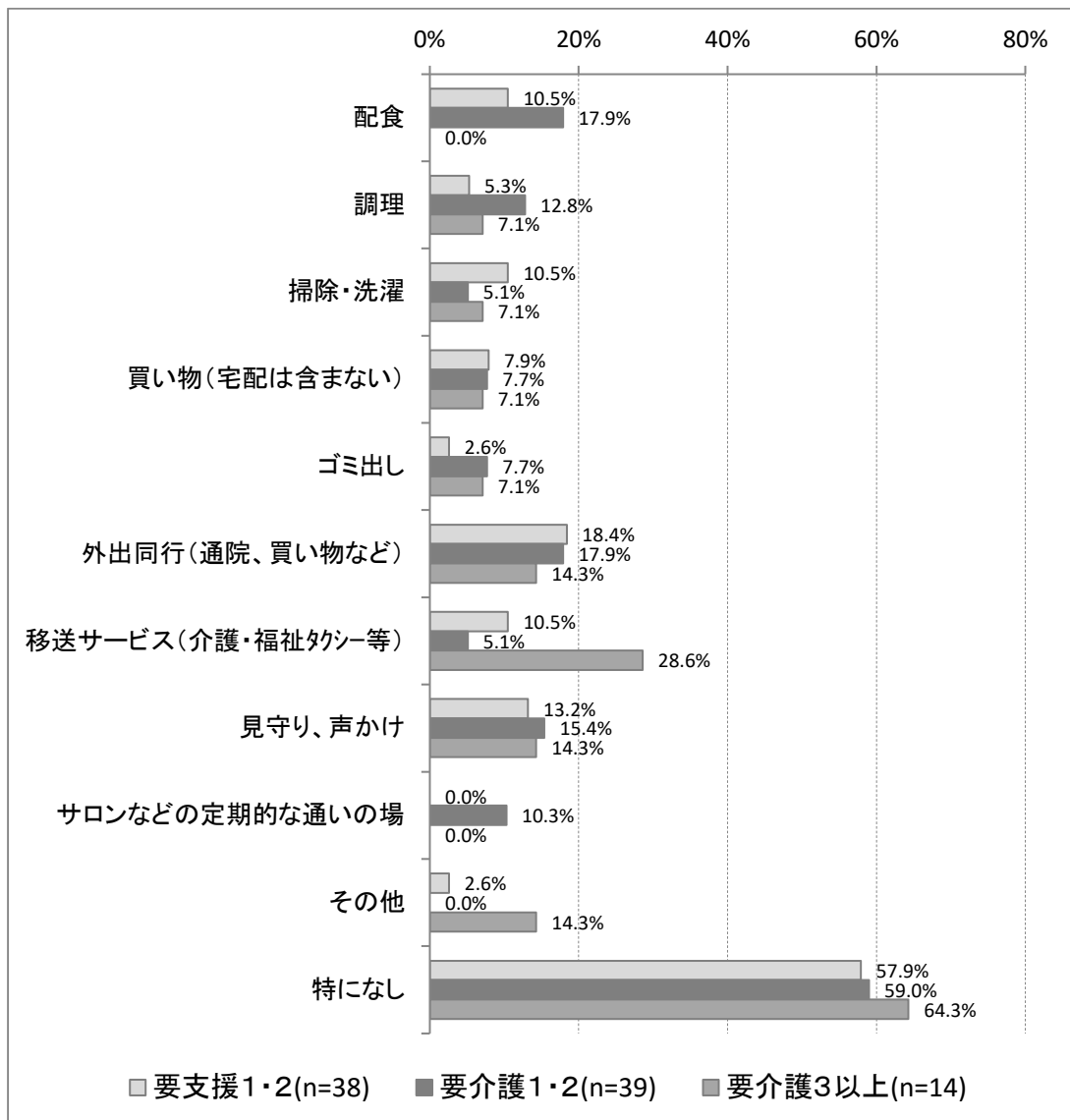
図表 3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）】

その他の世帯における、保険外の支援・サービスの必要性を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「特になし」が57.9%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が18.4%、「見守り、声かけ」が13.2%となっています。「要介護1・2」では「特になし」が59.0%と最も割合が高く、次いで「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が17.9%、「見守り、声かけ」が15.4%となっています。「要介護3以上」では「特になし」が64.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が28.6%、「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」、「その他」が14.3%となっています。

図表 3-10 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）



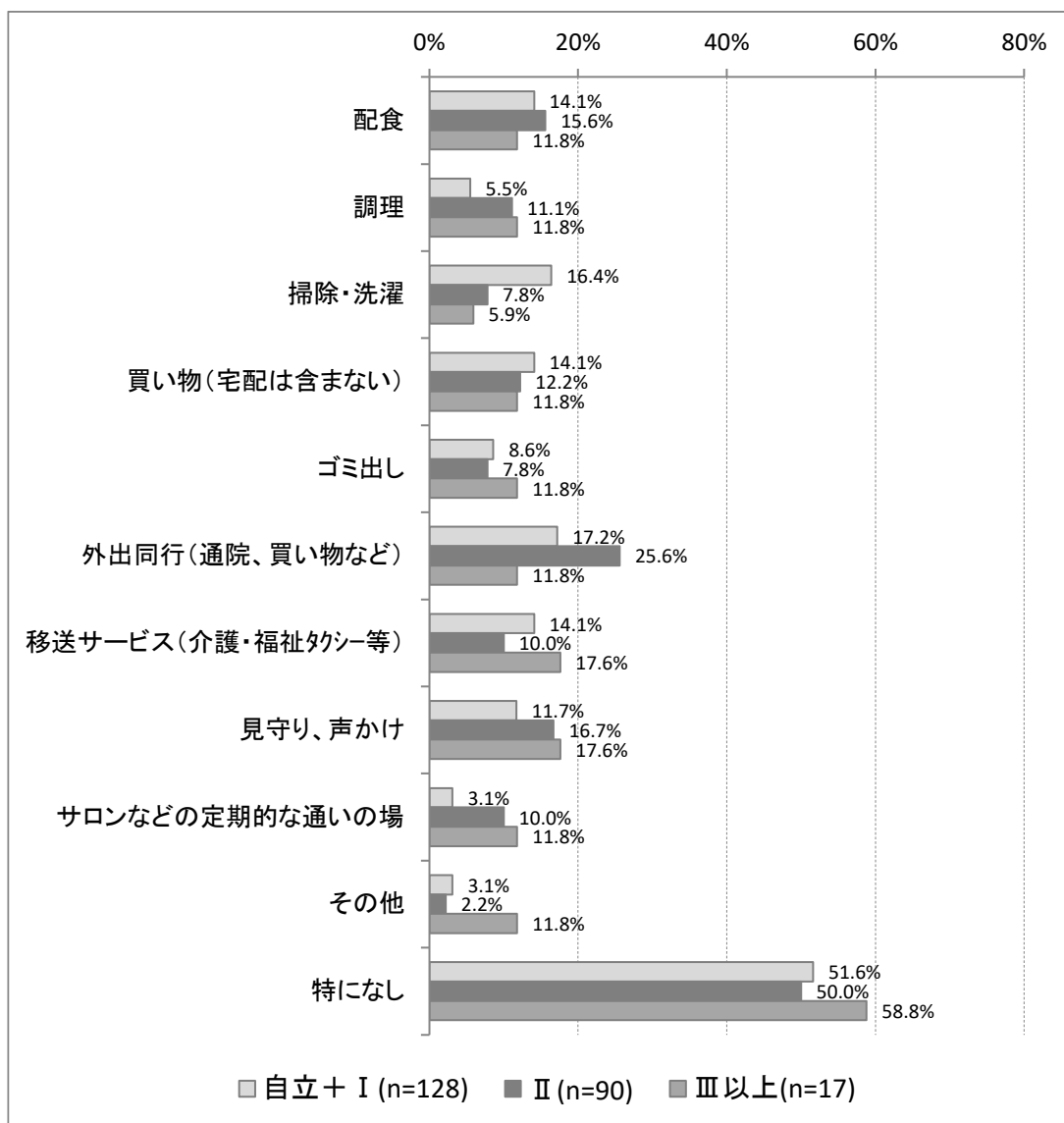
(4) 認知症自立度×在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「特になし」が51.6%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が17.2%、「掃除・洗濯」が16.4%となっています。「Ⅱ」では「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が25.6%、「見守り、声かけ」が16.7%となっています。

「Ⅲ以上」では「特になし」が58.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が17.6%、「配食」、「調理」、「買い物（宅配は含まない）」、「ゴミ出し」、「外出同行（通院、買い物など）」、「サロンなどの定期的な通いの場」、「その他」が11.8%となっています。

図表 3-11 認知症自立度別の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。

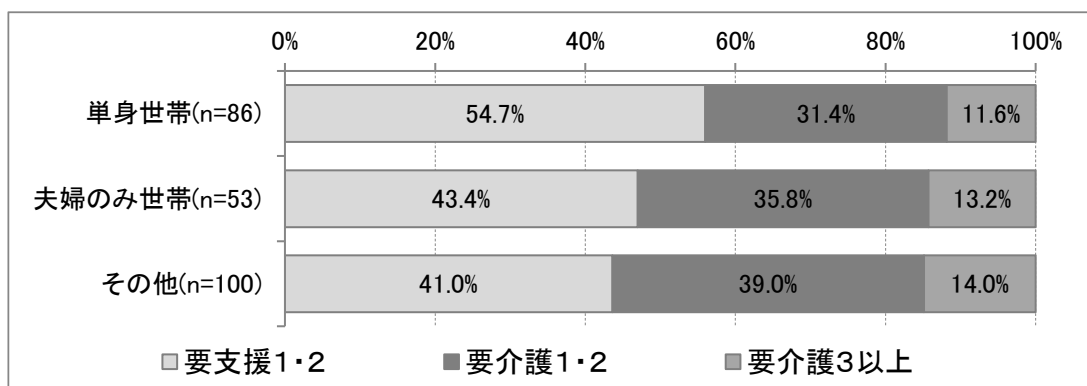
4.2 集計結果の傾向

(1) 世帯類型別の要介護度

【世帯類型別・要介護度】

本人の要介護度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要支援1・2」が54.7%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が31.4%、「要介護3以上」が11.6%となっています。「夫婦のみ世帯」では「要支援1・2」が43.4%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が35.8%、「要介護3以上」が13.2%となっています。「その他」では「要支援1・2」が41.0%と最も割合が高く、次いで「要介護1・2」が39.0%、「要介護3以上」が14.0%となっています。

図表 4-1 世帯類型別・要介護度

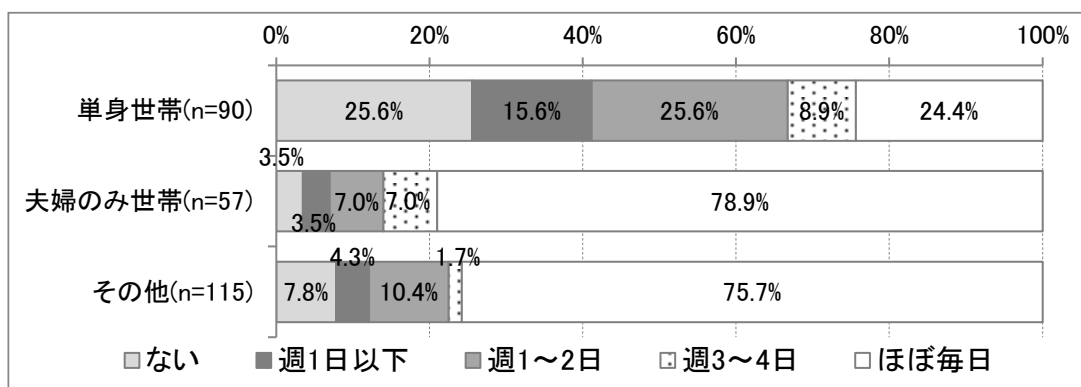


(2) 世帯類型別の家族等による介護の頻度

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ない」、「週1～2日」が25.6%と最も割合が高く、次いで「ほぼ毎日」が24.4%、「週1日以下」が15.6%となっています。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が78.9%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」、「週3～4日」が7.0%、「ない」、「週1日以下」が3.5%となっています。「その他」では「ほぼ毎日」が75.7%と最も割合が高く、次いで「週1～2日」が10.4%、「ない」が7.8%となっています。

図表 4-2 世帯類型別・家族等による介護の頻度

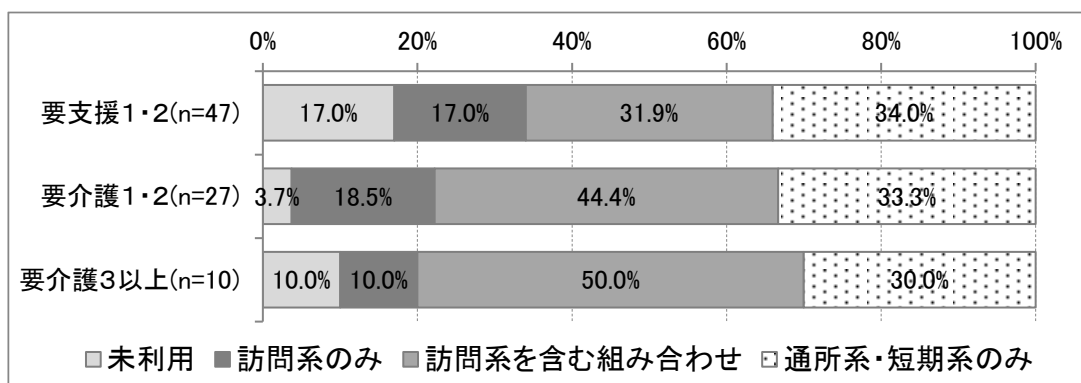


(3) 要介護度別・認知症自立度別の世帯類型別のサービス利用の組み合わせ

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

単身世帯における、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が34.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.9%、「未利用」、「訪問系のみ」が17.0%となっています。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」が44.4%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.3%、「訪問系のみ」が18.5%となっています。「要介護3以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.0%、「未利用」、「訪問系のみ」が10.0%となっています。

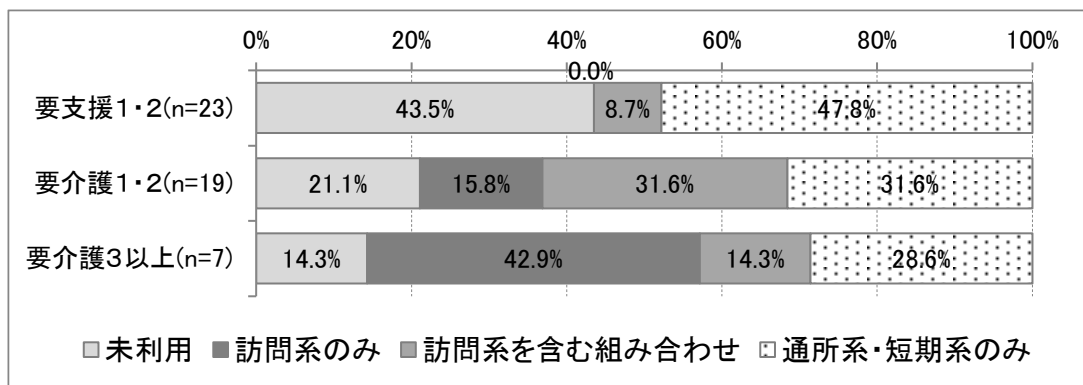
図表 4-3 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯における、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が47.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が43.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が8.7%となっています。「要介護1・2」では「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が31.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が21.1%、「訪問系のみ」が15.8%となっています。「要介護3以上」では「訪問系のみ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が28.6%、「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が14.3%となっています。

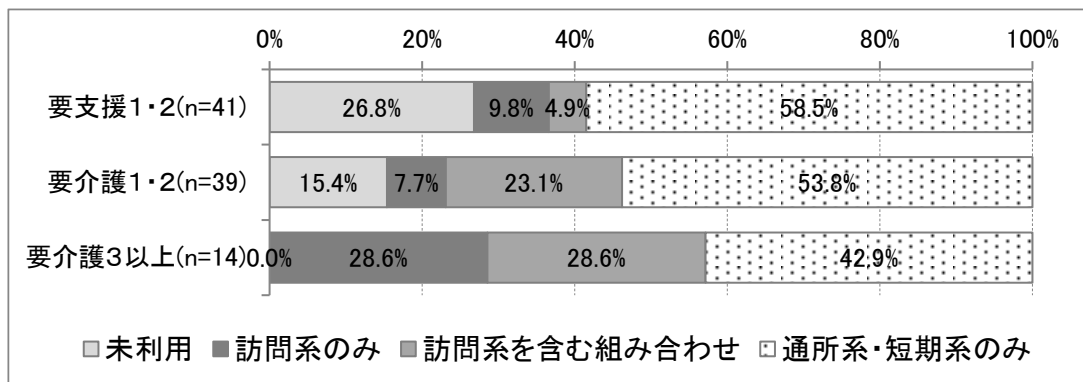
図表 4-4 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

その他世帯における、サービス利用の組み合わせを要介護度別にみると、「要支援1・2」では「通所系・短期系のみ」が58.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が26.8%、「訪問系のみ」が9.8%となっています。「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が53.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が23.1%、「未利用」が15.4%となっています。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が42.9%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が28.6%となっています。

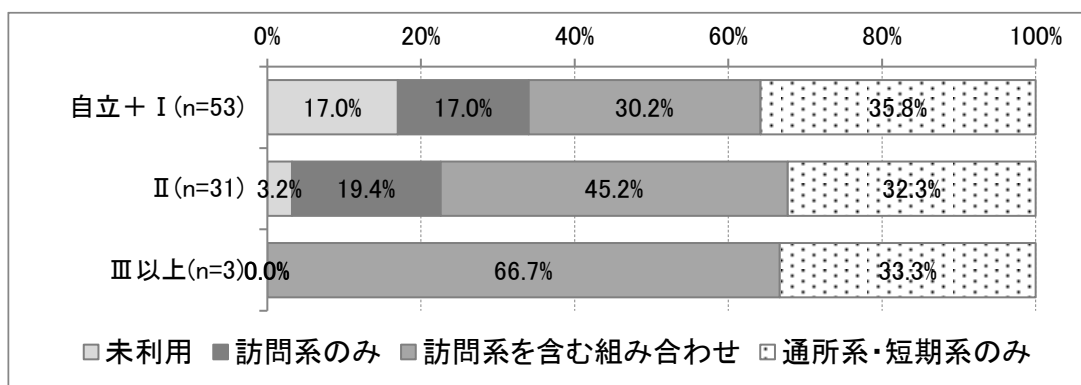
図表 4-5 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）】

単身世帯における、サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が35.8%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が30.2%、「未利用」、「訪問系のみ」が17.0%となっています。「Ⅱ」では「訪問系を含む組み合わせ」が45.2%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が32.3%、「訪問系のみ」が19.4%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問系を含む組み合わせ」が66.7%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が33.3%となっています。

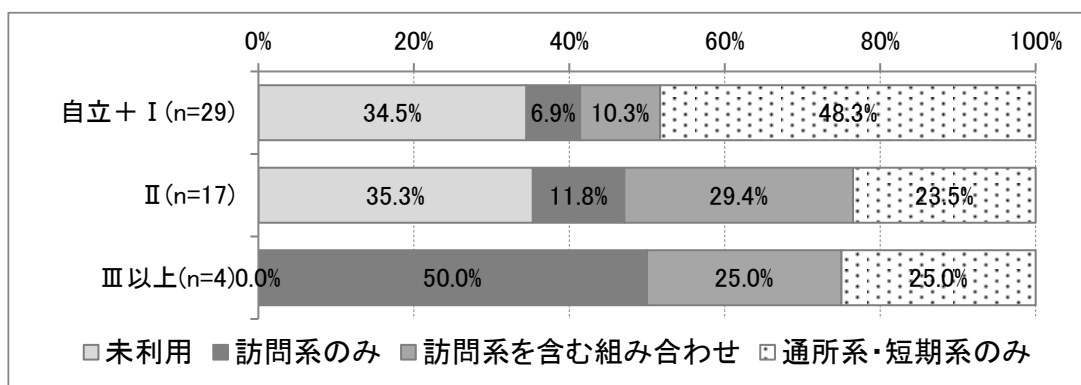
図表 4-6 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

夫婦のみ世帯におけるサービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が48.3%と最も割合が高く、次いで「未利用」が34.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が10.3%となっています。「Ⅱ」では「未利用」が35.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が29.4%、「通所系・短期系のみ」が23.5%となっています。「Ⅲ以上」では「訪問系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が25.0%となっています。

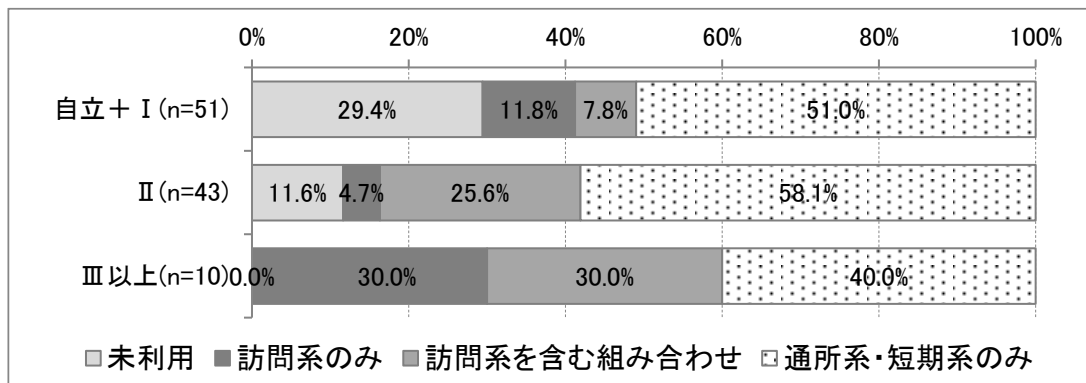
図表 4-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

その他の世帯におけるサービス利用の組み合わせを、認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「通所系・短期系のみ」が51.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が29.4%、「訪問系のみ」が11.8%となっています。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が58.1%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が25.6%、「未利用」が11.6%となっています。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が40.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、

図表 4-8 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

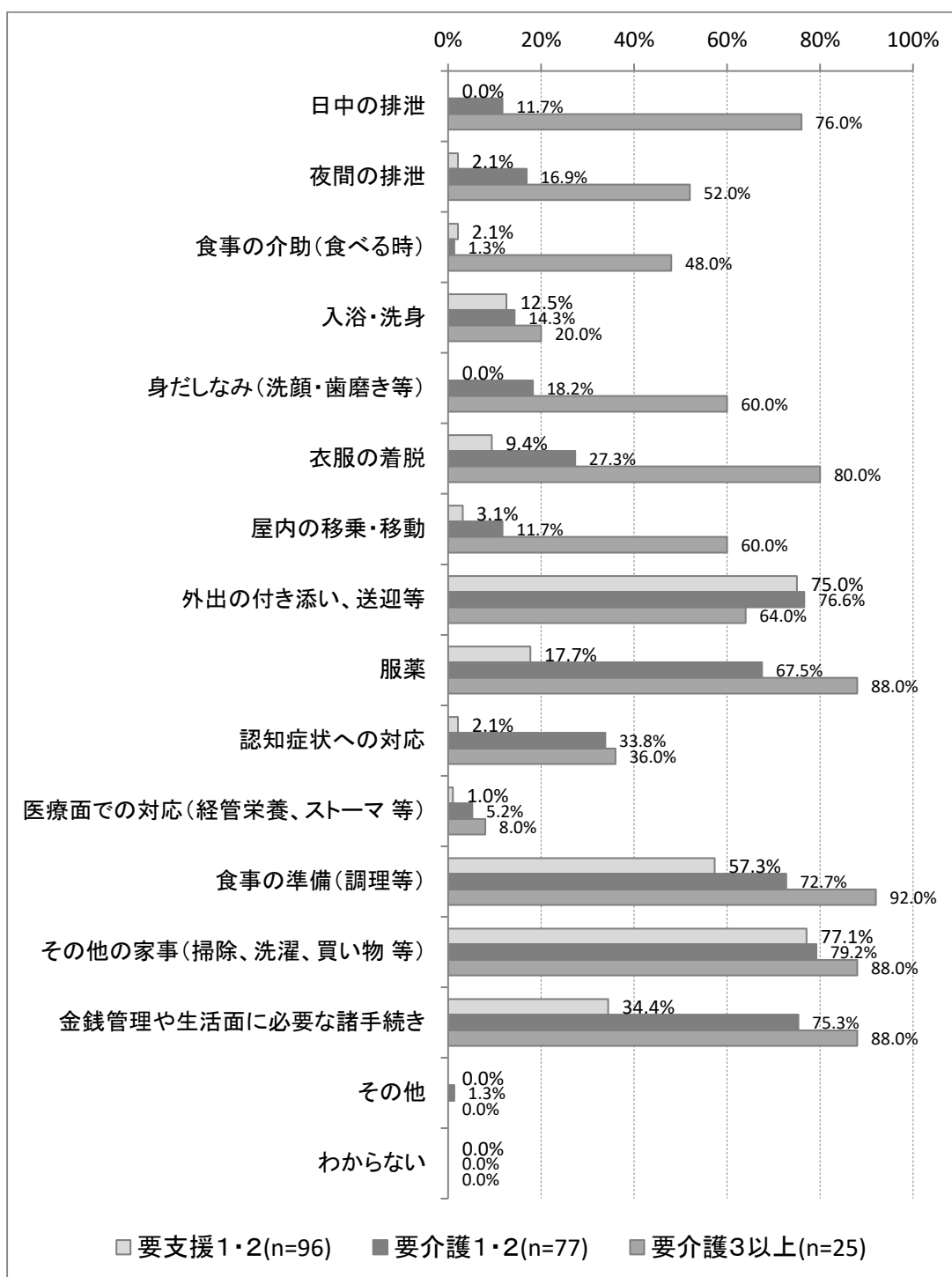
5.2 集計結果の傾向

(1) 要介護度別の主な介護者が行っている介護

【要介護度別・主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が77.1%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が75.0%、「食事の準備（調理等）」が57.3%となっています。「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が79.2%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が76.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が75.3%となっています。「要介護3以上」では「食事の準備（調理等）」が92.0%と最も割合が高く、次いで「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が88.0%、「衣服の着脱」が80.0%となっています。

図表 5-1 要介護度別・主な介護者が行っている介護

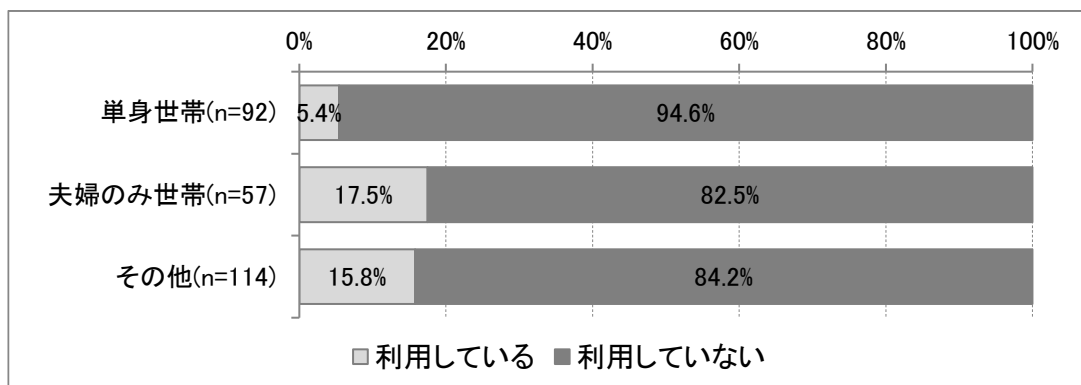


(2) 世帯類型別、要介護度別の訪問診療の利用割合

【世帯類型別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が94.6%と最も割合が高く、次いで「利用している」が5.4%となっています。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が82.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が17.5%となっています。「その他」では「利用していない」が84.2%と最も割合が高く、次いで「利用している」が15.8%となっています。

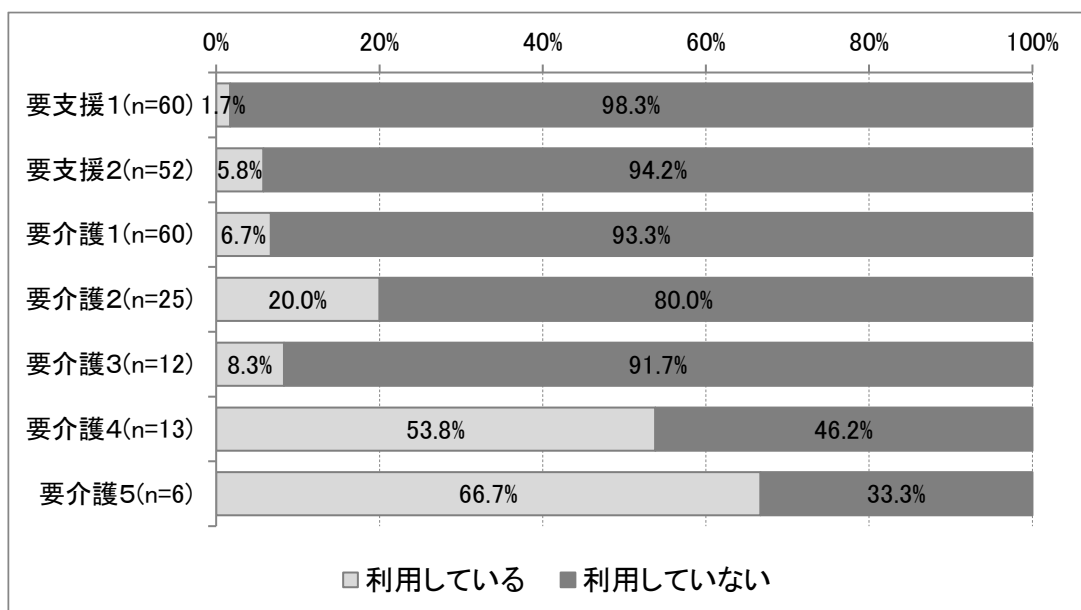
図表 5-2 世帯類型別・訪問診療の利用割合



【要介護度別・訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を要介護度別にみると、「要支援1」から「要介護3」では「利用していない」が8割以上を占めています。一方、「要介護4」では「利用している」が53.8%、「要介護5」では「利用している」が66.7%となっており、利用している割合が過半数を占めています。

図表 5-3 要介護度別・訪問診療の利用割合

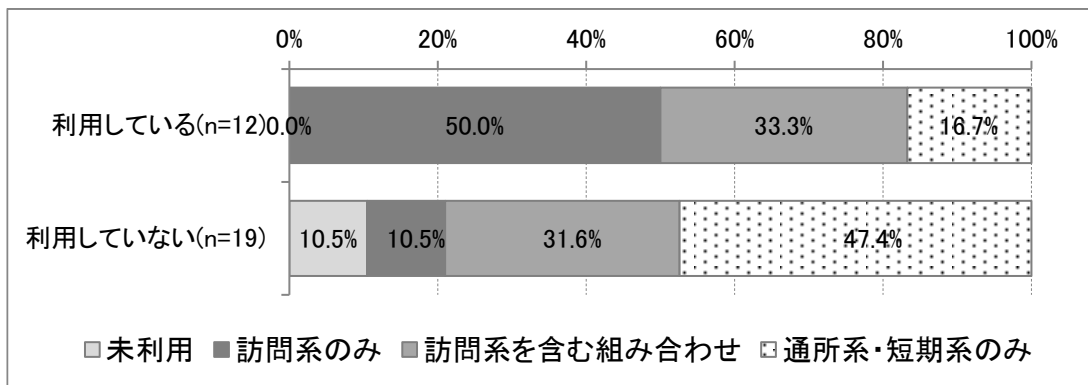


(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

【訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

要介護3以上における、サービス利用の組み合わせを、訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を「利用している」では「訪問系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%、「通所系・短期系のみ」が16.7%となっています。訪問診療を「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が47.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が31.6%、「未利用」、「訪問系のみ」が10.5%となっています。

図表 5-4 訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）

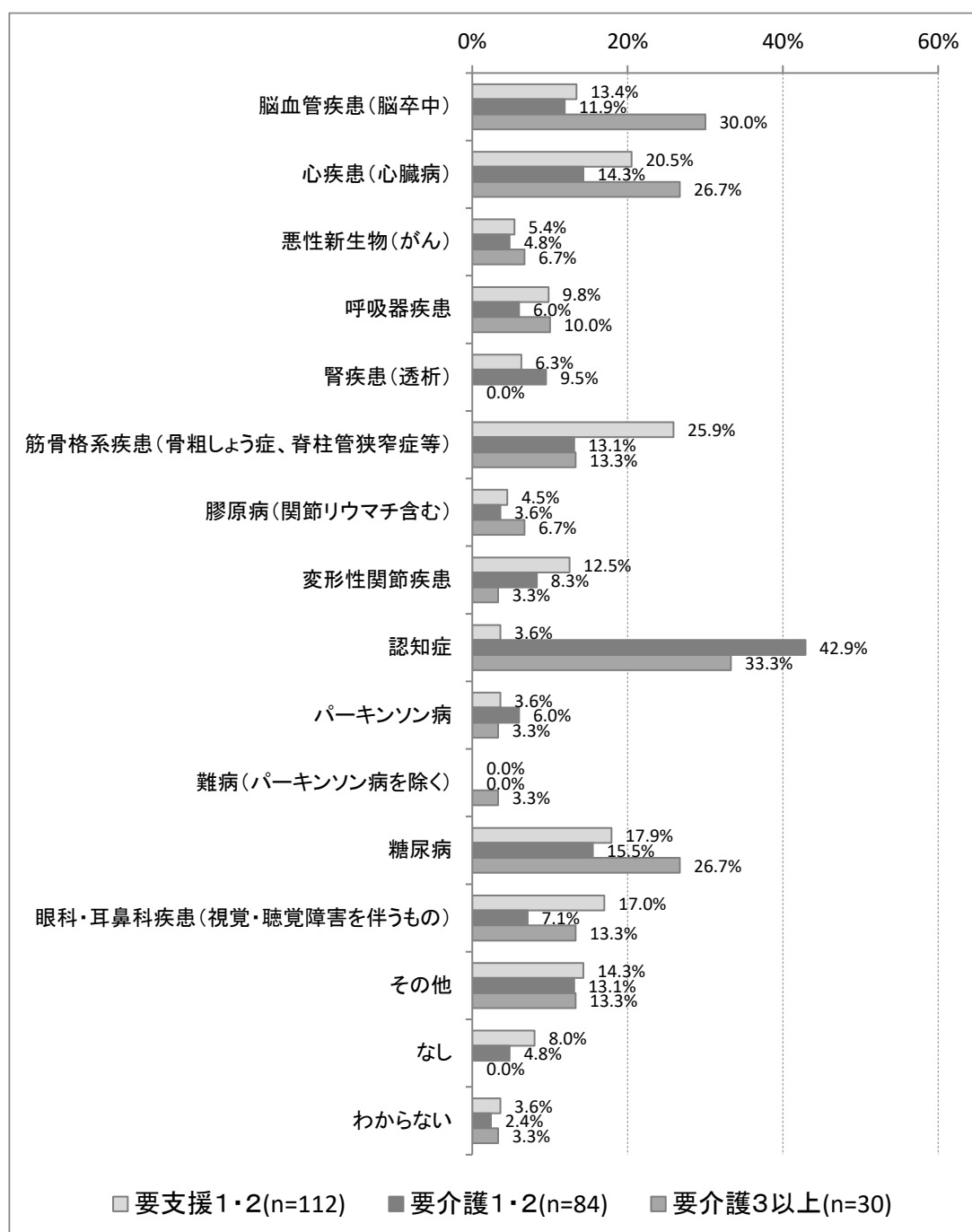


(4) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・抱えている傷病】

抱えている傷病を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が25.9%と最も割合が高く、次いで「心疾患（心臓病）」が20.5%、「糖尿病」が17.9%となっています。「要介護1・2」では「認知症」が42.9%と最も割合が高く、次いで「糖尿病」が15.5%、「心疾患（心臓病）」が14.3%となっています。「要介護3以上」では「認知症」が33.3%と最も割合が高く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が30.0%、「心疾患（心臓病）」、「糖尿病」が26.7%となっています。

図表 5-5 要介護度別・抱えている傷病

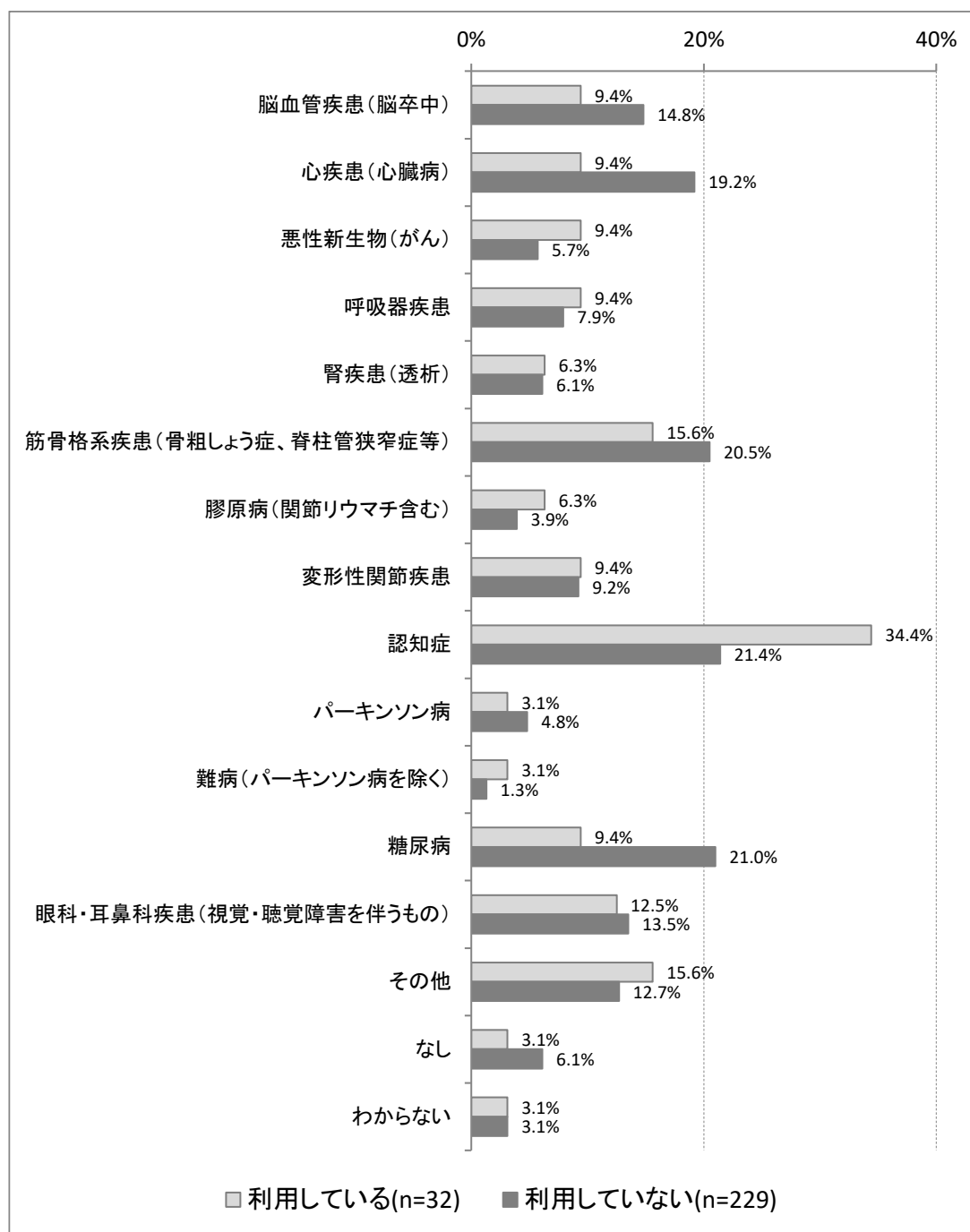


(5) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、訪問診療を「利用している」では「認知症」が34.4%と最も割合が高く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「その他」が15.6%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が12.5%となっています。訪問診療を「利用していない」では「認知症」が21.4%と最も割合が高く、次いで「糖尿病」が21.0%、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が20.5%となっています。

図表 5-6 訪問診療の利用の有無別・抱えている傷病



6 サービス未利用の理由など

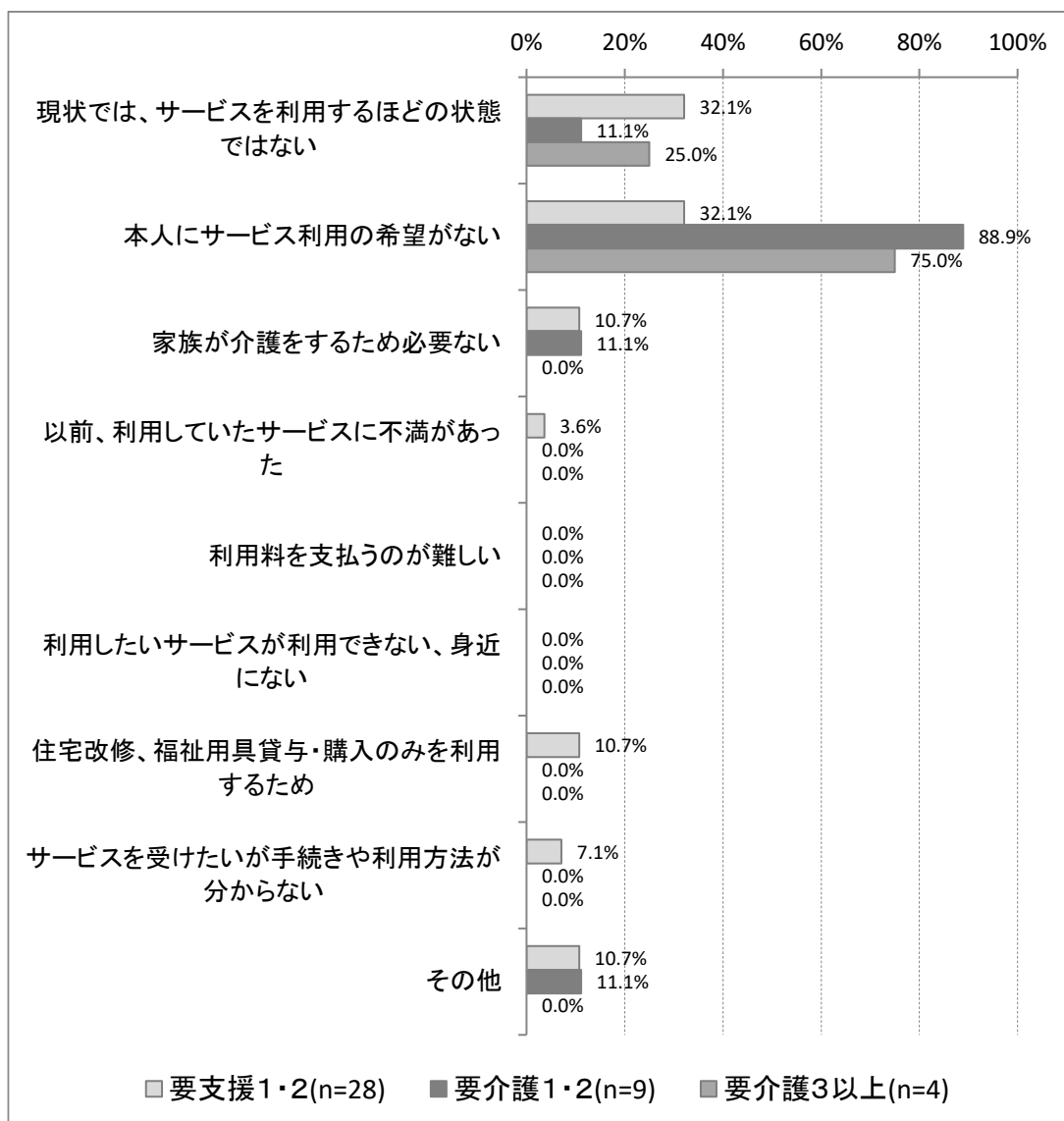
6.1 集計結果の傾向

(1) 要介護度別のサービス未利用の理由

【要介護度別のサービス未利用の理由】

サービス未利用の理由を要介護度別にみると、「要支援1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が32.1%と最も割合が高く、次いで「家族が介護をするため必要ない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「その他」が10.7%となっています。「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」が88.9%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」、「その他」が11.1%、「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が25.0%となっています。

図表 6-1 要介護度別のサービス未利用の理由

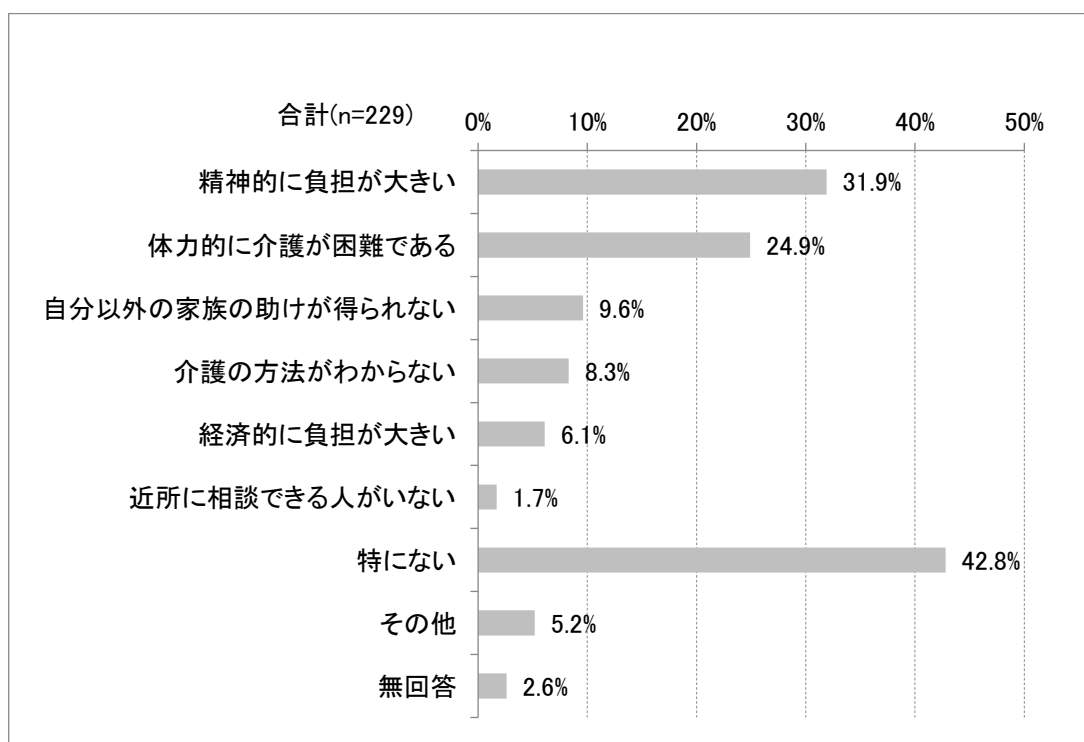


IV 独自設問

B票：問5 介護を行う上で困っていることは何ですか。（3つまで選択可）

介護を行う上で困っていることをみると、「特にない」が42.8%と最も割合が高く、次いで「精神的に負担が大きい」が31.9%、「体力的に介護が困難である」が24.9%、「自分以外の家族の助けが得られない」が9.6%、「介護の方法がわからない」が8.3%、「経済的に負担が大きい」が6.1%、「近所に相談できる人がいない」が1.7%となっています。

図表 介護を行う上で困っていること



A票の問7で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」と回答したかたのみ

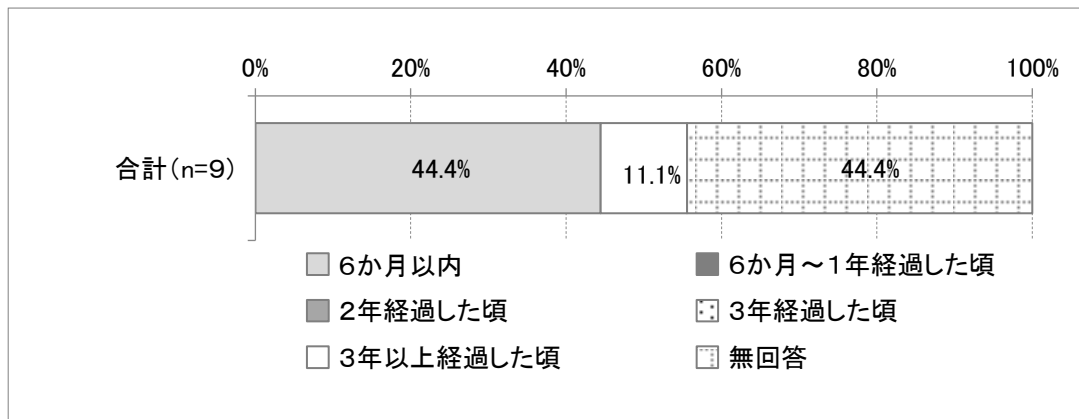
B票：問7 仕事を辞めようと思ったのは、介護が必要になった時期からどれくらい経過した頃になりますか。（1つを選択）

主な介護者が仕事を辞めたと回答した人が、仕事を辞めようと思った時期についてみると、介護が必要になってから「6カ月以内」が44.4%、「3年以上経過した頃」が11.1%となっています。

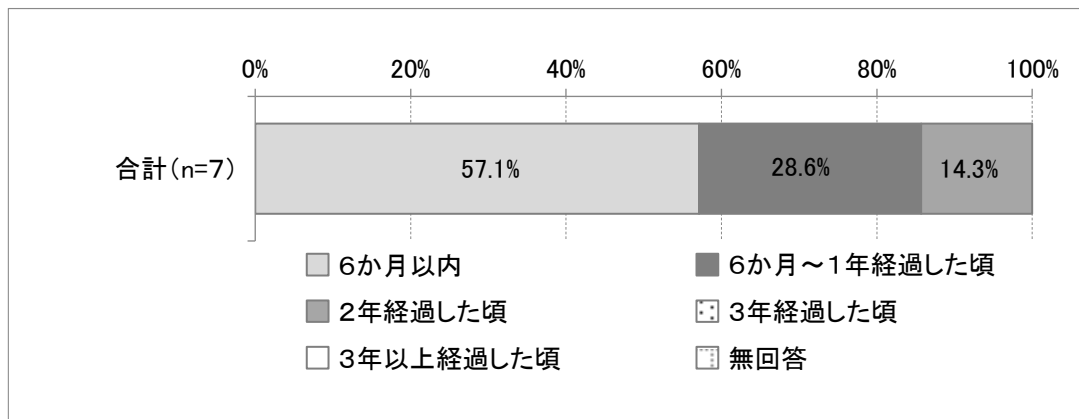
前回調査と比較すると、「6カ月以内」、「6か月～1年経過した頃」の割合が減少しています。

図表 仕事を辞めようと思った時期

【令和5年度調査】



【令和2年度調査】



A票の問7で「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」と回答したかたのみ

B票：問8 仕事を継続していくためにはどのような支援があればよいと思われましたか。
(複数選択可)

主な介護者が仕事を辞めたと回答した人が、仕事を継続していくために必要な支援についてみると、「自分以外の家族の協力・支援」が33.3%と最も高く、次いで「介護休業」、「その他」が11.1%となっています。

図表 仕事を継続していくために必要な支援

